太田市外三町広域一般廃棄物処理施設整備事業に係る

環境影響評価 事後調査報告書
（工事による影響）

令和３年９月

太田市外三町広域清掃組合

目　　次

第１章　事業者の氏名及び住所……………………………………………… 1- 1
　1　事業者の名称及び代表者の氏名………………………………………… 1- 1
　2　事業者の主たる事務所の所在地………………………………………… 1- 1

第２章　対象事業の目的及び内容…………………………………………… 2- 1
　1　事業の名称………………………………………………………………… 2- 1
　2　事業の目的………………………………………………………………… 2- 1
　3　事業の種類………………………………………………………………… 2- 1
　4　事業の位置………………………………………………………………… 2- 1
　5　事業の規模………………………………………………………………… 2- 1
　6　施設計画の内容 ………………………………………………………… 2- 3
　　6.1　土地利用計画………………………………………………………… 2- 3
　　6.2　施設整備計画の概要………………………………………………… 2- 4
　7　施設計画の変更内容……………………………………………………… 2- 5
　8　対象事業の実施状況……………………………………………………… 2- 5
　9　環境の保全のための措置の実施状況…………………………………… 2- 6

第３章　事後調査の項目及び手法…………………………………………… 3- 1

第４章　事後調査の結果……………………………………………………… 4- 1
　1　工事計画確認調査………………………………………………………… 4- 1
　2　発生源強度確認調査……………………………………………………… 4- 5
　　2.1　重機の稼動騒音……………………………………………………… 4- 5
　　2.2　重機の稼動振動……………………………………………………… 4- 8
　　2.3　水質（濁水）………………………………………………………… 4-10
　　2.4　一般環境中の放射性物質…………………………………………… 4-12
　3　環境調査…………………………………………………………………… 4-14
　　3.1　大気質………………………………………………………………… 4-14
　　3.2　騒音…………………………………………………………………… 4-17
　　3.3　振動…………………………………………………………………… 4-21
　　3.4　地下水………………………………………………………………… 4-24
　　3.5　土壌環境……………………………………………………………… 4-25
　　3.6　廃棄物等……………………………………………………………… 4-26
　　3.7　温室効果ガス………………………………………………………… 4-27
　4　調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較……………………… 4-29

第５章　調査結果の検討結果及び今後講ずる措置･････････････････････････････････ 5- 1
１　調査結果が予測結果と著しく異なる場合のその原因の検討結果･････････････････ 5- 1
２　追加の環境保全措置等･･･ 5- 1
３　事後調査計画を見直した場合の事後調査計画等･･･････････････････････････････ 5- 1

第６章　事後調査を委託した者の名称・代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
･･････････････････････････････････････ 6- 1

資料編

１　大気質調査結果（重機の稼動、資材等の運搬）･････････････････････････････ 資- 1
２　騒音調査結果（資材等の運搬）･･･ 資-15
３　振動調査結果（資材等の運搬）･･･ 資-21
４　温室効果ガス算出のための資料･･･ 資-25
５　一般環境中の放射性物質測定結果･･ 資-29

第１章　事業者の氏名及び住所

1　事業者の名称及び代表者の氏名

名　称：太田市外三町広域清掃組合

代表者：管理者　清水聖義

2　事業者の主たる事務所の所在地

群馬県太田市細谷町６０４番地１

第２章　対象事業の目的及び内容

1　事業の名称

太田市外三町広域一般廃棄物処理施設整備事業

2　事業の目的

太田市外三町広域清掃組合（以下、「組合」という。）は、太田市、千代田町、大泉町及び邑楽町の一市三町で構成されており、ごみの減量、再資源化の推進、地球環境の保全と資源の有効利用を図り、資源循環型社会の構築を目指した事業に取り組んでいる。

一方、一市三町における可燃ごみは、平成９年３月竣工（昭和53年設置・平成８年改修）の太田市清掃センター３号炉（150ｔ／24ｈ×１炉）、平成４年３月竣工の太田市清掃センター４号炉（85ｔ／24ｈ×２炉）において太田市で発生する可燃ごみを、平成４年１月竣工の大泉町外二町清掃センター（97.5ｔ／24ｈ×２炉）において、千代田町、大泉町、邑楽町で発生する可燃ごみを焼却処理している。

このような状況において、一市三町では、共同処理に向けた広域ごみ処理体制の構築を目指すなか、ともに老朽化した２箇所の現有施設を１箇所に統合し、最新の技術動向や地域環境、安定性、経済性等を考慮した新たな施設を整備することとなった。

本事業は、最新のごみ処理技術を導入し適正かつ安全な施設を実現するとともに、ごみから得られるエネルギーの積極的活用によって、新しいエネルギー回収施設の実現を目指し、環境負荷の低減に寄与するなど循環型社会の形成を推進することを目的とするものである。

3　事業の種類

廃棄物処理施設の設置

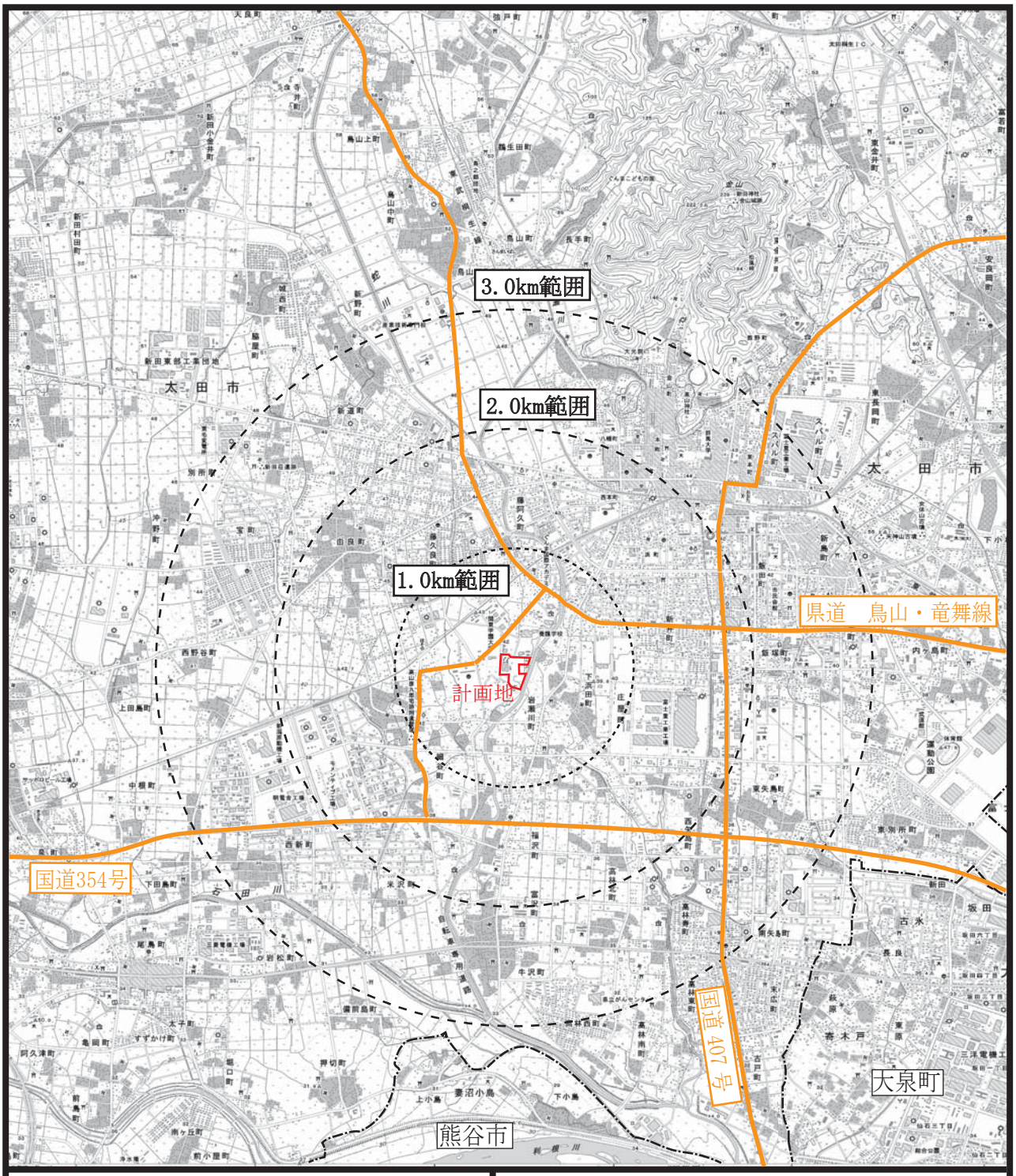
4　事業の位置

対象事業実施区域（以下「計画地」という。）の位置は、群馬県太田市細谷町及び藤阿久町地内であり図2.4-1に示すとおりである。

5　事業の規模

計画地面積　：約 4.4ha（うち工事区域面積約 1.9ha）

計画施設規模：330ｔ／日



凡例

：計画地

N

S＝1:50,000

0　500　1000　2000m

図2.4-1　計画地の位置

6　施設計画の内容

6.1　土地利用計画

対象事業における土地利用計画の概要は表 2.6-1 に示すとおりであり、現在稼働中のリサイクルプラザ管理棟は、計画施設の管理棟として継続して使用する（図 2.6-1 参照）。

なお、工場棟の配置（大きさ）について、「太田市外三町広域一般廃棄物処理施設整備事業に係る環境影響評価書（平成 29 年２月）太田市外三町広域清掃組合」（以下「評価書」という。）のとりまとめ段階では、いずれのプラントメーカーが工事を施工、機器・設備を配置した場合にも建屋内に収まるように、最大の大きさで計画している。実施設計では評価書時よりも高さがやや高くなったが、建築面積は大幅に小さくなりコンパクトな工場棟の建屋となっている。配置については大きな差はないが工場棟がコンパクトになった分、評価書時よりも北側の敷地境界から離れた位置となっている。

表 2.6-1　土地利用計画の概要

区　分		概　要
計画施設	建築物	工場棟、計量棟、煙突、ストックヤード、洗車場
	その他	場内道路、緑地
現有施設		管理棟（リサイクルプラザ）

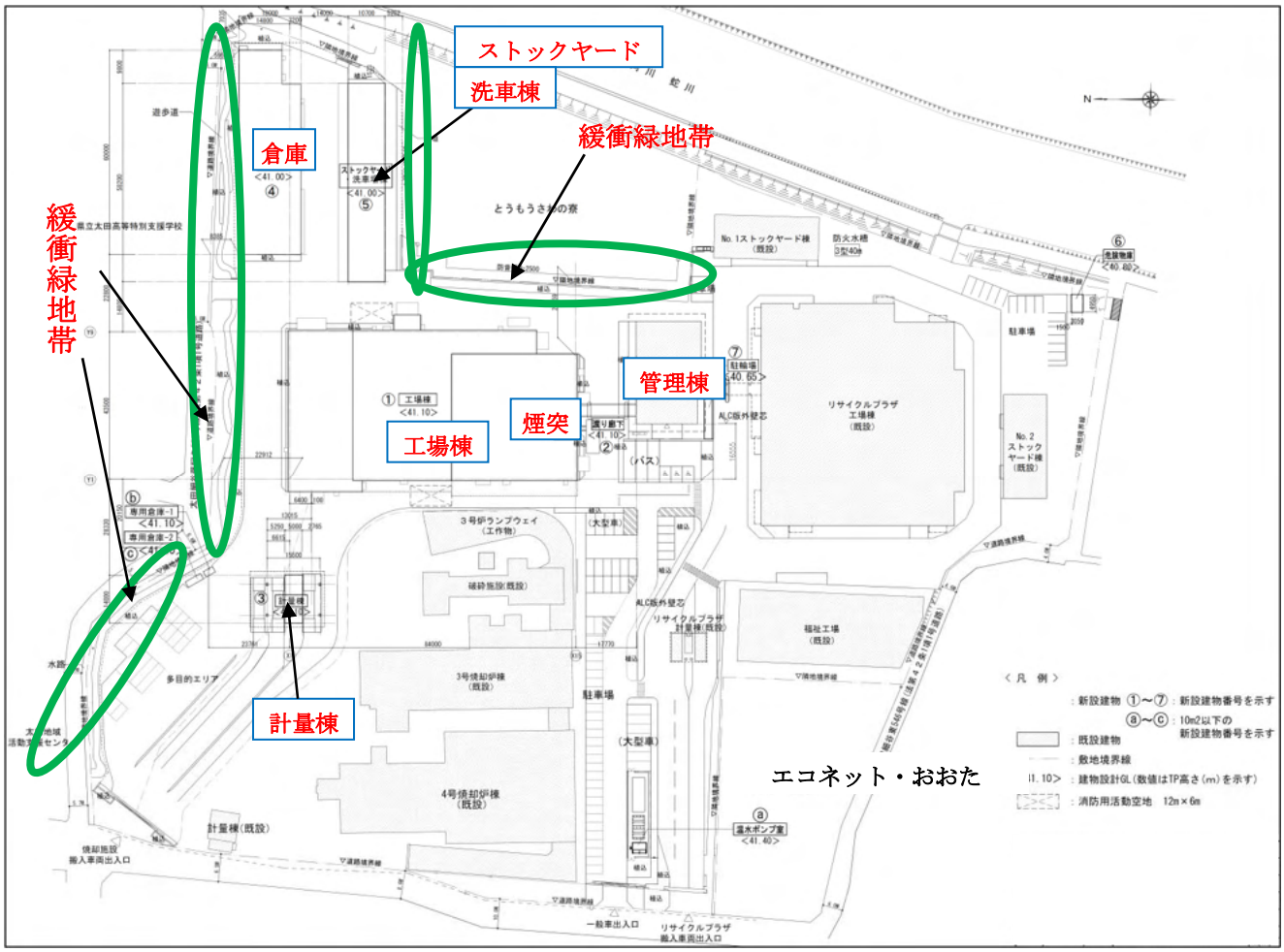
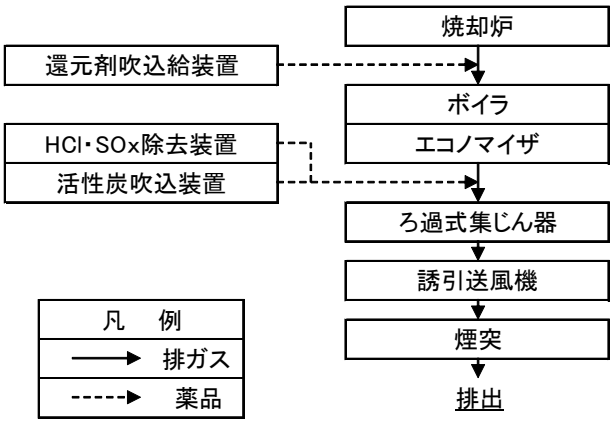


図 2.6-1　土地利用計画

6.2　施設整備計画の概要

対象事業の主要施設等の概要は表 2.6-2 に示すとおりである。なお、評価書からの相違点としては、先述したとおり、工場棟がコンパクトになった点を除き、大きな相違点はない。

表 2.6-2　主要施設等の概要

区　分		概　要	評価書からの相違点
建築物	工場棟	鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、 工場棟寸法：約 84m×47m、 高さ約 36m、煙突高：59m	評価書時の工場棟の建築面積約 100m×55m、高さ約 31mであり、建屋は高くなっているが、建築面積は大幅に小さくなり容積はコンパクトになっている。また、プラットフォームへのスロープは設置されないこととなった。 煙突高 59mは変わらない。
	煙突		
	管理棟	現在稼働中のリサイクルプラザ管理棟を、計画施設の管理棟として継続して使用する。	評価書時からの相違はない。
処理能力		330 t／日（165 t/24 h×２炉）	
処理方式		全連続燃焼方式（ストーカ炉）	
排ガス処理設備		ばいじん　：バグフィルタ 塩化水素、硫黄酸化物：乾式 HCl・SOx 除去装置 窒素酸化物：還元剤吹込装置（無触媒脱硝） ダイオキシン類：（バグフィルタ）＋活性炭吹込装置  排ガス処理フロー	
熱回収方法		廃熱ボイラ方式	
灰処理		焼却残渣の 32%以上の再資源化を目指す。	
給水		水道水、地下水、排水処理後の再利用水、雨水	
排水		再利用しきれないプラント排水（処理水）、生活排水は下水道放流	

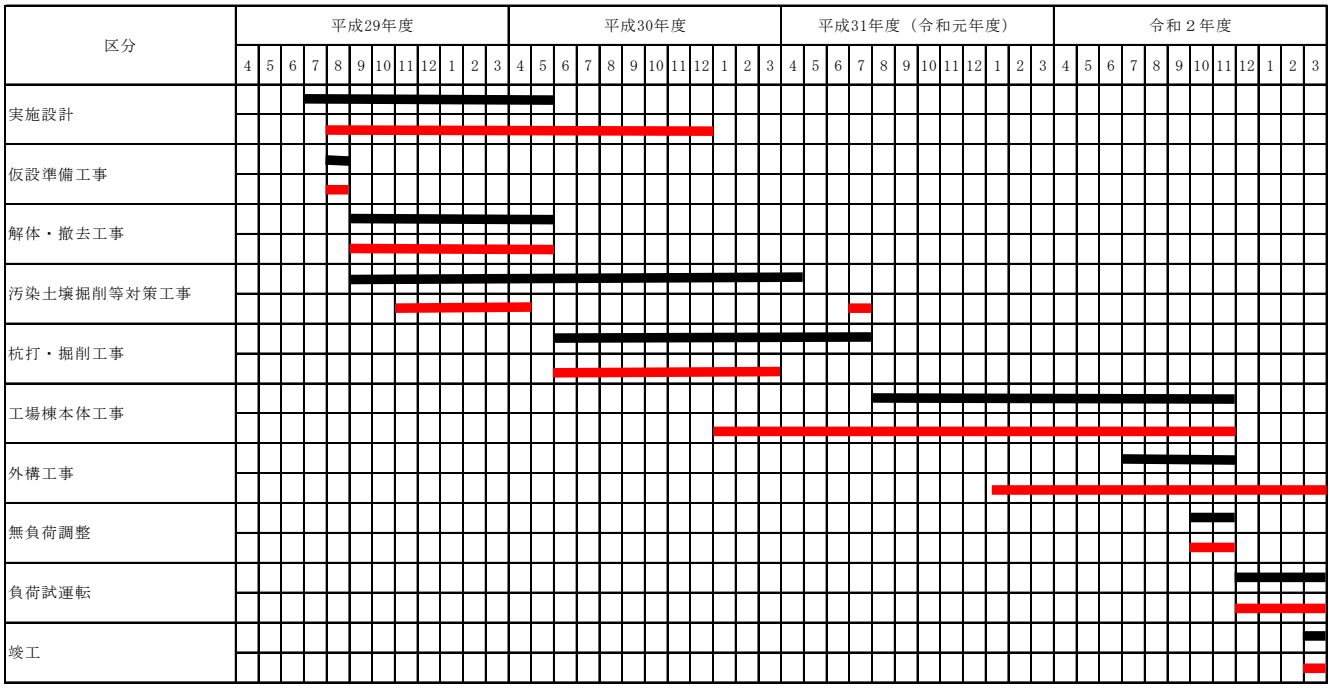
7　施設計画の変更内容

施設計画について、評価書時からの変更は特にない。

8　対象事業の実施状況

対象事業の実施状況を表 2.8-1 に示すとおりであり、汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事、外構工事の着手も予定より半年程度早まっている。環境影響評価書段階（事後調査計画時）での計画よりやや前倒しで実施されていたが、最終的には竣工時期は計画と同時期となった。

表2.8-1　対象事業の実施状況



注：各工事欄において上段は環境影響評価書段階での予定工程を、下段は令和２年度までの実施の工事工程を示す。

9　環境の保全のための措置の実施状況

平成 29 年度から令和２年度に実施した環境の保全のための措置の実施状況を表 2.9-1 に示す。

なお、評価書の記載内容欄には「第２章 7.4 工事中の環境保全対策」における内容、または第８章に記載した環境影響評価項目ごとに環境の保全のための措置をとりまとめた。なお、「第２章 7.4 工事中の環境保全対策」の内容は、第８章の「環境の保全のための措置」にも同意の記載がある。

表2.9-1(1/10)　環境の保全のための措置の実施状況（大気質）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第２章 7.4　工事中の環境保全対策 1)　大気汚染防止対策 (1)　資材等の運搬による影響 ・資材等運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。	・速度や積載量等の交通規制の遵守を徹底している。	－
・資材等運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間、搬入ルートの分散化に努める。	・資材等搬入予定を事前に計画して、車両が集中しない様に調整している。	－
・工事関係者は極力相乗りとすることにより、出入り車両台数の抑制に努める。	・同一箇所から現場に来る作業者は乗り合いにより通勤車両を減らしている。	－
・資材等運搬車両のアイドリングストップを徹底する（群馬県の生活環境を保全する条例第112条）。	・資材等運搬車両だけでなく通勤車両も急発進・急加速の禁止及び車両停止時のアイドリングストップを実施しいる。	－
・資材等運搬車両は、低公害車を積極的に導入するよう指導する。	・低公害車を積極的に導入する。	－
(2)　重機の稼動による影響 ・重機は、極力排ガス対策型(低公害型)の重機を使用する。	・排ガス対策型(低公害型)重機に使用に努めている。	
・重機は、運転する際に必要以上の暖機運転(アイドリング)をしないよう、運転手への指導を徹底する。	・重機についてもアイドリングストップを実施しいる。	－

表2.9-1(2/10)　環境の保全のための措置の実施状況（大気質）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
(3)　土工による粉じんの影響 ・工事の実施時は、適度な散水を行い粉じんの発生を防止する。	・粉じんが発生する工事に際しては、散水によりその発生を防止している（写真は解体工事時に使用する散水装置）。	
・工事の実施時は、必要に応じて仮囲いを設置し粉じんの発生を防止する。	・工事範囲には仮囲いを設けている。	

表2.9-1(3/10)　環境の保全のための措置の実施状況（騒音・振動）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
2)　騒音・振動防止対策 (1)　資材等の運搬による影響 ・資材等運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。	1)　大気汚染防止対策と同様	－
・資材等運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間、搬入ルートの分散化に努める。		
・工事関係者は極力相乗りとすることにより、出入り車両台数の抑制に努める。		
・資材等運搬車両のアイドリングストップを徹底する（群馬県の生活環境を保全する条例第112条）。		
(2)　重機の稼動による影響 ・特定建設作業は８時～17時の間とし、早朝・夜間は、騒音を発生させる作業は実施しない。 （騒音規制法に基づく特定建設作業の実施可能時間帯は７時～19時とされている。）	・工事時間は８時～17時の間としている。	－
・重機は、極力低騒音型の重機を使用する。	・低騒音型重機の使用に努めている。	
・重機は、運転する際に必要以上の暖機運転(アイドリング)をしないよう、運転手への指導を徹底する。	1)　大気汚染防止対策と同様	－
・重機の配置に配慮し、また、工事時期の集中を避け騒音の低減に努める。	・重機の稼働が集中しない様に工事工程を計画している。	－
・万能板、フラットパネル等により仮囲い(3m)を設け、騒音防止対策を実施する。	・工事範囲には仮囲いを設けている。	
・とうもうさわの寮への騒音対策として、仮囲いの設置の他、既存の緑地帯を可能な限り緩衝用に保全する。		

表2.9-1(4/10)　環境の保全のための措置の実施状況（騒音・振動）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
3)　安全対策 ・資材等運搬車両の主要走行ルートを設定する。	・資材等運搬車両の主要走行ルートを設定している。	－
・資材等運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。 ・資材等運搬車両が集中しないよう搬入時期・時間、搬入ルートの分散化に努める。	1)　大気汚染防止対策と同様	－
・交通誘導員を配置し、歩行者等の安全を確保する。	・資材等運搬車両出入り口には交通誘導員を配置し、歩行者等の安全を確保している。	
・計画地の北西に資材等運搬車両出入り口を設けることにより、資材等運搬車両は市道１級30号線、市道太田細谷堰の上550号線を通行するものとし、県立太田高等特別支援学校等の校門前やエコネット・おおた前を資材等運搬車両が走行することのないよう配慮し安全を確保する。	・計画地の北西に資材等運搬車両出入り口を設けている。 資材等運搬車両は市道１級30号線、市道太田細谷堰の上550号線を通行するものとし、県立太田高等特別支援学校等の校門前やエコネット・おおた前を資材等運搬車両が走行することのないよう配慮し安全を確保している。	
・工事範囲には万能板、フラットパネル等により仮囲い(3m)を設け安全を確保する。	1)　大気汚染防止対策と同様	－

表 2.9-1(5/10)　環境の保全のための措置の実施状況（水質）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 6　水質（河川：浮遊物質量（SS）） 6.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・降雨時に発生する濁水は沈砂池で滞留させ、浮遊物質量（SS）200mg/L以下として放流する。	・濁水は浮遊物質量（SS）25mg/L以下として放流している。	
・沈砂池の堆砂は、定期的に除去して、沈砂池の機能を確保する。	・著しい堆砂は認められず、沈砂池の機能を確保している。	－
・工事工程、内容により、著しく濁った濁水の発生が予想される場合など、必要に応じて濁水処理プラントの設置を検討する。	・水処理プラントを設置しており、濁水は浮遊物質量（SS）25mg/L以下として放流している。	－
・工事中の降雨時において、裸地から発生する濁水については、沈砂池出口で定期的な事後調査を実施する。なお、発生する濁水が著しく濁っている場合については、濁水処理プラントの設置を検討する。	・水処理プラントを設置しており、濁水は浮遊物質量（SS）25mg/L以下として放流している。放流される濁水及び蛇川について、事後調査を実施している。	－
・工事にあたっては、沈砂池を可能な限りスケールアップすることにより、濁水のＳＳ濃度を低下させ公共用水域への影響を低減させる。	・水処理プラントを設置しており、濁水は浮遊物質量（SS）25mg/L以下として放流している。また、処理した濁水が浮遊物質量（SS）25mg/LまたはpH6.5～8.5の範囲を超過した場合には別途設置している沈砂池へ一時貯留し、再度処理を講じていることから、公共用水域への影響を低減させている。	

表 2.9-1(6/10)　環境の保全のための措置の実施状況（地下水汚染）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 7　地下水汚染 7.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・掘削にあたっては、遮水性の高い山留工法を採用し、地下水の掘削箇所への流入を極力防止する。	・遮水性の高い山留工法（ＳＭＷ工法）を採用している。地下水の掘削箇所への著しい流入は確認されていない。	
・土壌汚染対策工事を実施に際しては、貯留した一部の湧水、雨水等は出来る限り地下へ浸透させず、状況によっては水処理プラントを設置し処理する。	・発生した濁水は出来る限り地下へ浸透させないように水槽を設置して貯留している。	

表 2.9-1(7/10)　環境の保全のための措置の実施状況（土壌環境）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 9　土壌環境 9.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・対策工事の実施に際しては、仮設テントの設置等、汚染土壌の飛散防止に必要な措置を講じる。また、運搬に際しては、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（改訂第２版）」に基づき、適正な運搬・処理を確保する。	・一時仮置きした土壌には、ブルーシートで覆う等飛散防止措置を講じている。運搬に際しては、適正な運搬・処理を確保している。	

表 2.9-1(8/10)　環境の保全のための措置の実施状況（廃棄物等）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 13　廃棄物等 13.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・有効利用推進のための分別排出を徹底し、現場作業員への周知徹底及び適切な指導を行う。	・分別排出を徹底し、現場作業員への周知徹底及び適切な指導を行っている。	
・解体工事に伴い発生した廃棄物については「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」等の関係法令を遵守し、適正な処理、処分を実施するとともにリサイクルに努める。	・リサイクルに努めている。	
・解体工事に際しては、アスベスト使用の有無について事前に調査を行い、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」（2014.6 環境省）等に基づき適切な対策を講じる。	・アスベストを含有するがれき類は分別し処分する等、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」に基づき適切な対策を講じている。	－
・既設処理棟の溶融施設については労働安全衛生法、労働安全衛生規則及び「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」等に基づき解体撤去を行う。	・労働安全衛生法、労働安全衛生規則及び「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」等に基づき解体撤去を行っている。	－
・建設廃棄物の発生抑制を考慮した設計、工法及び材料を可能な限り選定する。	・掘削で発生した土壌に混在するコンクリートがら等副産物の分別を行う等、建設廃棄物の発生抑制に努めている。	－
・平成24年度建設副産物実態調査結果参考資料の再資源化率及び産業廃棄物の排出及び処理状況（平成25年度実績）に示された再生利用率以上の再資源化を目指す。	・再生利用率以上の再資源化を目指すため、副産物の分別に努めている。	－

表 2.9-1(9/10)　環境の保全のための措置の実施状況（温室効果ガス）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 14　温室効果ガス 14.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・資材等運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。	1)　大気汚染防止対策と同様	－
・工事関係者の通勤は極力相乗とすることにより通勤車両台数の抑制に努める。		－
・資材等運搬車両のアイドリングストップを徹底する（群馬県の生活環境を保全する条例第112条）。		－
・資材等運搬車両は、低公害車を積極的に導入するよう指導する。		－
・植栽を施すなどの緑化により、二酸化炭素の吸収量の増加に努める。	・外構工事時に植栽を施している。	
・「第１次群馬県地球温暖化対策推進計画（コツコツプラン）」、「第2次群馬県地球温暖化対策推進計画（新コツコツプラン）」及び「太田市環境基本計画」並びに「大泉町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」における地球温暖化防止対策に配慮する。	・重機や資材運搬車両だけでなく通勤車両についてもアイドリングストップに努めている。また、同一箇所から現場に来る作業者は乗り合いにより通勤車両を減らしていることから、地球温暖化防止対策に配慮している。	－

表 2.9-1(10/10)　環境の保全のための措置の実施状況（一般環境中の放射性物質）

評価書の記載内容	措置の内容	写真
第８章 15　一般環境中の放射性物質 15.3　評価 2)　環境の保全のための措置 (1)　工事による影響 ・工事中は進捗にあわせ、表層土壌を外部搬出する際にはその都度、かつ定期的（１回／月）に工事区域内における放射線量を測定する。	表層土壌を外部搬出する際にはその都度、かつ定期的（１回／月）に運搬車両から１ｍでの空間線量を測定している。	－

第３章　事後調査の項目及び手法

評価書で示した事後調査計画のうち、平成29年度から令和２年度に実施した事後調査の項目及び手法を表3-1に、事後調査を行うこととした理由を表3-2に示す。

表3-1（1/2）　平成29年度から令和２年度に実施した事後調査の項目及び手法（発生源調査）

項目	細項目	調査項目	調査地点	調査時期及び調査方法
工事計画確認調査		工事計画、工事方法、環境保全対策の実施状況	－	「調査時期」 工事中 「調査方法」 工事計画、工事方法、環境保全対策実施状況の記録の把握・集計による方法
発生源強度確認調査	重機の稼動騒音	騒音レベル	敷地境界の３地点	「調査時期」 土壌汚染対策工事、杭打・掘削工事及び工場棟本体工事、外構工事において重機の稼働台数が多くなる時期（２回） 「調査方法」 「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」 に定める方法
	重機の稼動振動	振動レベル	敷地境界の３地点	「調査時期」 工場棟本体工事、外構工事において重機の稼動台数が多くなる時期（１回） 「調査方法」 「振動規制法施工規則」別表第一に定める方法
	水質（濁水）	ＳＳ	排出口	「調査時期」 土工期間中の降雨時（４回／濁水排出時） 「調査方法」 環告59　付表9等
	一般環境中の放射性物質	放射性物質	計画地	「調査時期」 土工期間中の表層土壌を外部搬出する際にはその都度、かつ定期的（１回／月） 「調査方法」 環境大臣が定める放射線の量の測定方法（平成23年12月28日環境省告示第110号）

表3-1（2/2）　平成29年度から令和２年度に実施した事後調査の項目及び手法（環境調査）

項目	細項目	調査項目	調査地点	調査時期及び調査方法
大気質	資材等の運搬	浮遊粒子状物質、 二酸化窒素、 交通量	走行ルート ２地点	「調査時期」 資材等運搬車両の走行が最大と考えられる時期（１週間：交通量は１日） 「調査方法」 「大気の汚染に係る環境基準について」に定める方法 カウンター計測等による方法 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法
	重機の稼動	浮遊粒子状物質、 二酸化窒素	周辺１地点	「調査時期」 重機の稼動台数が代表的な時期（１週間） 「調査方法」 「大気の汚染に係る環境基準について」に定める方法
	土工	降下ばいじん	周辺１地点	「調査時期」 重機の稼動台数が代表的な時期（１月間×４回） 「調査方法」 ダストジャー等による方法
騒音	資材等の運搬	騒音レベル、 交通量	走行ルート ２地点	「調査時期」 資材等運搬車両の走行が最大と考えられる時期（１日） 「調査方法」 「騒音に係る環境基準について」等に定める方法 カウンター計測等による方法 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法
振動	資材等の運搬	振動レベル、 交通量	走行ルート ２地点	「調査時期」 資材等運搬車両の走行が最大と考えられる時期（１日） 「調査方法」 日本工業規格（JIS）に規定する方法 カウンター計測等による方法 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法
水質	濁水	ＳＳ	蛇川２地点 （放流口上・下流）	「調査時期」 土工期間中の降雨時（４回／濁水排出時） 「調査方法」 環告59　付表9等
地下水	土工	環境保全措置 の実施状況	計画地	「調査時期」 土壌汚染対策工事の実施時期 「調査方法」 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法
土壌環境	土工	環境保全措置 の実施状況	計画地	「調査時期」 土壌汚染対策工事の実施時期 「調査方法」 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法
廃棄物等	土工 建築物等の 建設	環境保全措置 の実施状況	計画地	「調査時期」 工事期間中 「調査方法」 工事計画、廃棄物の搬出・再資源化状況の工事記録等の把握・集計による方法
温室効果 ガス	資材等の運搬 重機の稼動	環境保全措置 の実施状況	計画地	「調査時期」 工事期間中 「調査方法」 工事計画、資材等運搬車両、重機の稼動台数の把握・集計による方法

表3-2（1/2）　事後調査を行うこととした理由（発生源調査）

項目	細項目	事後調査の目的			実施理由
		予測の不確実性に伴う予測結果の変化の程度 注1	環境の保全のための措置の実施状況の確認 注2	その他	
発生源調査					
工事計画確認調査		○	－	－	本環境影響評価で想定した工事工程等は、今後の実施設計、施工計画等により変更になる場合があることから、実際の工事計画、進捗状況を確認し、必要に応じて各事後調査項目の時期、頻度、調査地点を再検討するため、工事計画確認に関する調査を実施する。
発生源強度確認調査	重機の稼動騒音	○	○	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の重機の稼動を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工種やその組み合わせ、重機の配置等に不確実性が伴う。また、環境保全措置（仮囲いの設置(3m)）を講じるものとして予測したことから、重機の稼動騒音に関する事後調査を実施する。
	重機の稼動振動	○	－	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の重機の稼動を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工種やその組み合わせ、重機の配置等に不確実性が伴う。したがって、重機の稼動振動に関する事後調査を実施する。
	水質（濁水）	－	○	－	本環境影響評価では、土工による濁水について、環境保全措置（沈砂池の設置）を講じるものとして予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、予測条件の前提となる環境の保全のための措置の実施状況を確認する必要がある。したがって、土工による濁水に関する事後調査を実施する。
	一般環境中の放射性物質	－	－	○	工事の実施に伴って環境影響を生じさせる放射性物質を同時に移動させることはないと考える。しかしながら、放射性物質の移動により、その汚染範囲を拡大させないよう、工事中は進捗にあわせ、表層土壌を外部搬出する際にはその都度、かつ定期的（１回／月）に工事区域内における放射線量を測定する。
予測・評価の再検討		－	－	工事内容の変更の有無及び変更に伴う予測評価の再検討	本環境影響評価において予測条件とした事業内容と実際の工事内容を比較検討するとともに、変更に至った経緯を把握し、予測・評価の再検討を行う必要がある場合には、条件の変更に伴う予測評価を行うものとする。

注1　本環境影響評価段階で予測条件とした工事工程、使用する重機とその台数、資材等運搬車両の台数等が、今後の実施設計、施工計画等により変更になる場合がある。これらの要因により、予測結果が変化する可能性を含んでいることを予測の不確実性を伴うといい、事後調査の実施により予測結果の変化の程度を把握するものである。

注2　環境の保全のための措置を講じることを前提として予測を行い、環境影響の低減を評価した項目について、実際にその措置が講じられているかを確認し、その効果によって環境保全目標との整合が図られているか否かについて検討するものである。

表 3-2（2/2）　事後調査を行うこととした理由（環境調査）

項目	細項目	事後調査の目的			実施理由
		予測の不確実性に伴う予測結果の変化の程度注1	環境の保全のための措置の実施状況の確認注2	その他	
環境調査					
大気質	資材等の運搬	○	－	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の資材等運搬車両台数を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工事工程や進捗状況により交通量等に不確実性が伴う。資材等の運搬に関する事後調査を実施する。
	重機の稼動	○	○	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の重機の稼動を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工種やその組み合わせ、重機の配置等に不確実性が伴う。また、環境保全措置（排ガス対策型：１次基準値指定のあるもの）を講じるものとして予測したことから、重機の稼動について事後調査を実施する。
	土工	○	－	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の重機の稼動を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工種やその組み合わせ、重機の配置等に不確実性が伴う。したがって、土工に伴う影響について事後調査を実施する。
騒音	資材等の運搬	○	－	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の資材等運搬車両台数を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工事工程や進捗状況により交通量等に不確実性が伴う。資材等の運搬に関する事後調査を実施する。
振動	資材等の運搬	○	－	－	
地下水	土工	－	○	－	本環境影響評価では、地下水について、遮水性の高い山留工法を採用し、特に汚染土壌対策工事に際して、環境保全措置（水処理プラントの設置）を講じるものとして予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるるため、予測条件の前提となる環境の保全のための措置の実施状況を確認する必要がある。したがって、地下水に関する事後調査を実施する。
水循環	土工	－	－	－	本環境影響評価では、水循環について、遮水性の高い山留工法を採用するものとして予測した。この環境保全措置は、地下水、水循環に係る措置を兼ねるものであり、地下水に関する事後調査を実施することから、特に水循環としての事後調査は実施しない。
土壌環境	土工	－	○	－	本環境影響評価では、汚染土壌対策工事を実施するに際し、仮設テントの設置等、汚染土壌の飛散防止に必要な措置を講じ、また、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（暫定版）」（平成24 年５月環境省 水・大気環境局 土壌環境課）に基づき、適正な運搬・処理を確保するものとして予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、予測条件の前提となる環境の保全のための措置の実施状況を確認する必要がある。したがって、土壌環境に関する事後調査を実施する。
地盤沈下	土工	－	－	－	本環境影響評価では、地盤沈下について、遮水性の高い山留工法を採用するものとして予測した。この環境保全措置は、地下水、水循環、地盤沈下に係る措置を兼ねるものであり、地下水に関する事後調査を実施することから、特に地盤沈下としての事後調査は実施しない。
廃棄物等	土工 建築物等の建設	－	○	－	本環境影響評価では、再資源化率及び産業廃棄物の排出及び処理状況（平成25年度実績）に示された再生利用率以上の再資源化を目指すものとして予測した。実際の工事中における再資源化状況等について、事後調査を実施する。
温室効果ガス	資材等の運搬 重機の稼動	○	－	－	本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の資材等運搬車両台数、重機の稼動を考慮して予測した。ただし、実施設計、施工計画を立案する前段での予測であるため、工事工程や進捗状況により交通量等に不確実性が伴う。温室効果ガスに関する事後調査を実施する。

注1　本環境影響評価段階で予測条件とした工事工程、使用する重機とその台数、資材等運搬車両の台数等が、今後の実施設計、施工計画等により変更になる場合がある。これらの要因により、予測結果が変化する可能性を含んでいることを予測の不確実性を伴うといい、事後調査の実施により予測結果の変化の程度を把握するものである。

注2　環境の保全のための措置を講じることを前提として予測を行い、環境影響の低減を評価した項目について、実際にその措置が講じられているかを確認し、その効果によって環境保全目標との整合が図られているか否かについて検討するものである。

第４章　事後調査の結果

1　工事計画確認調査

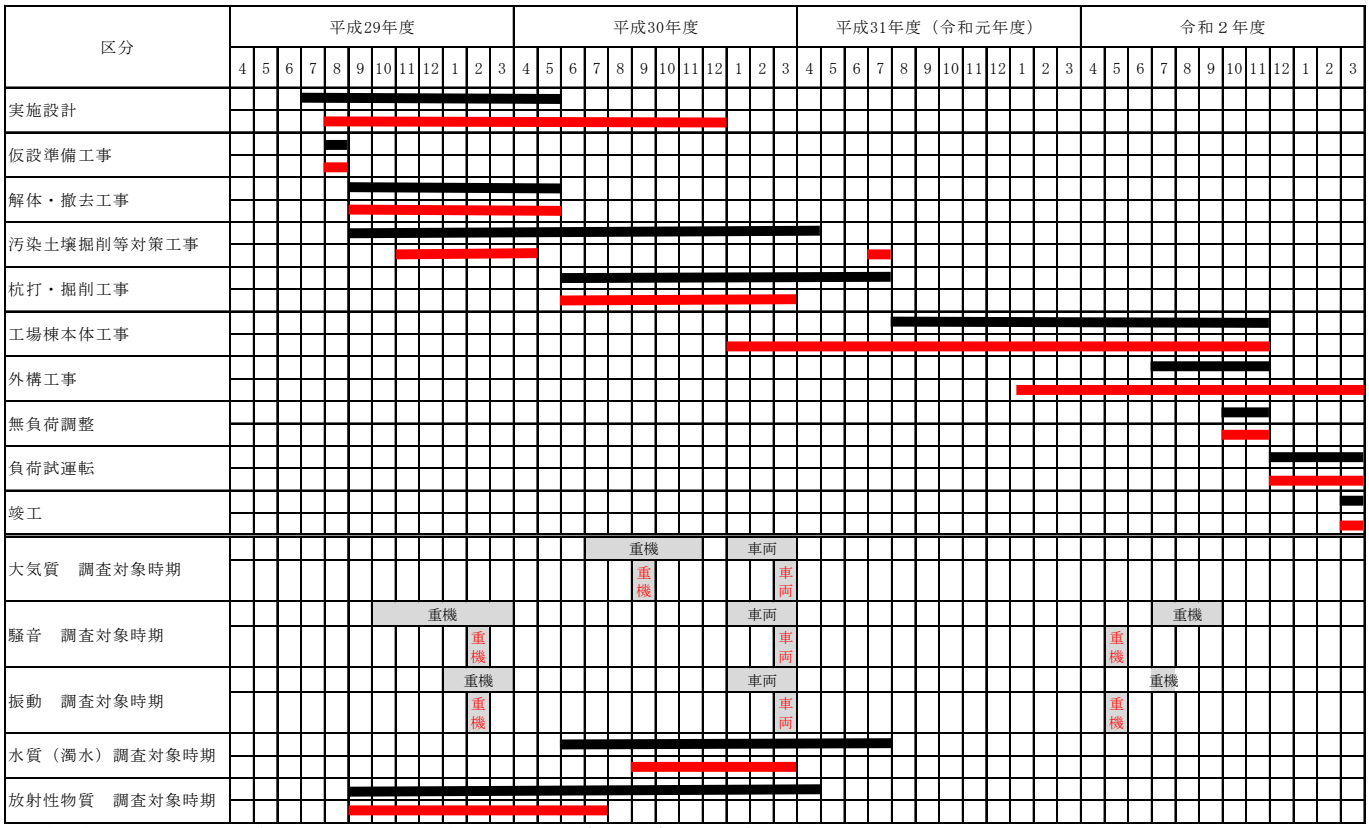
平成 29 年度から令和２年度の工事工程と調査実施時期は表 4.1-1 に示したとおりである。

工事計画確認に関する調査として、実際の工事計画、進捗状況を確認しながら、事後調査内容を見直し、検討した結果、平成 29 年度は各事後調査項目の時期、調査地点について変更の必要はなかったが、一般環境中の放射性物質については頻度が変更となった。この頻度の変更は、土壌搬出の機会が事前の想定より減少したためである。なお、平成 29 年度の騒音・振動調査は、平成 30 年２月に重機の稼動による影響として、解体･撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時に実施した（工事状況は図 4.1-1、写真 4.1-1 参照）。

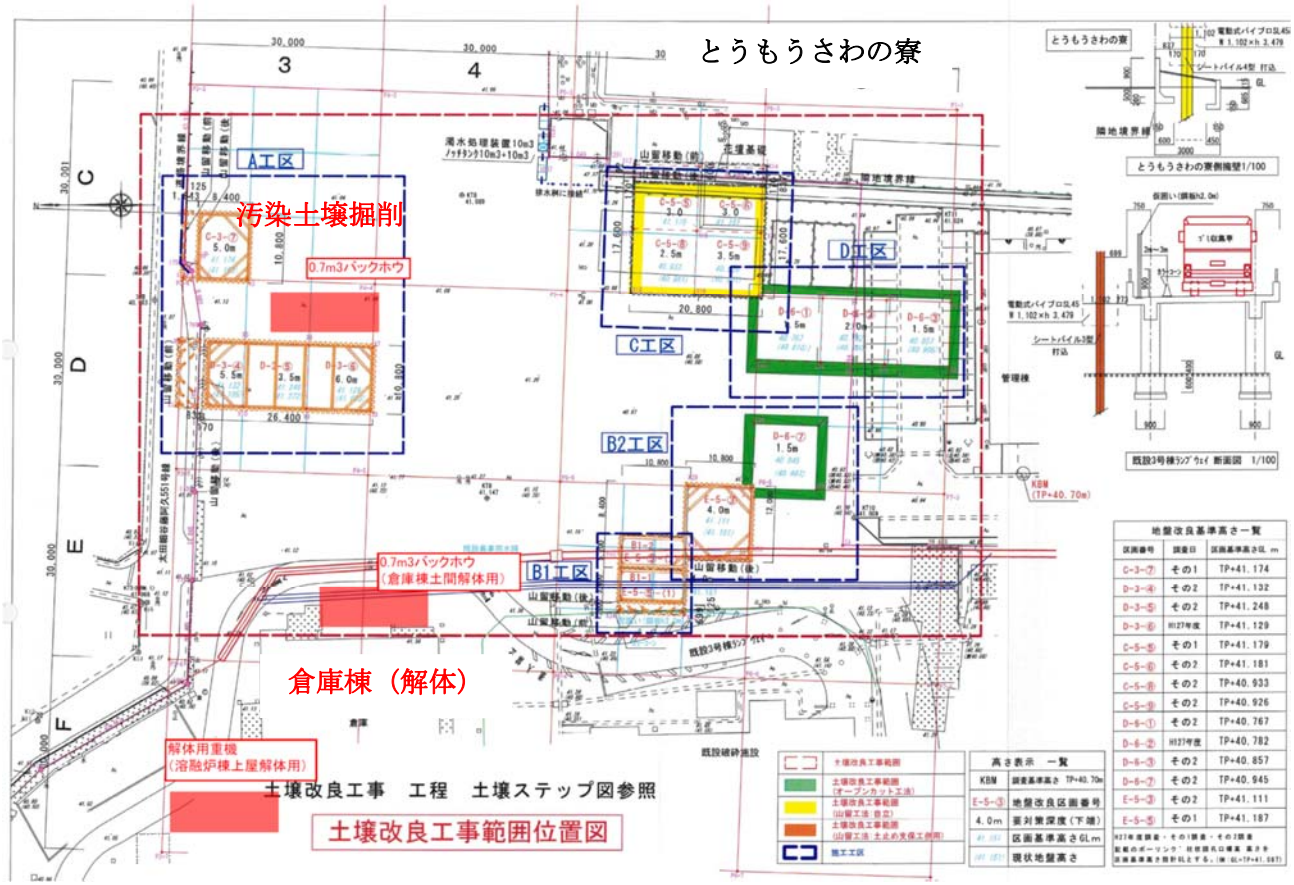
平成 30 年度は、汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事の着手も予定より半年程度早まったことに伴い、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討した。その結果、重機の稼働による影響について大気質調査の調査時期を、資材等の運搬による影響について大気質及び騒音・振動調査の調査時期を変更して行った。なお、調査地点については、変更の必要はなかった。大気質調査の調査時の工事状況は図 4.1-2 に示すとおりである。

令和元年度は、工場棟本体工事を中心に実施されており、令和 2 年に入り外構工事も一部実施されることとなった。重機の稼働による影響について、2 回目の騒音・振動調査の調査時期は、工場本体工事及び外構工事が重なる時期を想定していたことから、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討した。その結果、令和 2 年 5 月に 2 回目の騒音・振動調査を行った（工事状況は図 4.1-3 参照）。

表4.1-1　工事工程と調査実施時期



注：各工事欄において上段は環境影響評価書段階での予定工程を、下段は令和２年度までの実施の工事工程を示す。
注：重機とは、重機の稼働による影響を把握する時期、車両とは、資材等運搬車両による影響を把握する時期を示す。
注：調査対象時期に示す黒字は環境影響評価書段階での調査時期を、赤字は実際の調査時期を示す。



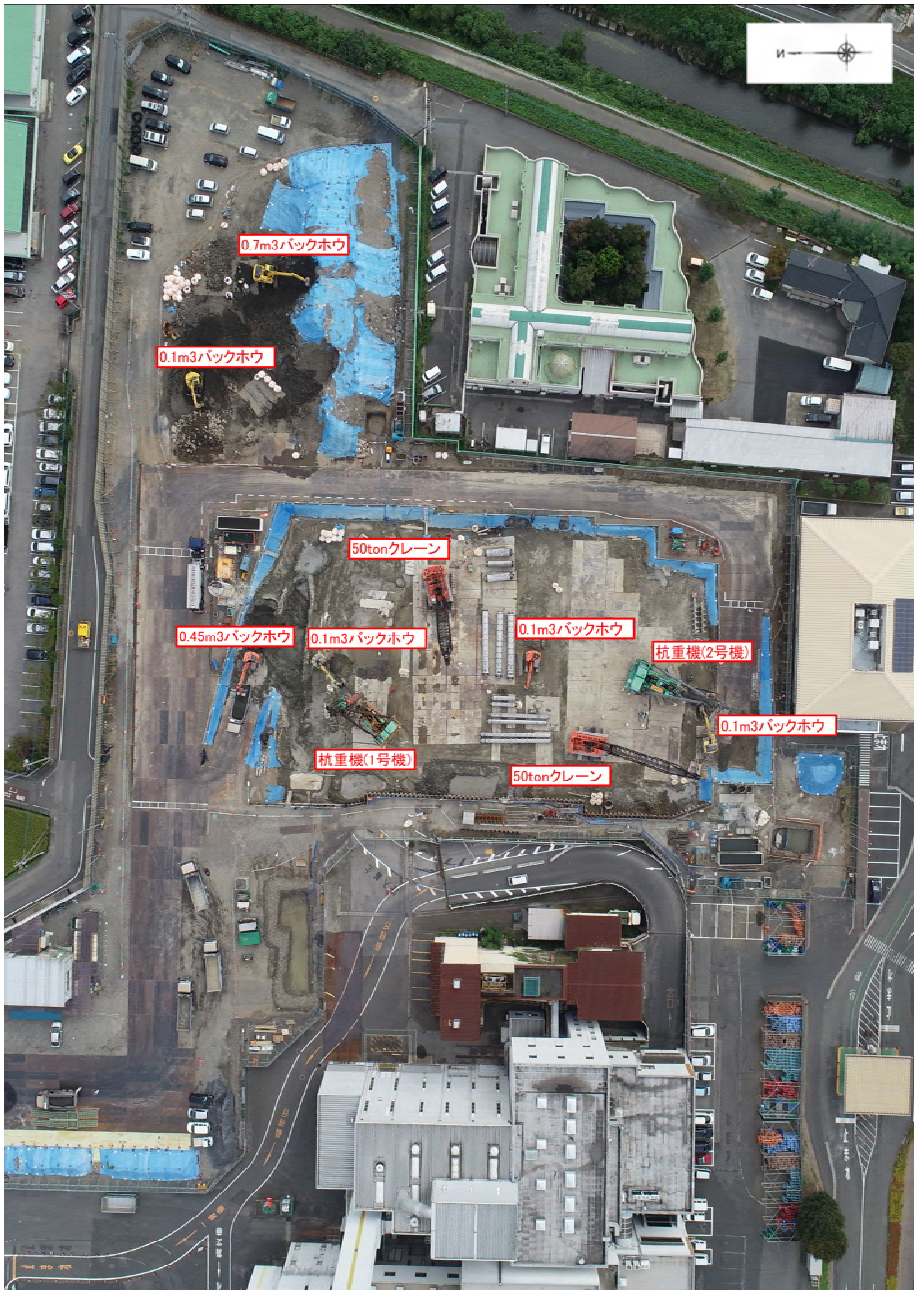
注：解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時

図 4.1-1　工事状況（重機の稼動による影響　1 回目の騒音・振動調査時　平成 30 年 2 月）

（解体・撤去工事）

（汚染土壌掘削対策工事）

写真4.1-1　工事状況（重機の稼動による影響　1回目の騒音・振動調査時　平成30年2月）



注：杭打、掘削工事時

図 4.1-2　工事状況（重機の稼動による影響　大気質調査時　平成 30 年 9 月）

（杭打、掘削工事）

写真 4.1-2　工事状況（重機の稼動による影響　大気質調査時　平成 30 年 9 月）

注：工場棟本体工事、外構工事時

図 4.1-3　工事状況（重機の稼動による影響　2 回目の騒音・振動調査時　令和 2 年 5 月）

（工場棟本体工事、外構工事）

（工場棟本体工事、外構工事）

写真 4.1-3　工事状況（重機の稼動による影響　2 回目の騒音・振動調査時　令和 2 年 5 月）

2　発生源強度確認調査

2.1　重機の稼動騒音

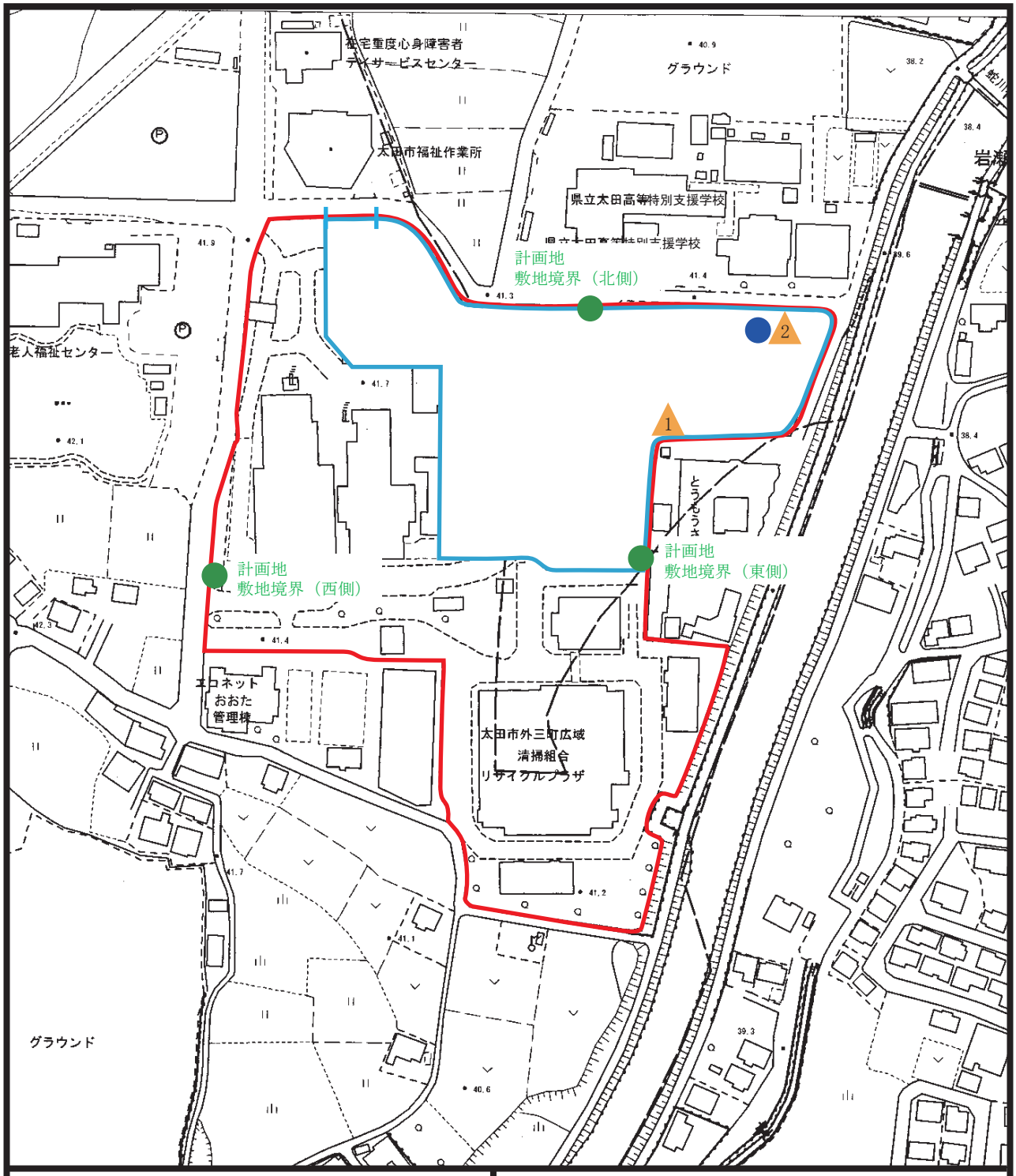
1）調査の概要

調査の概要を表 4.2.1-1 に示す。

調査は、評価書で重機の稼動騒音の影響が大きいと予測された時期である、解体・撤去工事及び汚染土壌掘削等対策工事時、工場本体工事及び外構工事時に実施した。

表 4.2.1-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日・時間	調査方法	調査地点
重機の 稼動騒音	騒音レベル	解体・撤去工事、 汚染土壌掘削等対策 工事時 平成30年2月22日 8:00～17:00	「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」 に定める方法	計画地 敷地境界（北側） 計画地 敷地境界（東側） 計画地 敷地境界（西側） 図4.2.1-1参照
		工場棟本体工事、 外構工事時 令和2年5月20日 8:00～17:00		



凡例

- ：計画地
- ：計画施設建設エリア
- ：大気質
- ：騒音・振動
- 1 ：降下ばいじん
  （平成30年 4月24日～平成30年 5月21日）
  （平成30年 6月26日～平成30年 7月20日）
- 2 ：降下ばいじん
  （平成30年 9月20日～平成30年10月18日）
  （平成31年 1月 9日～平成31年 2月 7日）

N

S＝1:2,500

0 25 50 100m

図4.2.1-1
重機の稼動及び土工による影響調査地点

2）調査結果

調査結果を表 4.2.1-2 に示す。

調査を実施した敷地境界 3 地点において、いずれの時間、時間平均について環境保全目標を満足していた。なお、解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時には、評価書の予測値と同程度もしくは下回ったが、工場棟本体工事、外構工事時には、評価書の予測値よりも同程度または若干高くなっていた。

表4.2.1-2（1/2）　調査結果（解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時）

単位：dB

時間	時間率騒音レベル(L5) 計画地（現有施設）敷地境界			環境保全目標 1)			
	（北側）	（東側）	（西側）	（北側）	（東側）	（西側）	
8:00	61	50	42	○	○	○	85
9:00	74	62	42	○	○	○	
10:00	56	55	42	○	○	○	
11:00	75	63	47	○	○	○	
12:00	51	48	43	○	○	○	
13:00	71	59	46	○	○	○	
14:00	68	57	53	○	○	○	
15:00	71	55	60	○	○	○	
16:00	65	51	62	○	○	○	
17:00	56	50	61	○	○	○	
平均	65	55	50	○	○	○	
予測値 2)	68	64	62	－	－	－	－

注：1）騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に係る基準
　　2）評価書記載の予測値（第 1 期）

表4.2.1-2（2/2）　調査結果（工場棟本体工事、外構工事時）

単位：dB

時間	時間率騒音レベル(L5) 計画地（現有施設）敷地境界			環境保全目標 1)			
	（北側）	（東側）	（西側）	（北側）	（東側）	（西側）	
8:00	69	60	61	○	○	○	85
9:00	68	69	62	○	○	○	
10:00	69	65	64	○	○	○	
11:00	71	69	64	○	○	○	
12:00	56	48	51	○	○	○	
13:00	70	71	62	○	○	○	
14:00	64	69	63	○	○	○	
15:00	61	66	62	○	○	○	
16:00	65	64	58	○	○	○	
17:00	57	57	57	○	○	○	
平均	65	64	60	○	○	○	
予測値 2)	62	64	61	－	－	－	－

注：1）騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に係る基準
　　2）評価書記載の予測値（最盛期）

2.2　重機の稼動振動

1）調査の概要

調査の概要を表 4.2.2-1 に示す。

調査は、評価書で重機の稼動振動の影響が大きいと予測された時期である、工場本体工事及び外構工事時に実施した。また、騒音の影響が大きいと予測された解体・撤去工事及び汚染土壌掘削等対策工事時にも実施した。

表 4.2.2-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日・時間	調査方法	調査地点
重機の稼動振動	振動レベル	解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時 平成30年2月22日 8:00～17:00	「振動規制法施工規則」別表第一に定める方法	計画地 敷地境界（北側） 計画地 敷地境界（東側） 計画地 敷地境界（西側） 重機の稼動騒音と同地点 図4.2.1-1参照
		工場棟本体工事、外構工事時 令和2年5月20日 8:00～17:00		

2）調査結果

調査結果を表 4.2.2-2 に示す。

調査を実施した敷地境界 3 地点において、いずれの時間、時間平均について環境保全目標を満足していた。なお、工場棟本体工事、外構工事時には、評価書の予測値よりも同程度または若干低くなっていた。

表4.2.2-2(1/2)　調査結果（解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時）

単位：dB

時間	時間率振動レベル(L10) 計画地（現有施設）敷地境界			環境保全目標 1)			
	（北側）	（東側）	（西側）	（北側）	（東側）	（西側）	
8:00	45	32	38	○	○	○	75
9:00	48	38	41	○	○	○	
10:00	35	36	39	○	○	○	
11:00	48	39	40	○	○	○	
12:00	35	<30	39	○	○	○	
13:00	47	36	39	○	○	○	
14:00	46	39	40	○	○	○	
15:00	49	33	39	○	○	○	
16:00	44	32	37	○	○	○	
17:00	42	<30	40	○	○	○	
平均	44	35	39	○	○	○	
予測値 2)	－	－	－	－	－	－	－

注：1）振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」に係る基準
　　2）評価書での予測は工場棟本体工事実施時期を対象としているため「－」とした。

表 4.2.2-2(2/2)　調査結果（工場棟本体工事、外構工事時）

単位：dB

時間	時間率振動レベル(L10) 計画地（現有施設）敷地境界			環境保全目標 1)			
	（北側）	（東側）	（西側）	（北側）	（東側）	（西側）	
8:00	43	32	37	○	○	○	75
9:00	49	37	37	○	○	○	
10:00	40	33	39	○	○	○	
11:00	54	37	38	○	○	○	
12:00	32	32	33	○	○	○	
13:00	55	40	38	○	○	○	
14:00	46	37	41	○	○	○	
15:00	44	35	39	○	○	○	
16:00	44	43	37	○	○	○	
17:00	44	39	34	○	○	○	
平均	45	37	37	○	○	○	
予測値 2)	46	42	36	－	－	－	－

注：1) 振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」に係る基準
　　2) 評価書記載の予測値

2.3　水質（濁水）

1）調査の概要

調査の概要を表 4.2.3-1 に示す。

調査は、評価書で裸地面積が大きくなると想定された時期である、土工期間中（杭打、掘削工事時）に実施した。

表 4.2.3-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
水質（濁水）	ＳＳ	平成30年9月4日	「環告第59号　付表9」に定める方法	排出口２地点（濁水処理装置放流口） 蛇川２地点（放流口上・下流） 図4.2.3-1参照
		平成30年9月5日		
		平成30年9月21日		
		平成30年9月28日		
		平成31年2月7日		
		平成31年3月1日		
		平成31年3月8日		

2）調査結果

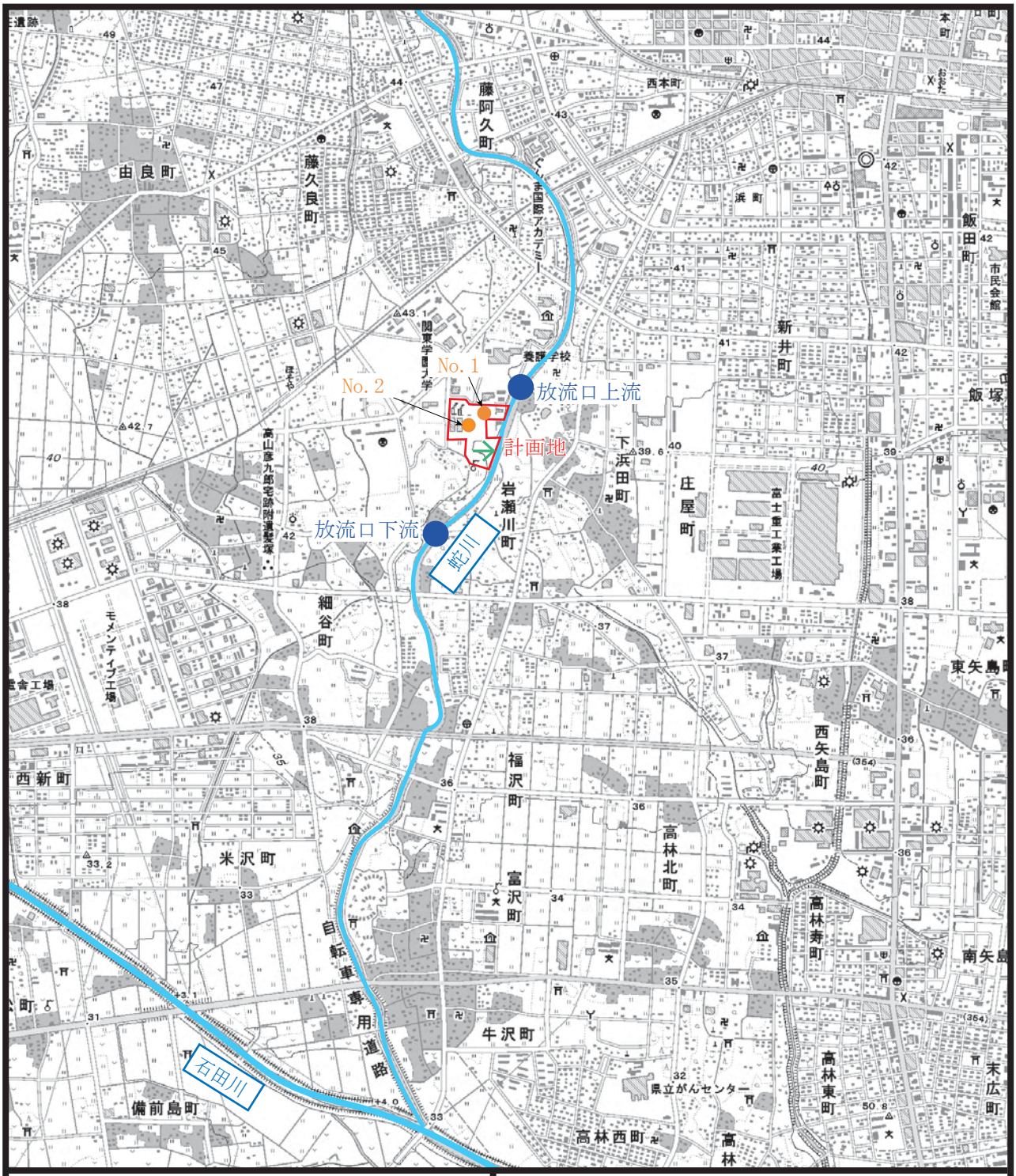
調査結果を表 4.2.3-2 に示す。

蛇川への濁水放流口の上流と下流において、浮遊物質量（ＳＳ）に大きな差はみられない。また、放流する濁水の浮遊物質量（ＳＳ）は 5～16mg/L であり、蛇川（6～47mg/L）と同程度の数値であることから、工事に伴って発生する濁水が、河川水質に大きく影響を及ぼさず、環境保全目標を満足していた。

表4.2.3-2　調査結果

調査回数	調査時期	浮遊物質量（SS）（mg/L）					試料採取前 24時間降雨量（mm）	
		蛇川			濁水処理装置 放流水			
		上流	下流	下流-上流	No.1	No.2	桐生	伊勢崎
1	平成30年9月4日	47	47	0	10	5	2.5	3.5
2	平成30年9月5日	8	12	4	放流停止中、 処理水は場内へ	16	20.5	29.0
3	平成30年9月21日	－	－	－	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	13.5	15.0
4	平成30年9月28日	－	－	－	濁水なし	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	3.0	3.5
5	平成31年2月7日	－	－	－	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	0.0	0.0
6	平成31年3月1日	23	22	-1	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	9	5.5	6.0
7	平成31年3月8日	6	6	0	放流停止中、 処理水は仮設沈砂池へ	11	0.0	0.0
－	平成30年度調査結果 （工事中）	6～47	6～47	-1～4	10	5～16	0.0～20.5	0.0～29.0
－	平成27年度調査結果 （降雨時）	－	9～48	－	－	－	0.5～122.0	3.5～93.5
－	平成27年度調査結果 （平常時）	－	3～9	－	－	－	0.0	0.0
環境保全目標		工事に伴って発生する濁水が、河川水質に大きく影響を及ぼさないこと					－	－

注：1）上流とは濁水放流口の上流位置を示し、下流とはその下流位置を示す。
注：2）平成27年度は、評価書記載（工事前）の調査結果。
注：3）試料採取前24時間降雨量は気象庁HP(http://www.data.kishou.go.jp/)による。
注：4）平常時調査において、調査前24時間に降雨はみられなかった。



凡例

- ●：水質調査地点：蛇川2地点（放流口上流・下流）
- ●：水質調査地点：濁水処理装置放流口(No.1・NO.2)
- →：蛇川への放流口

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

図4.2.3-1 水質　水質(浮遊物質量（SS))調査地点

2.4　一般環境中の放射性物質

1）調査の概要

調査の概要を表 4.2.4-1 に示す。調査は、表層土壌等含む残土等搬出を行う汚染土壌掘削等対策工事時に実施した。

表 4.2.4-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日・時間	調査方法	調査地点
一般環境中の放射性物質	放射性物質	残土等搬出時（概ね１回/月）	環境大臣が定める放射線の量の測定方法（平成23年12月28日環境省告示第110号）	資材等運搬車両出入り口付近

2）調査結果

調査結果を表 4.2.4-2 に示す。

いずれの調査日においても、基準は大きく下回り、バックグラウンド、大地からの放射線量とほとんど差はなかった。したがって、調査結果は予測結果と差はないもの考えられることから、環境保全目標を満足している。

表4.2.3-2　調査結果

測定年度	測定月日	空間線量率（測定結果：平均）（μSv/h）	バックグラウンド（参考）（μSv/h）	基準　注）（μSv/h）	大地からの放射線 注）（μSv/h）	測定台数（台）	搬出箇所 図4.2.4-1参照
平成29	9月11日	0.04	0.04	0.23	0.04	5	計画施設南（工事用道路）
	11月28日	0.05	0.04			8	D-3区画
	2月7日	0.04	0.04			5	D-6区画
	3月27日	0.04	0.04			5	現有施設残土
平成30	4月25日	0.05	0.04			5	E-5区画
	5月21日	0.05	0.04			5	敷地北東側表層土
	6月26日	0.04	0.04			5	計画施設周辺すき取り
	7月20日	0.03	0.04			5	C-5区画
予測結果		土壌搬出に伴って環境影響を生じさせる放射性物質を同時に移動させることはない。					
環境保全目標		放射性物質の移動、排出により、その汚染範囲を拡大させないこと。					

注：「追加被ばく線量年間１ミリシーベルトの考え方」
　　平成23年10月10日災害廃棄物安全評価検討会・環境回復検討会 第１回合同検討会 資料

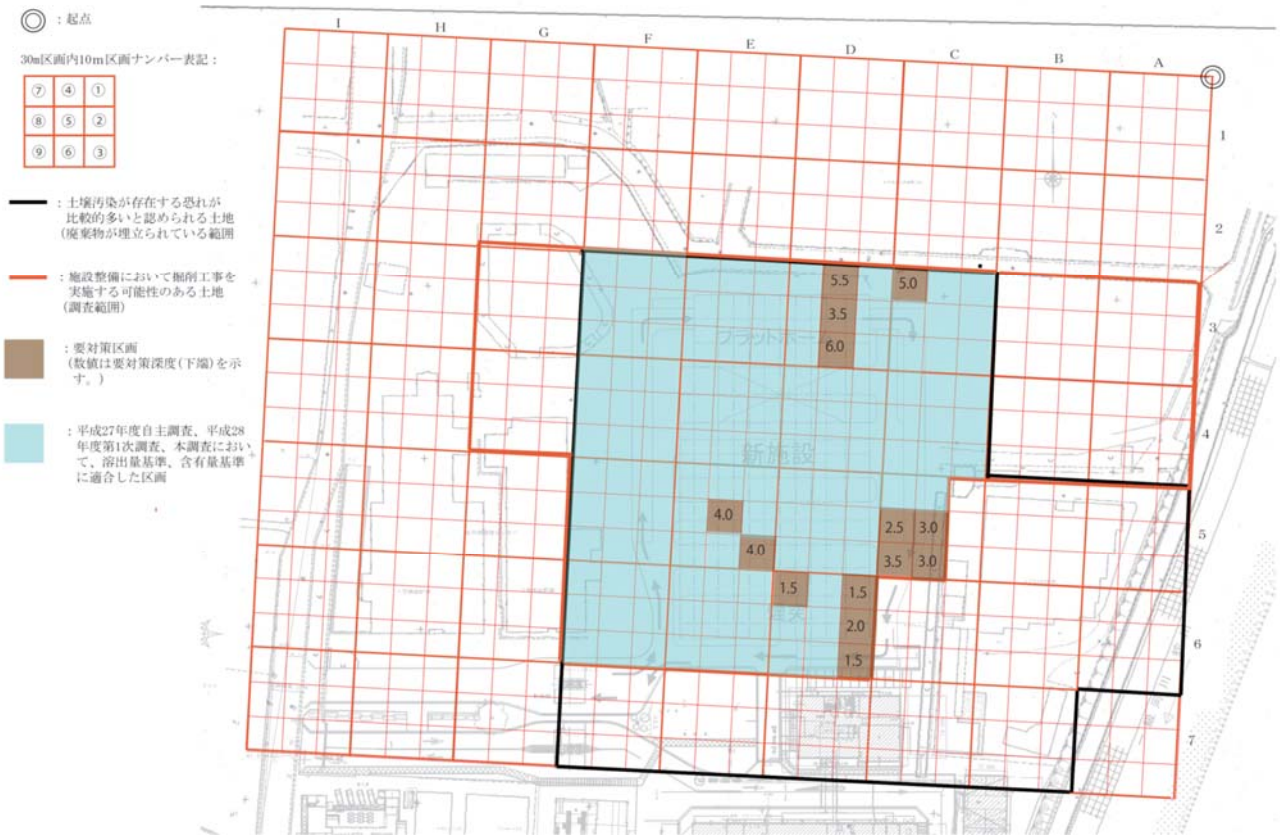

：起点
30m区画内10m区画ナンバー表記：
⑦ ④ ①
⑧ ⑤ ②
⑨ ⑥ ③
：土壌汚染が存在する恐れが比較的多いと認められる土地（廃棄物が埋立られている範囲
：施設整備において掘削工事を実施する可能性のある土地（調査範囲）
：要対策区画（数値は要対策深度（下端）を示す。）
：平成27年度自主調査、平成28年度第1次調査、本調査において、溶出量基準、含有量基準に適合した区画
I H G F E D C B A
1 2 3 4 5 6 7
5.5 5.0
3.5
6.0
4.0
2.5 3.0
4.0
3.5 3.0
1.5
1.5
2.0
1.5

図4.2.4-1　搬出箇所

3　環境調査

3.1　大気質

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.1-1 に示す。

調査時期について、資材等の運搬による影響は、汚染土壌掘削等対策工事及び杭打・掘削工事時を想定していたが、汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事の着手も予定より半年程度早まった。そのため、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討し、杭打・掘削工事時及び工場本体工事時に実施した。また、重機の稼動による影響についても同様に、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討し、杭打・掘削工事時に実施した。降下ばいじんの調査については、土工事が実施されている汚染土壌掘削等対策工事及び杭打・掘削工事の時期とした。

表 4.3.1-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
資材等の運搬	浮遊粒子状物質、二酸化窒素、交通量	平成31年3月2日～平成31年3月8日	「大気の汚染に係る環境基準について」に定める方法、カウンター計測等による方法、工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	走行ルート2地点 No.6　市道1級26号線 No.9　県道鳥山・竜舞線　稲荷神社 （図4.3.1-1参照）
重機の稼動	浮遊粒子状物質、二酸化窒素	平成30年9月21日～平成30年9月27日	「大気の汚染に係る環境基準について」に定める方法	No.1　計画地 （図4.2.1-1参照）
土工	降下ばいじん	平成30年4月24日～平成30年5月21日	ダストジャー等による方法	No.1　計画地 （図4.2.1-1参照）
		平成30年6月26日～平成30年7月20日		
		平成30年9月20日～平成30年10月18日		
		平成31年1月9日～平成31年2月7日		

2）調査結果

(1)　資材等の運搬

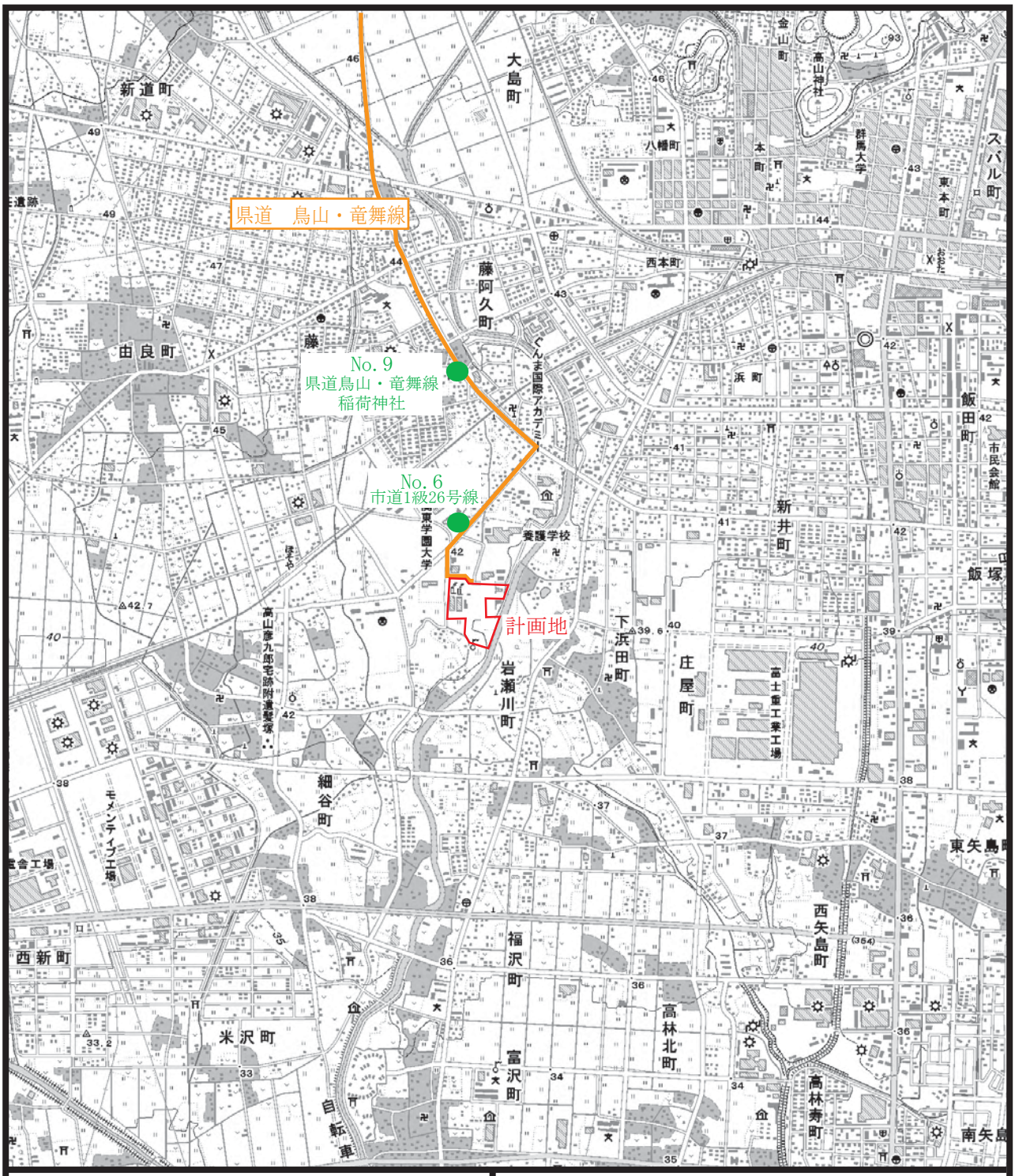
調査結果を表 4.3.1-2 に示す。

二酸化窒素（NO_2）及び浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）について、ともに環境保全目標を満足していた。また、評価書に記載の予測値と比較してもこれを下回った。なお、調査期間（平成 31 年 3 月 2～8 日）の資材等の運搬車両合計台数は、搬出入車両（大型車）で 59 台（往復 118 台）、通勤車両（小型車）で 300 台（往復 600 台）であった（各調査地点の断面交通量の詳細は 3.2　騒音参照）。

表4.3.1-2　調査結果

調査地点	調査項目			平成27年度調査結果（年間平均）[1]	日平均予測濃度[2]	平成30年度工事中調査結果	環境保全目標[3] 適合：○ 不適合：×	
No.6 市道1級26号線	二酸化窒素（NO2）	期間内平均濃度	(ppm)	0.013	0.029	**0.012**	－	－
		日平均最高濃度	(ppm)	0.025	－	**0.018**	○	0.04～0.06以下
		日平均濃度が0.06ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.04ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
	浮遊粒子状物質（SPM）	期間内平均濃度	(mg/m^3)	0.017	0.033	**0.023**	－	－
		日平均最高濃度	(mg/m^3)	0.045	－	**0.039**	○	0.10以下
		1時間濃度が0.20ppmを超えた時間数	(時間)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.10ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社	二酸化窒素（NO2）	期間内平均濃度	(ppm)	0.012	0.027	**0.012**	－	－
		日平均最高濃度	(ppm)	0.024	－	**0.018**	○	0.04～0.06以下
		日平均濃度が0.06ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.04ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
	浮遊粒子状物質（SPM）	期間内平均濃度	(mg/m^3)	0.018	0.034	**0.022**	－	－
		日平均最高濃度	(mg/m^3)	0.042	－	**0.037**	○	0.10以下
		1時間濃度が0.20ppmを超えた時間数	(時間)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.10ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。
注：2)日平均予測濃度は、評価書記載の道路端における日平均値（98%または2%除外値）の予測結果。
注：3)二酸化窒素：「二酸化窒素に係る環境基準について」、浮遊粒子状物質「大気の汚染に係る環境基準について」に基づく。



凡例

● ：大気質、騒音・振動、交通量調査地点

— ：資材等運搬車両主要走行ルート

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

図4.3.1-1　資材等の運搬による影響調査地点

(2)　重機の稼動

調査結果を表 4.3.1-3 に示す。

二酸化窒素（NO_2）及び浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）について、ともに環境保全目標を満足していた。また、評価書に記載の予測値と比較してもこれを下回った。

表4.3.1-3　調査結果

調査地点	調査項目			平成27年度調査結果（年間平均）1)	日平均予測濃度2)	平成30年度工事中調査結果	環境保全目標3) 適合：○ 不適合：×	
No.1 計画地	二酸化窒素（NO2）	期間内平均濃度	(ppm)	0.011	0.046	**0.007**	－	－
		日平均最高濃度	(ppm)	0.021	－	**0.009**	○	0.04～0.06以下
		日平均濃度が0.06ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.04ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－
	浮遊粒子状物質（SPM）	期間内平均濃度	(mg/m^3)	0.018	0.053	**0.012**	－	－
		日平均最高濃度	(mg/m^3)	0.040	－	**0.021**	○	0.10以下
		１時間濃度が0.20ppmを超えた時間数	(時間)	0	－	**0**	－	－
		日平均濃度が0.10ppmを超えた日数	(日)	0	－	**0**	－	－

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。
注：2)日平均予測濃度は、評価書記載の最大着地濃度地点における日平均値（98%または2%除外値）の予測結果。
注：3)二酸化窒素：「二酸化窒素に係る環境基準について」、浮遊粒子状物質「大気の汚染に係る環境基準について」に基づく。

(3)　土工

調査結果を表 4.3.1-4 に示す。

降下ばいじんは、最高値で 4.8t/km^2/月であり、環境保全目標を満足していた。また、評価書に記載の予測値と比較してもこれを下回った。

表4.3.1-4　調査結果

単位：t/km^2/月

調査地点	調査項目	平成27年度調査結果1)	予測結果2)	平成30年度　工事中調査結果					環境保全目標3) 適合：○ 不適合：×	
				春季	夏季	秋季	冬季	最高値		
No.1 計画地	降下ばいじん	4.5	7.8	**3.2**	**1.4**	**2.5**	**4.8**	**4.8**	○	10

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果の最高値。
注：2)予測結果は、評価書記載の近隣施設、近隣住居における予測結果の最高値。
注：3)「面整備事業環境影響評価技術マニュアル」（平成11年11月、建設省都市局都市計画課監修）参考値に基づく。

3.2　騒音

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.2-1 に示す。

調査時期について、資材等の運搬による影響は、汚染土壌掘削等対策工事及び杭打・掘削工事時を想定していたが、汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事の着手も予定より半年程度早まった。そのため、大気質と同様に、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討し、杭打・掘削工事時及び工場本体工事時に実施した。

表 4.3.2-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点（図4.3.1-1参照）
資材等の運搬	騒音レベル 交通量	平成31年3月7日12:00 ～ 平成31年3月8日12:00	「騒音に係る環境基準について」等に定める方法、 カウンター計測等による方法、 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	走行ルート2地点 No.6　市道1級26号線 No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

2）調査結果

(1)　資材等の運搬

道路交通騒音調査結果を表 4.3.2-2、図 4.3.2-1 に、自動車交通量と道路交通騒音について、平成 27 年度（工事前）との比較を図 4.3.2-2 に示す。

昼間（6 時～22 時）における等価騒音レベル（LAeq）は、No.6 市道 1 級 26 号線では 65.0dB、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社では 66.5dB であり、環境保全目標（No.6 市道 1 級 26 号線：65dB、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社 70dB）を満足していた。また、平成 27 年度調査結果及び予測値と比較すると、全体的に数値は低い傾向であった。

No.6 市道 1 級 26 号線では、交通量はほとんどの時間帯で平成 30 年度の方が少なく、騒音についても同様の傾向にあった。一方、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社では、交通量は午前中の時間帯で若干の増加、午後からは同程度、または減少しており、全体としては同程度であった。騒音については同程度もしくは低くなっていた。

表 4.3.2-2（1/2）　道路交通騒音調査結果（No.6 市道 1 級 26 号線）

単位：dB

時間帯	平成27年度調査結果 (a)[1]		平成30年度工事中調査結果 (b)	予測値 (c)		環境保全目標
	L_{Aeq}	(b)－(a)	L_{Aeq}	(b)－(c)	L_{Aeq}	
6～7時	63.4	－ 1.3	62.1	－ 2.1	64.2	「騒音に係る環境基準」B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 65dB以下 （昼間：6時～22時）
7～8時	67.3	－ 0.6	66.7	－ 0.8	67.5	
8～9時	67.8	－ 1.5	66.3	－ 2.7	69.0	
9～10時	66.2	－ 0.8	65.4	－ 2.4	67.8	
10～11時	66.2	－ 1.2	65.0	－ 2.4	67.4	
11～12時	65.5	－ 0.9	64.6	－ 2.4	67.0	
12～13時	65.0	＋ 0.9	65.9	－ 0.6	66.5	
13～14時	65.7	－ 0.4	65.3	－ 1.8	67.1	
14～15時	65.5	＋ 0.3	65.8	－ 1.1	66.9	
15～16時	66.0	＋ 0.1	66.1	－ 1.2	67.3	
16～17時	65.9	－ 0.2	65.7	－ 1.3	67.0	
17～18時	66.6	－ 1.5	65.1	－ 3.2	68.3	
18～19時	65.8	－ 1.0	64.8	－ 1.5	66.3	
19～20時	65.2	－ 2.0	63.2	－ 2.0	65.2	
20～21時	64.5	－ 2.1	62.4	－ 2.1	64.5	
21～22時	62.6	－ 2.0	60.6	－ 2.0	62.6	
6～22時平均	65.7	－ 0.8	**65.0**	－ 1.8	66.8	目標との適否：適合

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。

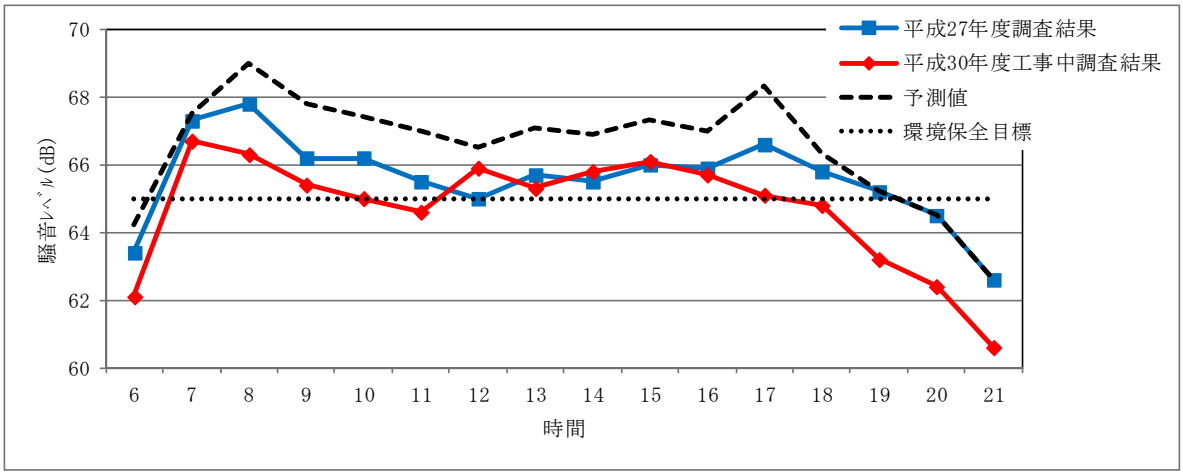


図 4.3.2-1（1/2）　道路交通騒音調査結果（No.6 市道 1 級 26 号線）

表 4.3.2-2（2/2）　道路交通騒音調査結果（No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

単位：dB

時間帯	平成27年度調査結果 (a)[1]		平成30年度工事中調査結果 (b)	予測値 (c)		環境保全目標
	L_{Aeq}	(b)－(a)	L_{Aeq}	(b)－(c)	L_{Aeq}	
6～7時	68.2	－ 1.2	67.0	－ 1.5	68.5	「騒音に係る環境基準」幹線交通を担う道路に近接する空間に係る基準 70dB以下 （昼間：6時～22時）
7～8時	68.9	－ 1.1	67.8	－ 1.3	69.1	
8～9時	68.8	－ 1.0	67.8	－ 1.8	69.6	
9～10時	68.1	－ 1.5	66.6	－ 2.5	69.1	
10～11時	67.5	－ 1.1	66.4	－ 1.9	68.3	
11～12時	67.1	－ 1.4	65.7	－ 2.4	68.1	
12～13時	66.8	＋ 0.2	67.0	－ 0.7	67.7	
13～14時	66.8	－ 0.1	66.7	－ 0.9	67.6	
14～15時	67.0	＋ 0.5	67.5	－ 0.3	67.8	
15～16時	66.8	＋ 0.4	67.2	－ 0.4	67.6	
16～17時	66.6	＋ 0.1	66.7	－ 0.7	67.4	
17～18時	64.5	＋ 1.2	65.7	＋ 0.3	65.4	
18～19時	67.0	－ 1.4	65.6	－ 1.7	67.3	
19～20時	67.3	－ 2.2	65.1	－ 2.2	67.3	
20～21時	66.7	－ 1.7	65.0	－ 1.7	66.7	
21～22時	66.1	－ 1.3	64.8	－ 1.3	66.1	
6～22時平均	67.3	－ 0.7	**66.5**	－ 1.3	67.9	目標との適否：適合

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。

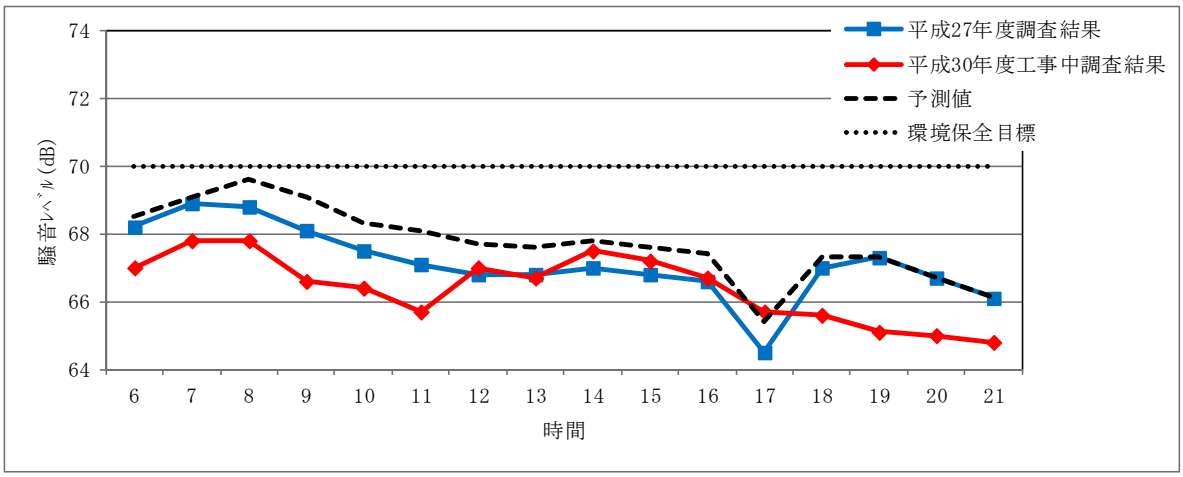
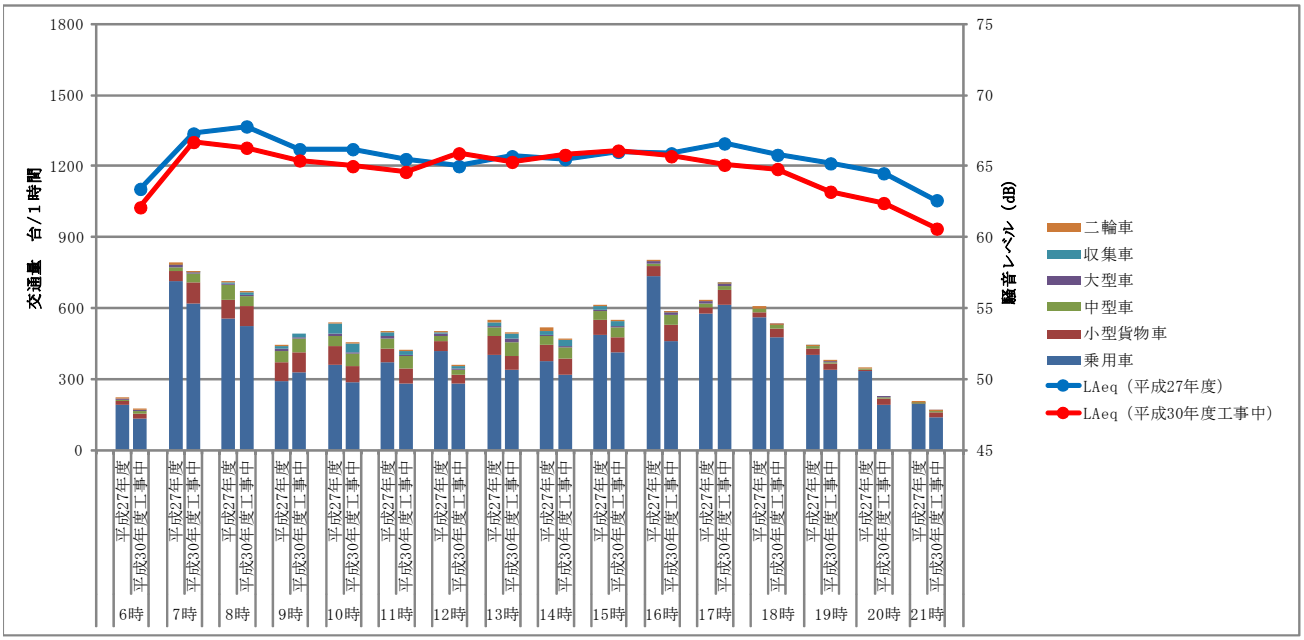
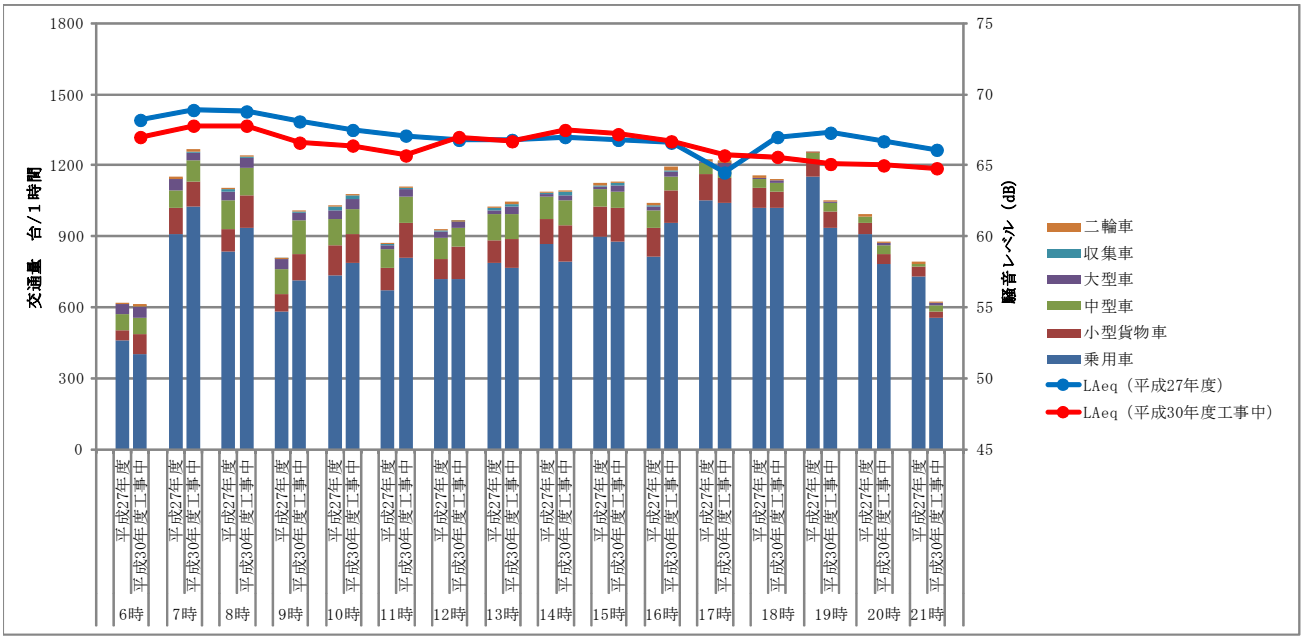


図 4.3.2-1（2/2）　道路交通騒音調査結果（No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）



注：1)平成27年度は、評価書記載（工事前）の調査結果。

図 4.3.2-2（1/2）　自動車交通量と道路交通騒音の比較（No.6 市道 1 級 26 号線）



注：1)平成27年度は、評価書記載（工事前）の調査結果。

図 4.3.2-2（2/2）　自動車交通量と道路交通騒音の比較（No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

3.3　振動

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.3-1 に示す。

資材等の運搬による影響は、汚染土壌掘削等対策工事及び杭打・掘削工事時を想定していたが、汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事の着手も予定より半年程度早まった。そのため、大気質、騒音と同様に、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討し、杭打・掘削工事時及び工場本体工事時に実施した。

表 4.3.3-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点（図4.3.1-1参照）
資材等の運搬	振動レベル	平成31年3月7日12:00 ～ 平成31年3月8日12:00	日本工業規格（JIS）に規定する方法、 工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	走行ルート2地点 No.6　市道1級26号線 No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

2）調査結果

(1)　資材等の運搬

道路交通振動調査結果を表 4.3.2-2、図 4.3.3-1 に示す。

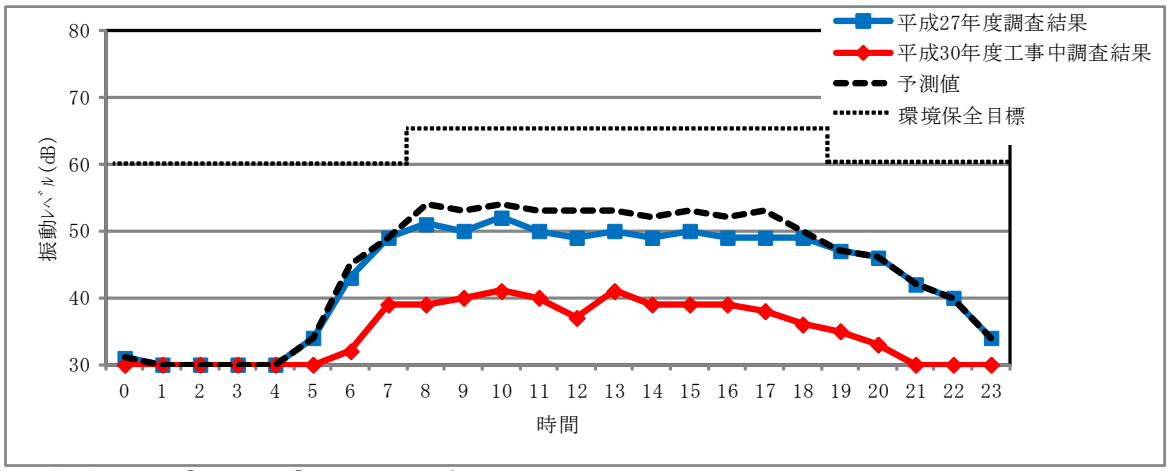
振動レベル(L_{10})は、No.6 市道 1 級 26 号線では昼間 39dB、夜間 31dB、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社では昼間 41dB、夜間 38dB であり、環境保全目標（No.6 市道 1 級 26 号線：昼間 65dB、夜間 60dB、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社：昼間 70dB、夜間 65dB）を満足していた。また、平成 27 年度調査結果及び予測値と比較すると、No.6 市道 1 級 26 号線では全体的に数値は低い傾向、No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社では同程度であった。

表 4.3.3-2（1/2）　道路交通振動調査結果（No.6 市道 1 級 26 号線）

単位：dB

時間帯	平成27年度調査結果 (a)[1)		平成30年度工事中調査結果 (b)	予測値 (c)		環境保全目標
	L_{10}	(b)－(a)	L_{10}	(b)－(c)	L_{10}	
0～1時	31	-1	<30	-1	31	「道路交通振動の限度（要請限度）」第 1 種区域 60dB以下 （夜間：19時～8時）
1～2時	<30	0	<30	0	<30	
2～3時	<30	0	<30	0	<30	
3～4時	<30	0	<30	0	<30	
4～5時	<30	0	<30	0	<30	
5～6時	34	-4	<30	-4	34	
6～7時	43	－ 11	32	－ 13	45	
7～8時	49	－ 10	39	－ 10	49	
8～9時	51	－ 12	39	－ 15	54	「道路交通振動の限度（要請限度）」第 1 種区域 65dB以下 （昼間：8時～19時）
9～10時	50	－ 10	40	－ 13	53	
10～11時	52	－ 11	41	－ 13	54	
11～12時	50	－ 10	40	－ 13	53	
12～13時	49	－ 12	37	－ 16	53	
13～14時	50	－ 9	41	－ 12	53	
14～15時	49	－ 10	39	－ 13	52	
15～16時	50	－ 11	39	－ 14	53	
16～17時	49	－ 10	39	－ 13	52	
17～18時	49	－ 11	38	－ 15	53	
18～19時	49	－ 13	36	－ 14	50	
19～20時	47	－ 12	35	－ 12	47	「道路交通振動の限度（要請限度）」第 1 種区域 60dB以下 （夜間：19時～8時）
20～21時	46	－ 13	33	－ 13	46	
21～22時	42	－ 12	30	－ 12	42	
22～23時	40	－ 10	<30	－ 10	40	
23～24時	34	－ 4	<30	－ 4	34	
昼間平均	50	－ 11	**39**	－ 14	53	目標との適否：適合
夜間平均	37	－ 6	**31**	－ 6	38	目標との適否：適合

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。
注：2)振動レベルの計算について、「<30」を「30」として取扱った。



注：振動レベル「<30」を「30」として取扱った。

図 4.3.3-1（1/2）　道路交通振動調査結果（No.6 市道 1 級 26 号線）

表 4.3.3-2（2/2）　道路交通振動調査結果（No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

単位：dB

時間帯	平成27年度調査結果 (a)[1]		平成30年度工事中調査結果 (b)	予測値 (c)		環境保全目標
	L_{10}	(b)－(a)	L_{10}	(b)－(c)	L_{10}	
0～1時	34	0	34	0	34	「道路交通振動の限度（要請限度）」第２種区域 65dB以下 （夜間：19時～8時）
1～2時	33	＋1	34	＋1	33	
2～3時	33	＋2	35	＋2	33	
3～4時	34	＋5	39	＋5	34	
4～5時	37	＋2	39	＋2	37	
5～6時	40	0	40	0	40	
6～7時	42	＋1	43	＋1	42	
7～8時	43	0	43	0	43	
8～9時	44	－1	43	－3	46	「道路交通振動の限度（要請限度）」第２種区域 70dB以下 （昼間：8時～19時）
9～10時	43	＋1	44	－1	45	
10～11時	43	0	43	－2	45	
11～12時	41	＋1	42	－2	44	
12～13時	42	－1	41	－3	44	
13～14時	41	＋2	43	0	43	
14～15時	41	0	41	－2	43	
15～16時	40	＋1	41	－1	42	
16～17時	40	0	40	－2	42	
17～18時	36	＋2	38	－1	39	
18～19時	37	0	37	0	37	
19～20時	38	－1	37	－1	38	「道路交通振動の限度（要請限度）」第２種区域 65dB以下 （夜間：19時～8時）
20～21時	37	0	37	0	37	
21～22時	35	＋1	36	＋1	35	
22～23時	35	＋1	36	＋1	35	
23～24時	34	＋2	36	＋2	34	
昼間平均	41	±0	**41**	－2	43	目標との適否：適合
夜間平均	37	＋1	**38**	＋1	37	目標との適否：適合

注：1)平成27年度調査結果は、評価書記載（工事前）の調査結果。
注：2)振動レベルの計算について、「<30」を「30」として取扱った。

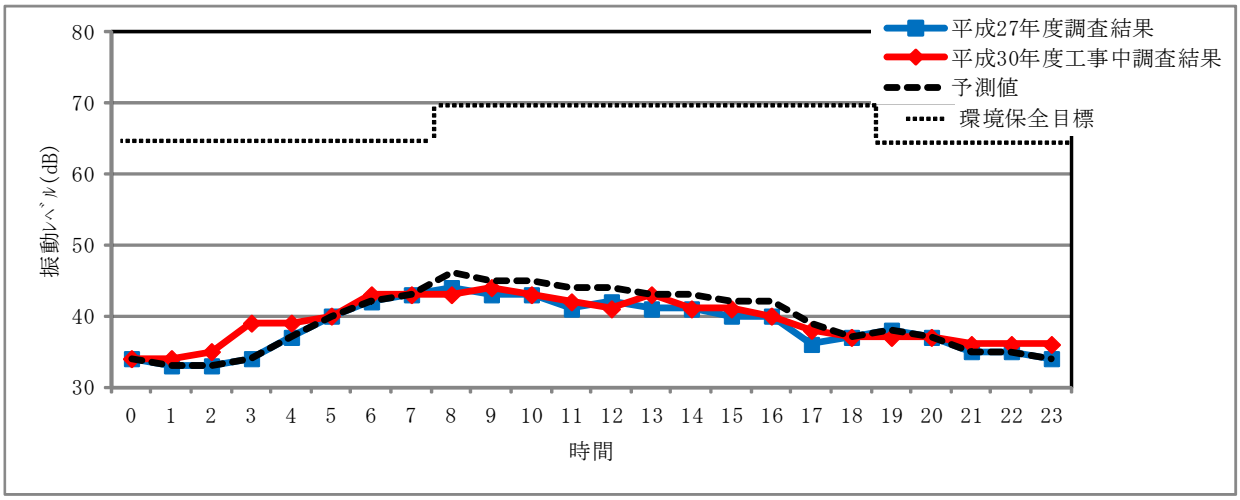


図 4.3.3-1（2/2）　道路交通振動調査結果（No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

3.4　地下水

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.4-1 に示す。

調査は、地下水質に影響を及ぼす恐れのある汚染土壌掘削等対策工事時等に実施した。

表 4.3.4-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
土工	環境保全措置の実施状況	汚染土壌掘削等対策工事の実施時	工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	No.1　計画地

2）調査結果

(1)　土工

地下水について、本環境影響評価では、遮水性の高い山留工法（ＳＭＷ工法）を採用し、特に汚染土壌対策工事に際して、環境保全措置（水処理プラントの設置）を講じるものとして予測した。

現地調査の結果、遮水性の高い山留工法（ＳＭＷ工法）を採用しており、地下水の掘削箇所への著しい流入は確認されていない。また、発生した濁水は水処理プラント設置して処理を行い、処理前についても出来る限り地下へ浸透させないように水槽を設置して貯留していることから、環境保全目標である「工事の実施に伴い地下水水質に大きく影響を及ぼさないこと」を満足していた。

写真 4.3.4-1（1/4）　山留工法（ＳＭＷ工法）

写真 4.3.4-1（2/4）　掘削箇所

写真 4.3.4-13（3/4）　水処理プラント

写真 4.3.4-1（4/4）　濁水の一時貯留水槽

3.5　土壌環境

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.5-1 に示す。

調査は、汚染土壌の飛散などより、周辺環境に影響を及ぼす恐れのある汚染土壌掘削等対策工事時等に実施した。

表 4.3.5-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
土工	環境保全措置の実施状況	汚染土壌掘削等対策工事の実施時	工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	No.1　計画地

2）調査結果

(1)　土工

汚染土壌対策工事を実施するに際し、本環境影響評価では、仮設テントの設置等、汚染土壌の飛散防止に必要な措置を講じ、また、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（暫定版）」（平成24年５月環境省 水・大気環境局 土壌環境課）に基づき、適正な運搬・処理を確保するものとして予測した。

現地調査の結果、一時仮置きした土壌には、ブルーシートで覆う等飛散防止措置を講じており、降下ばいじんの調査結果は、評価書に記載の予測値と比較してもこれを下回っている。汚染土壌については、すべて掘削除去等を行い、その対策工事は一区画（既設焼却施設スロープ横施工部）を残して平成30年4月に終了している。その一区画についても、令和元年7月に掘削除去等を行い終了している。運搬に際しては、適正な運搬・処理を確保している。よって、環境保全目標である「汚染土壌の飛散防止により、大気中の粉じん濃度に著しい影響を及ぼさず、また、土壌汚染に係る環境基準を満足すること」を満足していた。

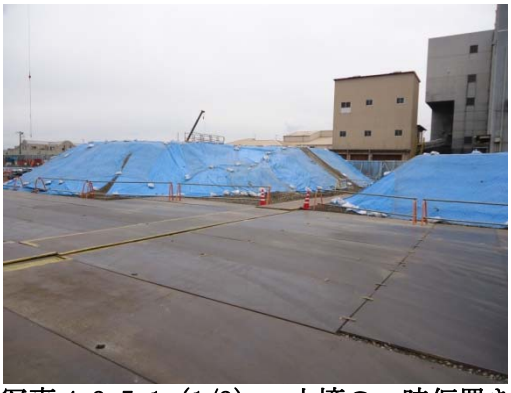


写真 4.3.5-1（1/3）　土壌の一時仮置き

写真 4.3.5-1（2/3）　降下ばいじんの測定

写真 4.3.5-1（3/3）　汚染土壌の運搬（放射性物質の監視）

3.6　廃棄物等

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.6-1 に示す。

調査は、廃棄物等が発生する工事期間中に実施した。

表 4.3.6-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
土工、 建築物の建設	環境保全措置の 実施状況	工事期間中	工事計画、実施状況の工事記録等の 把握・集計による方法	No.1　計画地

2）調査結果

(1)　土工、建築物の建設

廃棄物等について、本環境影響評価では、再資源化率及び産業廃棄物の排出及び処理状況（平成25年度実績）に示された再生利用率以上の再資源化を目指すものとして予測した。

現地調査の結果、掘削で発生した土壌に混在するコンクリートがら等副産物の分別等、建設廃棄物の発生抑制に努めている。また、令和２年度末までの副産物（廃棄物）発生量（汚泥、発生残土を除く）は4,782(t)であり、予測した工事期間4カ年全体の発生量7,025(t)を十分に下回っている。よって、環境保全目標である「廃棄物の排出量を出来る限り抑制すること」を満足していた。

写真 4.3.6-1（1/3）　副産物の分別

写真 4.3.6-1（2/3）　副産物の分別

写真 4.3.6-1（3/3）　分別について周知徹底

3.7　温室効果ガス

1）調査の概要

調査の概要を表 4.3.7-1 に示す。

調査は、工事の影響により温室効果ガスが発生する工事期間中に実施した。

表 4.3.7-1　調査の概要

区分	調査項目	調査年月日	調査方法	調査地点
資材等の運搬	環境保全措置の実施状況	工事期間中	工事計画、実施状況の工事記録等の把握・集計による方法	No.1　計画地とその周辺
重機の稼動				No.1　計画地

2）調査結果

(1)　資材等の運搬

温室効果ガスについて、本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の資材等運搬車両台数を考慮して予測した。

平成29年度から令和元年度までの工事記録を集計した結果、表4.3.7-2に示すとおり資材等運搬車両台数は想定より大幅に少なかった。よって、温室効果ガスの排出量についても、表4.3.7-3に示すとおり、工事記録から算出した結果は、311(tCO_2)となり予測結果の2,541(tCO_2)より大幅に少なかった。よって、環境保全目標である「温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること」を満足していた。

表 4.3.7-2　資材等の運搬に係る諸元と燃料使用量

区分	車種	燃費	予測結果				工事記録集計結果			
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
走行台数(台/年)	小型車(通勤車両等)	11.5 (11.9) (km/L)	3,700	22,750	49,000	53,250	2,550	8,250	18,820	20,777
	大型車(搬出入車両等)	3.4 (3.9) (km/L)	12,225	45,800	64,925	21,175	1,599	2,041	4,462	2,140
走行距離(km/年)	小型車(通勤車両等)	－	69,560	427,700	921,200	1,001,100	47,940	155,100	353,816	390,608
	大型車(搬出入車両等)	－	229,830	861,040	1,220,590	398,090	30,061	38,371	83,886	40,232
燃料使用量(kL/年)	小型車(通勤車両等)	－	6.049	37.191	80.104	87.052	4.029	13.034	29.732	32.824
	大型車(搬出入車両等)	－	67.597	253.247	358.997	117.085	7.708	9.839	21.509	10.316

注：走行台数については、資料編　参照。

燃費は、本環境影響評価では「自動車燃料消費量統計年報 平成 26 年度分」（国土交通省）を、事後調査（工事記録集計結果においては、「自動車燃料消費量統計年報 平成 29 年度分」（国土交通省）参考にして算出した。(　) は、事後調査に採用した数値。

日走行距離については、全ての工事期間で太田桐生 IC からの往復距離（約 18.8km）を走行するものとして算出した。

燃料について、小型車はガソリン、大型車は軽油とした。

表 4.3.7-3　資材等の運搬に伴う温室効果ガス排出量

発生要因	車種	燃料	発生ガスの種類	排出係数 (tCO_2/kL)	予測結果 (tCO_2/年)				工事記録集計結果 (tCO_2/年)			
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
燃料の使用	小型車	ガソリン	CO_2	2.32	14	86	185	201	9.3	30	71	76
	大型車	軽油	CO_2	2.58	174	653	926	301	20	25	64	27
合計排出量　(tCO_2)					2,541				311			
環境保全目標					温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること							

(2)　重機の稼動

温室効果ガスについて、本環境影響評価では、想定される範囲内で最大限の重機の稼動を考慮して予測した。

平成29年度から令和元年度の工事記録を集計した結果、表4.3.7-4に示すとおり燃料使用量は想定より大幅に少なかった。よって、温室効果ガスの排出量についても、表4.3.7-5に示すとおり、工事記録から算出した結果は、1,460 (tCO_2)となり予測結果の2,915(tCO_2)より大幅に少なかった。よって、環境保全目標である「温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること」を満足していた。

表 4.3.7-4　重機の稼動に伴う燃料使用量

単位：kL/年

項目	予測結果				工事記録集計結果			
工事年数	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
燃料使用量 軽油	211.4	436.0	290.4	192.1	59.8	172.8	187.1	146.2

注：燃料使用量の算出結果については、資料編　参照。
資料：平成26年度版　建設機械等損料表（(財) 日本建設機械化協会）
資料：令和元年度版　建設機械等損料表（(財) 日本建設機械化協会）

表 4.3.7-5　重機の稼動に伴う温室効果ガス排出量

発生要因	車種	燃料	発生ガスの種類	排出係数 (tCO_2/kL)	予測結果 (tCO_2/年)				工事記録集計結果 (tCO_2/年)			
					平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
燃料の使用	大型車	軽油	CO_2	2.58	545	1,125	749	496	154	446	483	377
合計排出量　(tCO_2)					2,915				1,460			
環境保全目標					温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること							

4　調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較

調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較を表 4.4-1 及び表 4.4-2 に示す。

表 4.4-1　調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較（発生源強度確認調査）

区分	調査地点		調査項目	調査結果	予測結果	環境保全目標	環境保全目標との比較
重機の稼動騒音	解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時	敷地境界（北側）	騒音レベル L_5	65 dB	68 dB	85 dB以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。
		敷地境界（東側）		55 dB	64 dB		
		敷地境界（西側）		50 dB	62 dB		
	工場棟本体工事、外構工事時	敷地境界（北側）		65 dB	62 dB		
		敷地境界（東側）		64 dB	64 dB		
		敷地境界（西側）		60 dB	61 dB		
重機の稼動振動	解体・撤去工事、汚染土壌掘削等対策工事時	敷地境界（北側）	振動レベル L_{10}	44 dB	－	75 dB以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。
		敷地境界（東側）		35 dB	－		
		敷地境界（西側）		39 dB	－		
	工場棟本体工事、外構工事時	敷地境界（北側）		45 dB	46 dB		
		敷地境界（東側）		37 dB	42 dB		
		敷地境界（西側）		37 dB	36 dB		
水質（濁水）	蛇川（濁水放流口）	上流	浮遊物質量 ＳＳ	6～47 mg/L	予測結果は、現況と大きな差はない。	「工事に伴って発生する濁水が、河川水質に大きく影響を及ぼさないこと。」	濁水放流口の上流、下流でSSに大きな差はなく、放流水も同程度の数値であることから、満足している。
		下流		6～47 mg/L			
	濁水処理装置	放流水No.1		10 mg/L			
		放流水No.2		5～16 mg/L			
一般環境中の放射性物質	資材等運搬車両出入り口付近（搬出土）		放射性物質（空間線量率）	0.03～0.05 μSv/h （バックグラウンド0.04 μSv/h）	工事の実施に伴って環境影響を生じさせる放射性物質を同時に移動させることはないと考える。	「放射性物質の移動、排出により、その汚染範囲を拡大させないこと。」	調査結果は予測結果と差はないもの考えられることから、環境保全目標を満足している。

注：敷地境界は、計画地の敷地境界を示す。

表 4.4-2（1/2）　調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較（環境調査）

区分		調査地点	調査項目	調査結果	予測結果	環境保全目標	環境保全目標との比較
大気質	資材等の運搬[1]	No.6 市道1級26号線	二酸化窒素（NO_2）	0.018 ppm (0.012 ppm)	0.029 ppm	二酸化窒素：日平均値 0.04～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下、浮遊粒子状物質：日平均値0.10mg/m^3以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。
			浮遊粒子状物質（SPM）	0.039 mg/m^3 (0.023 mg/m^3)	0.033 mg/m^3		
		No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社	二酸化窒素（NO_2）	0.018 ppm (0.012 ppm)	0.027 ppm		環境保全目標値以下であることから、満足している。
			浮遊粒子状物質（SPM）	0.037 mg/m^3 (0.022 mg/m^3)	0.034 mg/m^3		
	重機の稼動[1]	No.1　計画地	二酸化窒素（NO_2）	0.009 ppm (0.007 ppm)	0.046 ppm		環境保全目標値以下であることから、満足している。
			浮遊粒子状物質（SPM）	0.021 mg/m^3 (0.012 mg/m^3)	0.053 mg/m^3		
	土工	No.1　計画地	降下ばいじん	1.4～4.8 t/km^2/月	7.8 t/km^2/月	10 t/km^2/月以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。

注：1)調査結果は日平均最高濃度、（　）は期間内平均濃度を示す。また、予測結果は日平均予測濃度（98%または２%除外値）を示す。

表 4.4-2（2/2）　調査結果と予測結果及び環境保全目標との比較（環境調査）

区分		調査地点	調査項目	調査結果	予測結果	環境保全目標	環境保全目標との比較
騒音	資材等の運搬	No.6 市道1級26号線	騒音レベル	65.0 dB	66.8 dB	65 dB以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。
		No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社		66.5 dB	67.9 dB	70 dB以下	
振動	資材等の運搬	No.6 市道1級26号線	振動レベル	昼間 39 dB	昼間 53 dB	65 dB以下	環境保全目標値以下であることから、満足している。
				夜間 31 dB	夜間 38 dB	60 dB以下	
		No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社		昼間 41 dB	昼間 43 dB	70 dB以下	
				夜間 38 dB	夜間 37 dB	65 dB以下	
地下水	土工	No.1　計画地	環境保全措置の実施状況	遮水性の高い山留工法（ＳＭＷ工法）を採用しており、地下水の掘削箇所への著しい流入は確認されていない。また、発生した濁水は水処理プラント設置して処理を行い、処理前についても出来る限り地下へ浸透させないように水槽を設置して貯留している。	掘削にあたっては、遮水性の高い山留工法を採用し、地下水の掘削箇所への流入を極力防止するとともに、特に汚染土壌対策工事の実施する場合にあっては、貯留した一部の湧水、雨水等は出来る限り地下へ浸透させず、水処理プラントを設置し処理することから、掘削による地下水への影響は低減される。	「工事の実施に伴い地下水水質に大きく影響を及ぼさないこと」	適切な環境保全措置を講じていることから環境保全目標を満足している。
土壌環境	土工	No.1　計画地	環境保全措置の実施状況	一時仮置きした土壌には、ブルーシートで覆う等飛散防止措置を講じており、降下ばいじんの調査結果は、評価書に記載の予測値と比較してもこれを下回っている。汚染土壌については、すべて掘削除去等を行い終了している。運搬に際しては、適正な運搬・処理を確保している。	汚染土壌対策工事を実施するに際し、仮設テントの設置等、汚染土壌の飛散防止に必要な措置を講じ、また、「汚染土壌の運搬に関するガイドライン（暫定版）」（平成24年5月環境省 水・大気環境局 土壌環境課）に基づき、適正な運搬・処理を確保する。	「汚染土壌の飛散防止により、大気中の粉じん濃度に著しい影響を及ぼさず、また、土壌汚染に係る環境基準を満足すること」	適切な環境保全措置を講じていることから環境保全目標を満足している。
廃棄物等	土工、 建築物の建設	No.1　計画地	環境保全措置の実施状況	掘削で発生した土壌に混在するコンクリートがら等副産物の分別等、建設廃棄物の発生抑制に努めている。	再資源化率及び産業廃棄物の排出及び処理状況（平成25年度実績）に示された再生利用率以上の再資源化を目指す。	「廃棄物の排出量を出来る限り抑制すること」	適切な環境保全措置を講じており、また、副産物（廃棄物）発生量（汚泥、発生残土を除く）は予測発生量を十分に下回っていることから環境保全目標を満足している。
			建設工事時に発生する副産物	4,782 t （汚泥、発生残土を除く）	7,025 t （汚泥、発生残土を除く）		
温室効果ガス	資材等の運搬	No.1　計画地とその周辺	環境保全措置の実施状況（温室効果ガス排出量）	311 tCO_2	2,541 tCO_2	「温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること」	適切な環境保全措置を講じており、また、温室効果ガスは予測発生量を大幅に下回っていることから環境保全目標を満足している。
	重機の稼動	No.1　計画地	環境保全措置の実施状況（温室効果ガス排出量）	1,460 tCO_2	2,915 tCO_2		

第５章　調査結果の検討結果及び今後講ずる措置

1　調査結果が予測結果と著しく異なる場合のその原因の検討結果

第４章で示したとおり、調査結果は、重機の稼動騒音（工場棟本体工事、外構工事時）については、評価書の予測値よりも同程度または若干高くなっていたが、環境保全目標を満足していた。また、その他の項目については、予測結果と同程度または低い結果であり、環境保全措置についても適切に実施されており、すべての項目において環境保全目標を満足していた。なお、温室効果ガスにおいて、予測結果よりも工事記録から算出した結果は大幅に少なかった。予測結果が過大であったのは、各メーカーへのヒアリングを行い、最も影響が大きいと考えられる条件で算出したためである。

2　追加の環境保全措置等

第４章で示したとおり、調査結果は、重機の稼動騒音（工場棟本体工事、外構工事時）については、評価書の予測値よりも同程度または若干高くなっていたが、環境保全目標を満足していた。また、その他の項目については、予測結果と同程度または低い結果となり、環境保全措置についても適切に実施されていることから、追加の環境保全措置等は講じていない。

3　事後調査計画を見直した場合の事後調査計画等

平成 30 年度は、第４章で示したとおり汚染土壌掘削等対策工事が予定より早く完了し、工場棟本体工事の着手も予定より半年程度早まったことに伴い、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討した。その結果、重機の稼働による影響について大気質調査の調査時期を、資材等の運搬による影響について大気質及び騒音・振動調査の調査時期を変更して行った。

令和元年度は、工場棟本体工事を中心に実施されており、令和 2 年に入り外構工事も一部実施されることとなった。重機の稼働による影響について、2 回目の騒音・振動調査の調査時期は、工場本体工事及び外構工事が重なる時期を想定していたことから、メーカー（工事施工業者）に工程を確認し、影響が大きくなる時期を検討した。その結果、令和 2 年 5 月に 2 回目の騒音・振動調査を行った。

第６章　事後調査を委託した者の名称・代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

事後調査に係る業務の委託先は以下のとおりである。

名　　称：株式会社　日建技術コンサルタント　群馬営業所
代表者氏名：所長　岸江　洋充
所　在　地：群馬県伊勢崎市羽黒町 21 番地 16

資　料　編

資料１　大気質調査結果（重機の稼動、資材等の運搬）

大気質調査結果を次頁以降に示す。

一酸化窒素調査結果　(No.1計画地)　【夏季】

調査時期：夏季
調査期間：平成30年9月21日(金)～9月27日(木)
測定地点：No.1計画地

単位：ppm

月日(曜) 時	9月21日 (金)	9月22日 (土)	9月23日 (日)	9月24日 (月)	9月25日 (火)	9月26日 (水)	9月27日 (木)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
1 ～ 2	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
2 ～ 3	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
3 ～ 4	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
4 ～ 5	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
5 ～ 6	0.000	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
6 ～ 7	0.001	0.002	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.001
7 ～ 8	0.001	0.003	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.003	0.000	0.001
8 ～ 9	0.002	0.006	0.001	0.001	0.002	0.001	0.000	7	0.006	0.000	0.002
9 ～ 10	0.002	0.012	0.001	0.001	0.007	0.002	0.000	7	0.012	0.000	0.004
10 ～ 11	0.001	0.003	0.000	0.002	0.002	0.001	0.001	7	0.003	0.000	0.001
11 ～ 12	0.002	0.002	0.000	0.004	0.001	0.001	0.003	7	0.004	0.000	0.002
12 ～ 13	0.001	0.002	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.001
13 ～ 14	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.003	7	0.003	0.000	0.001
14 ～ 15	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	7	0.001	0.000	0.000
15 ～ 16	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000
16 ～ 17	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
17 ～ 18	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000
18 ～ 19	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	7	0.001	0.000	0.000
19 ～ 20	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.006	7	0.006	0.000	0.001
20 ～ 21	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.004	7	0.004	0.000	0.001
21 ～ 22	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.006	7	0.006	0.000	0.001
22 ～ 23	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.005	7	0.005	0.000	0.001
23 ～ 24	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.008	7	0.008	0.000	0.001
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.002	0.012	0.001	0.004	0.007	0.002	0.008		0.012		
最　低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000	
平　均	0.001	0.002	0.000	0.001	0.001	0.000	0.002				0.001
日平均値の最高値		0.002									

二酸化窒素調査結果　(No.1計画地)　【夏季】

調査時期：夏季

調査期間：平成30年9月21日(金)～9月27日(木)

測定地点：No.1計画地

単位：ppm

月日(曜) 時	9月21日 (金)	9月22日 (土)	9月23日 (日)	9月24日 (月)	9月25日 (火)	9月26日 (水)	9月27日 (木)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.004	0.009	0.003	0.003	0.004	0.002	0.004	7	0.009	0.002	0.004
1 ～ 2	0.004	0.009	0.003	0.002	0.004	0.002	0.003	7	0.009	0.002	0.004
2 ～ 3	0.004	0.008	0.002	0.003	0.005	0.001	0.002	7	0.008	0.001	0.004
3 ～ 4	0.003	0.007	0.003	0.003	0.005	0.002	0.004	7	0.007	0.002	0.004
4 ～ 5	0.004	0.007	0.003	0.005	0.006	0.003	0.003	7	0.007	0.003	0.004
5 ～ 6	0.004	0.007	0.004	0.007	0.009	0.004	0.005	7	0.009	0.004	0.006
6 ～ 7	0.006	0.009	0.004	0.008	0.009	0.005	0.009	7	0.009	0.004	0.007
7 ～ 8	0.008	0.008	0.004	0.006	0.009	0.005	0.009	7	0.009	0.004	0.007
8 ～ 9	0.009	0.012	0.004	0.008	0.010	0.004	0.008	7	0.012	0.004	0.008
9 ～ 10	0.013	0.021	0.004	0.007	0.014	0.010	0.009	7	0.021	0.004	0.011
10 ～ 11	0.008	0.009	0.003	0.011	0.009	0.004	0.010	7	0.011	0.003	0.008
11 ～ 12	0.010	0.007	0.002	0.007	0.008	0.006	0.013	7	0.013	0.002	0.008
12 ～ 13	0.009	0.005	0.002	0.005	0.005	0.005	0.010	7	0.010	0.002	0.006
13 ～ 14	0.009	0.006	0.002	0.003	0.006	0.005	0.013	7	0.013	0.002	0.006
14 ～ 15	0.007	0.006	0.002	0.005	0.010	0.006	0.011	7	0.011	0.002	0.007
15 ～ 16	0.008	0.004	0.002	0.005	0.013	0.006	0.010	7	0.013	0.002	0.007
16 ～ 17	0.010	0.006	0.002	0.004	0.009	0.006	0.010	7	0.010	0.002	0.007
17 ～ 18	0.010	0.009	0.003	0.005	0.010	0.006	0.011	7	0.011	0.003	0.008
18 ～ 19	0.010	0.011	0.003	0.007	0.012	0.006	0.015	7	0.015	0.003	0.009
19 ～ 20	0.009	0.012	0.004	0.011	0.011	0.007	0.015	7	0.015	0.004	0.010
20 ～ 21	0.008	0.009	0.004	0.008	0.008	0.005	0.015	7	0.015	0.004	0.008
21 ～ 22	0.007	0.009	0.004	0.009	0.006	0.003	0.012	7	0.012	0.003	0.007
22 ～ 23	0.006	0.004	0.004	0.006	0.006	0.004	0.012	7	0.012	0.004	0.006
23 ～ 24	0.007	0.003	0.004	0.005	0.003	0.003	0.012	7	0.012	0.003	0.005
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.013	0.021	0.004	0.011	0.014	0.010	0.015		0.021		
最　低	0.003	0.003	0.002	0.002	0.003	0.001	0.002			0.001	
平　均	0.007	0.008	0.003	0.006	0.008	0.005	0.009				0.007

日平均値の最高値	0.009	
日平均値が0.06ppmを超えた日数		0
日平均値が0.04～0.06ppmを超えた日数		0

窒素酸化物調査結果　(No.1計画地)　【夏季】

調査時期：夏季
調査期間：平成30年9月21日(金)～9月27日(木)
測定地点：No.1計画地

単位：ppm

月日(曜) 時	9月21日 (金)	9月22日 (土)	9月23日 (日)	9月24日 (月)	9月25日 (火)	9月26日 (水)	9月27日 (木)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.004	0.009	0.004	0.003	0.004	0.002	0.004	7	0.009	0.002	0.004
1 ～ 2	0.004	0.009	0.004	0.002	0.004	0.002	0.003	7	0.009	0.002	0.004
2 ～ 3	0.004	0.008	0.003	0.003	0.005	0.001	0.002	7	0.008	0.001	0.004
3 ～ 4	0.003	0.007	0.004	0.003	0.005	0.002	0.004	7	0.007	0.002	0.004
4 ～ 5	0.004	0.007	0.004	0.005	0.006	0.003	0.003	7	0.007	0.003	0.005
5 ～ 6	0.004	0.007	0.005	0.007	0.010	0.004	0.005	7	0.010	0.004	0.006
6 ～ 7	0.007	0.011	0.005	0.008	0.010	0.005	0.009	7	0.011	0.005	0.008
7 ～ 8	0.009	0.011	0.005	0.006	0.010	0.005	0.009	7	0.011	0.005	0.008
8 ～ 9	0.011	0.018	0.005	0.009	0.012	0.005	0.008	7	0.018	0.005	0.010
9 ～ 10	0.015	0.033	0.005	0.008	0.021	0.012	0.009	7	0.033	0.005	0.015
10 ～ 11	0.009	0.012	0.003	0.013	0.011	0.005	0.011	7	0.013	0.003	0.009
11 ～ 12	0.012	0.009	0.002	0.011	0.009	0.007	0.016	7	0.016	0.002	0.009
12 ～ 13	0.010	0.007	0.002	0.006	0.006	0.005	0.010	7	0.010	0.002	0.007
13 ～ 14	0.010	0.007	0.002	0.004	0.006	0.005	0.016	7	0.016	0.002	0.007
14 ～ 15	0.007	0.007	0.002	0.005	0.010	0.006	0.012	7	0.012	0.002	0.007
15 ～ 16	0.008	0.005	0.002	0.006	0.013	0.007	0.010	7	0.013	0.002	0.007
16 ～ 17	0.011	0.007	0.002	0.005	0.009	0.006	0.010	7	0.011	0.002	0.007
17 ～ 18	0.010	0.010	0.003	0.005	0.010	0.006	0.011	7	0.011	0.003	0.008
18 ～ 19	0.010	0.012	0.003	0.007	0.012	0.006	0.016	7	0.016	0.003	0.009
19 ～ 20	0.009	0.013	0.004	0.011	0.011	0.007	0.021	7	0.021	0.004	0.011
20 ～ 21	0.008	0.010	0.004	0.008	0.008	0.005	0.019	7	0.019	0.004	0.009
21 ～ 22	0.007	0.010	0.004	0.009	0.006	0.003	0.018	7	0.018	0.003	0.008
22 ～ 23	0.006	0.005	0.004	0.006	0.006	0.004	0.017	7	0.017	0.004	0.007
23 ～ 24	0.007	0.004	0.004	0.005	0.003	0.003	0.020	7	0.020	0.003	0.007
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.015	0.033	0.005	0.013	0.021	0.012	0.021		0.033		
最　低	0.003	0.004	0.002	0.002	0.003	0.001	0.002			0.001	
平　均	0.008	0.010	0.004	0.006	0.009	0.005	0.011				0.007
日平均値の最高値		0.011									

浮遊粒子状物質調査結果　(No.1計画地)　【夏季】

調査時期：夏季

調査期間：平成30年9月21日(金)～9月27日(木)

測定地点：No.1計画地

単位：mg/m^3

月日(曜) 時	9月21日 (金)	9月22日 (土)	9月23日 (日)	9月24日 (月)	9月25日 (火)	9月26日 (水)	9月27日 (木)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.000	0.005	0.005	0.014	0.012	0.005	0.001	7	0.014	0.000	0.006
1 ～ 2	0.005	0.004	0.010	0.009	0.016	0.009	0.002	7	0.016	0.002	0.008
2 ～ 3	0.009	0.010	0.008	0.022	0.016	0.012	0.003	7	0.022	0.003	0.011
3 ～ 4	0.001	0.018	0.018	0.016	0.017	0.007	0.003	7	0.018	0.001	0.011
4 ～ 5	0.012	0.035	0.023	0.008	0.018	0.007	0.006	7	0.035	0.006	0.016
5 ～ 6	0.016	0.034	0.017	0.027	0.024	0.010	0.003	7	0.034	0.003	0.019
6 ～ 7	0.019	0.025	0.012	0.023	0.028	0.005	0.002	7	0.028	0.002	0.016
7 ～ 8	0.013	0.019	0.011	0.020	0.023	0.003	0.004	7	0.023	0.003	0.013
8 ～ 9	0.015	0.006	0.013	0.021	0.005	0.004	0.000	7	0.021	0.000	0.009
9 ～ 10	0.000	0.006	0.028	0.019	0.040	0.007	0.001	7	0.040	0.000	0.014
10 ～ 11	0.008	0.006	0.010	0.015	0.030	0.008	0.002	7	0.030	0.002	0.011
11 ～ 12	0.004	0.001	0.005	0.024	0.023	0.005	0.002	7	0.024	0.001	0.009
12 ～ 13	0.001	0.000	0.008	0.015	0.025	0.010	0.008	7	0.025	0.000	0.010
13 ～ 14	0.002	0.005	0.023	0.024	0.034	0.009	0.001	7	0.034	0.001	0.014
14 ～ 15	0.002	0.002	0.028	0.015	0.009	0.010	0.005	7	0.028	0.002	0.010
15 ～ 16	0.002	0.010	0.015	0.022	0.011	0.012	0.000	7	0.022	0.000	0.010
16 ～ 17	0.001	0.013	0.021	0.025	0.011	0.013	0.001	7	0.025	0.001	0.012
17 ～ 18	0.003	0.021	0.008	0.031	0.002	0.021	0.002	7	0.031	0.002	0.013
18 ～ 19	0.008	0.028	0.019	0.031	0.009	0.013	0.014	7	0.031	0.008	0.017
19 ～ 20	0.005	0.039	0.017	0.025	0.006	0.021	0.014	7	0.039	0.005	0.018
20 ～ 21	0.011	0.016	0.010	0.025	0.012	0.024	0.016	7	0.025	0.010	0.016
21 ～ 22	0.008	0.005	0.004	0.019	0.008	0.011	0.022	7	0.022	0.004	0.011
22 ～ 23	0.006	0.005	0.006	0.025	0.007	0.012	0.023	7	0.025	0.005	0.012
23 ～ 24	0.006	0.003	0.006	0.020	0.005	0.003	0.026	7	0.026	0.003	0.010
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.019	0.039	0.028	0.031	0.040	0.024	0.026		0.040		
最　低	0.000	0.000	0.004	0.008	0.002	0.003	0.000			0.000	
平　均	0.007	0.013	0.014	0.021	0.016	0.010	0.007				0.012

日平均値の最高値	0.021	
1時間値が0.20mg/m^{3}を超えた時間数		0
日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日数		0

一酸化窒素調査結果　(No.6 市道1級26号線)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.6 市道1級26号線

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.004	0.001	7	0.004	0.001	0.002
1 ～ 2	0.001	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002	0.001	7	0.003	0.001	0.002
2 ～ 3	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.002	0.001	7	0.002	0.001	0.001
3 ～ 4	0.001	0.001	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	7	0.003	0.001	0.002
4 ～ 5	0.002	0.001	0.004	0.009	0.001	0.003	0.002	7	0.009	0.001	0.003
5 ～ 6	0.000	0.001	0.002	0.006	0.004	0.003	0.002	7	0.006	0.000	0.003
6 ～ 7	0.002	0.001	0.006	0.010	0.005	0.002	0.003	7	0.010	0.001	0.004
7 ～ 8	0.010	0.003	0.005	0.016	0.008	0.006	0.004	7	0.016	0.003	0.007
8 ～ 9	0.003	0.003	0.008	0.017	0.009	0.008	0.005	7	0.017	0.003	0.008
9 ～ 10	0.002	0.003	0.012	0.010	0.009	0.008	0.004	7	0.012	0.002	0.007
10 ～ 11	0.001	0.004	0.008	0.006	0.007	0.008	0.003	7	0.008	0.001	0.005
11 ～ 12	0.002	0.003	0.007	0.004	0.009	0.006	0.002	7	0.009	0.002	0.005
12 ～ 13	0.002	0.002	0.006	0.002	0.005	0.005	0.002	7	0.006	0.002	0.003
13 ～ 14	0.002	0.002	0.004	0.003	0.004	0.004	0.003	7	0.004	0.002	0.003
14 ～ 15	0.001	0.002	0.006	0.003	0.003	0.005	0.004	7	0.006	0.001	0.003
15 ～ 16	0.002	0.002	0.004	0.002	0.003	0.005	0.003	7	0.005	0.002	0.003
16 ～ 17	0.003	0.002	0.003	0.001	0.002	0.005	0.005	7	0.005	0.001	0.003
17 ～ 18	0.002	0.002	0.004	0.003	0.002	0.003	0.004	7	0.004	0.002	0.003
18 ～ 19	0.001	0.002	0.002	0.003	0.004	0.003	0.002	7	0.004	0.001	0.002
19 ～ 20	0.001	0.001	0.001	0.001	0.004	0.001	0.002	7	0.004	0.001	0.002
20 ～ 21	0.001	0.001	0.002	0.001	0.003	0.002	0.002	7	0.003	0.001	0.002
21 ～ 22	0.001	0.001	0.003	0.001	0.003	0.001	0.002	7	0.003	0.001	0.002
22 ～ 23	0.001	0.001	0.002	0.001	0.005	0.001	0.001	7	0.005	0.001	0.002
23 ～ 24	0.001	0.001	0.002	0.001	0.004	0.001	0.003	7	0.004	0.001	0.002
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.010	0.004	0.012	0.017	0.009	0.008	0.005		0.017		
最　低	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001			0.000	
平　均	0.002	0.002	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003				0.003
日平均値の最高値		0.004									

二酸化窒素調査結果　(No.6 市道1級26号線)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.6 市道1級26号線

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.006	0.015	0.008	0.009	0.008	0.020	0.005	7	0.020	0.005	0.010
1 ～ 2	0.005	0.012	0.007	0.010	0.011	0.019	0.003	7	0.019	0.003	0.010
2 ～ 3	0.007	0.013	0.007	0.009	0.013	0.016	0.002	7	0.016	0.002	0.010
3 ～ 4	0.007	0.012	0.008	0.011	0.011	0.011	0.003	7	0.012	0.003	0.009
4 ～ 5	0.005	0.010	0.010	0.018	0.012	0.011	0.005	7	0.018	0.005	0.010
5 ～ 6	0.008	0.011	0.008	0.019	0.017	0.008	0.004	7	0.019	0.004	0.011
6 ～ 7	0.011	0.012	0.011	0.025	0.022	0.009	0.006	7	0.025	0.006	0.014
7 ～ 8	0.015	0.012	0.015	0.027	0.024	0.015	0.008	7	0.027	0.008	0.017
8 ～ 9	0.009	0.014	0.019	0.025	0.021	0.020	0.006	7	0.025	0.006	0.016
9 ～ 10	0.005	0.014	0.022	0.017	0.020	0.019	0.005	7	0.022	0.005	0.015
10 ～ 11	0.004	0.012	0.020	0.013	0.018	0.017	0.004	7	0.020	0.004	0.013
11 ～ 12	0.005	0.008	0.018	0.011	0.017	0.016	0.004	7	0.018	0.004	0.011
12 ～ 13	0.005	0.007	0.015	0.010	0.015	0.013	0.004	7	0.015	0.004	0.010
13 ～ 14	0.004	0.009	0.010	0.011	0.013	0.012	0.005	7	0.013	0.004	0.009
14 ～ 15	0.005	0.010	0.012	0.011	0.014	0.014	0.005	7	0.014	0.005	0.010
15 ～ 16	0.005	0.010	0.012	0.010	0.016	0.015	0.005	7	0.016	0.005	0.010
16 ～ 17	0.006	0.011	0.014	0.008	0.016	0.015	0.006	7	0.016	0.006	0.011
17 ～ 18	0.009	0.012	0.017	0.014	0.018	0.017	0.005	7	0.018	0.005	0.013
18 ～ 19	0.013	0.012	0.012	0.016	0.026	0.015	0.006	7	0.026	0.006	0.014
19 ～ 20	0.015	0.011	0.010	0.012	0.028	0.008	0.006	7	0.028	0.006	0.013
20 ～ 21	0.011	0.009	0.010	0.008	0.023	0.007	0.007	7	0.023	0.007	0.011
21 ～ 22	0.011	0.009	0.012	0.007	0.026	0.005	0.012	7	0.026	0.005	0.012
22 ～ 23	0.009	0.009	0.014	0.006	0.030	0.004	0.009	7	0.030	0.004	0.012
23 ～ 24	0.014	0.008	0.012	0.006	0.022	0.004	0.021	7	0.022	0.004	0.012
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.015	0.015	0.022	0.027	0.030	0.020	0.021		0.030		
最　低	0.004	0.007	0.007	0.006	0.008	0.004	0.002			0.002	
平　均	0.008	0.011	0.013	0.013	0.018	0.013	0.006				0.012

日平均値の最高値	0.018	
日平均値が0.06ppmを超えた日数		0
日平均値が0.04～0.06ppmを超えた日数		0

窒素酸化物調査結果　(No.6 市道1級26号線)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.6 市道1級26号線

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.007	0.017	0.009	0.010	0.009	0.024	0.006	7	0.024	0.006	0.012
1 ～ 2	0.006	0.013	0.008	0.012	0.014	0.021	0.004	7	0.021	0.004	0.011
2 ～ 3	0.008	0.014	0.008	0.010	0.015	0.018	0.003	7	0.018	0.003	0.011
3 ～ 4	0.008	0.013	0.011	0.014	0.013	0.013	0.005	7	0.014	0.005	0.011
4 ～ 5	0.007	0.011	0.014	0.027	0.013	0.014	0.007	7	0.027	0.007	0.013
5 ～ 6	0.008	0.012	0.010	0.025	0.021	0.011	0.006	7	0.025	0.006	0.013
6 ～ 7	0.013	0.013	0.017	0.035	0.027	0.011	0.009	7	0.035	0.009	0.018
7 ～ 8	0.025	0.015	0.020	0.043	0.032	0.021	0.012	7	0.043	0.012	0.024
8 ～ 9	0.012	0.017	0.027	0.042	0.030	0.028	0.011	7	0.042	0.011	0.024
9 ～ 10	0.007	0.017	0.034	0.027	0.029	0.027	0.009	7	0.034	0.007	0.021
10 ～ 11	0.005	0.016	0.028	0.019	0.025	0.025	0.007	7	0.028	0.005	0.018
11 ～ 12	0.007	0.011	0.025	0.015	0.026	0.022	0.006	7	0.026	0.006	0.016
12 ～ 13	0.007	0.009	0.021	0.012	0.020	0.018	0.006	7	0.021	0.006	0.013
13 ～ 14	0.006	0.011	0.014	0.014	0.017	0.016	0.008	7	0.017	0.006	0.012
14 ～ 15	0.006	0.012	0.018	0.014	0.017	0.019	0.009	7	0.019	0.006	0.014
15 ～ 16	0.007	0.012	0.016	0.012	0.019	0.020	0.008	7	0.020	0.007	0.013
16 ～ 17	0.009	0.013	0.017	0.009	0.018	0.020	0.011	7	0.020	0.009	0.014
17 ～ 18	0.011	0.014	0.021	0.017	0.020	0.020	0.009	7	0.021	0.009	0.016
18 ～ 19	0.014	0.014	0.014	0.019	0.030	0.018	0.008	7	0.030	0.008	0.017
19 ～ 20	0.016	0.012	0.011	0.013	0.032	0.009	0.008	7	0.032	0.008	0.014
20 ～ 21	0.012	0.010	0.012	0.009	0.026	0.009	0.009	7	0.026	0.009	0.012
21 ～ 22	0.012	0.010	0.015	0.008	0.029	0.006	0.014	7	0.029	0.006	0.013
22 ～ 23	0.010	0.010	0.016	0.007	0.035	0.005	0.010	7	0.035	0.005	0.013
23 ～ 24	0.015	0.009	0.014	0.007	0.026	0.005	0.024	7	0.026	0.005	0.014
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.025	0.017	0.034	0.043	0.035	0.028	0.024		0.043		
最　低	0.005	0.009	0.008	0.007	0.009	0.005	0.003			0.003	
平　均	0.010	0.013	0.017	0.018	0.023	0.017	0.009				0.015
日平均値の最高値		0.023									

浮遊粒子状物質調査結果　(No.6 市道1級26号線)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.6 市道1級26号線

単位：mg/m^3

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.028	0.033	0.033	0.012	0.024	0.053	0.011	7	0.053	0.011	0.028
1 ～ 2	0.031	0.026	0.034	0.014	0.047	0.046	0.024	7	0.047	0.014	0.032
2 ～ 3	0.029	0.028	0.018	0.023	0.031	0.048	0.006	7	0.048	0.006	0.026
3 ～ 4	0.039	0.021	0.022	0.027	0.028	0.028	0.006	7	0.039	0.006	0.024
4 ～ 5	0.020	0.033	0.017	0.030	0.050	0.024	0.010	7	0.050	0.010	0.026
5 ～ 6	0.032	0.035	0.026	0.030	0.056	0.015	0.015	7	0.056	0.015	0.030
6 ～ 7	0.043	0.024	0.015	0.049	0.035	0.012	0.007	7	0.049	0.007	0.026
7 ～ 8	0.022	0.026	0.005	0.033	0.049	0.017	0.006	7	0.049	0.005	0.023
8 ～ 9	0.028	0.026	0.008	0.016	0.025	0.013	0.003	7	0.028	0.003	0.017
9 ～ 10	0.025	0.018	0.021	0.014	0.027	0.015	0.006	7	0.027	0.006	0.018
10 ～ 11	0.011	0.043	0.014	0.012	0.027	0.015	0.002	7	0.043	0.002	0.018
11 ～ 12	0.020	0.035	0.006	0.006	0.033	0.010	0.000	7	0.035	0.000	0.016
12 ～ 13	0.016	0.039	0.004	0.007	0.026	0.009	0.004	7	0.039	0.004	0.015
13 ～ 14	0.010	0.045	0.002	0.018	0.031	0.007	0.000	7	0.045	0.000	0.016
14 ～ 15	0.013	0.043	0.011	0.020	0.030	0.010	0.003	7	0.043	0.003	0.019
15 ～ 16	0.012	0.034	0.005	0.018	0.045	0.006	0.005	7	0.045	0.005	0.018
16 ～ 17	0.016	0.034	0.000	0.019	0.046	0.011	0.014	7	0.046	0.000	0.020
17 ～ 18	0.023	0.028	0.003	0.022	0.042	0.016	0.011	7	0.042	0.003	0.021
18 ～ 19	0.018	0.027	0.001	0.030	0.048	0.009	0.008	7	0.048	0.001	0.020
19 ～ 20	0.029	0.028	0.002	0.031	0.046	0.010	0.003	7	0.046	0.002	0.021
20 ～ 21	0.048	0.045	0.008	0.022	0.042	0.016	0.015	7	0.048	0.008	0.028
21 ～ 22	0.025	0.043	0.006	0.028	0.040	0.031	0.014	7	0.043	0.006	0.027
22 ～ 23	0.042	0.033	0.006	0.037	0.060	0.020	0.022	7	0.060	0.006	0.031
23 ～ 24	0.022	0.044	0.018	0.031	0.053	0.027	0.011	7	0.053	0.011	0.029
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.048	0.045	0.034	0.049	0.060	0.053	0.024		0.060		
最　低	0.010	0.018	0.000	0.006	0.024	0.006	0.000			0.000	
平　均	0.025	0.033	0.012	0.023	0.039	0.020	0.009				0.023

日平均値の最高値	0.039	
1時間値が0.20mg/m^{3}を超えた時間数		0
日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日数		0

一酸化窒素調査結果　(No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.001	0.001	0.000	0.001	0.002	0.003	0.001	7	0.003	0.000	0.001
1 ～ 2	0.000	0.001	0.001	0.003	0.005	0.001	0.001	7	0.005	0.000	0.002
2 ～ 3	0.000	0.000	0.001	0.001	0.003	0.001	0.001	7	0.003	0.000	0.001
3 ～ 4	0.000	0.001	0.002	0.004	0.004	0.001	0.001	7	0.004	0.000	0.002
4 ～ 5	0.001	0.000	0.003	0.014	0.001	0.002	0.001	7	0.014	0.000	0.003
5 ～ 6	0.000	0.000	0.001	0.009	0.003	0.002	0.001	7	0.009	0.000	0.002
6 ～ 7	0.002	0.001	0.005	0.013	0.004	0.001	0.002	7	0.013	0.001	0.004
7 ～ 8	0.012	0.002	0.004	0.022	0.007	0.004	0.003	7	0.022	0.002	0.008
8 ～ 9	0.003	0.003	0.007	0.022	0.007	0.010	0.004	7	0.022	0.003	0.008
9 ～ 10	0.001	0.003	0.013	0.011	0.009	0.009	0.003	7	0.013	0.001	0.007
10 ～ 11	0.001	0.002	0.008	0.007	0.007	0.008	0.002	7	0.008	0.001	0.005
11 ～ 12	0.001	0.002	0.006	0.006	0.009	0.006	0.001	7	0.009	0.001	0.004
12 ～ 13	0.001	0.001	0.005	0.003	0.006	0.007	0.002	7	0.007	0.001	0.004
13 ～ 14	0.001	0.001	0.002	0.004	0.005	0.006	0.004	7	0.006	0.001	0.003
14 ～ 15	0.001	0.001	0.006	0.004	0.003	0.007	0.005	7	0.007	0.001	0.004
15 ～ 16	0.002	0.001	0.005	0.003	0.004	0.007	0.003	7	0.007	0.001	0.004
16 ～ 17	0.004	0.001	0.004	0.002	0.003	0.008	0.005	7	0.008	0.001	0.004
17 ～ 18	0.003	0.001	0.006	0.004	0.002	0.005	0.005	7	0.006	0.001	0.004
18 ～ 19	0.002	0.001	0.003	0.005	0.005	0.004	0.002	7	0.005	0.001	0.003
19 ～ 20	0.002	0.001	0.002	0.002	0.004	0.001	0.002	7	0.004	0.001	0.002
20 ～ 21	0.001	0.001	0.003	0.002	0.003	0.003	0.001	7	0.003	0.001	0.002
21 ～ 22	0.001	0.001	0.004	0.001	0.002	0.001	0.001	7	0.004	0.001	0.002
22 ～ 23	0.001	0.001	0.002	0.002	0.007	0.000	0.000	7	0.007	0.000	0.002
23 ～ 24	0.001	0.001	0.002	0.002	0.004	0.000	0.004	7	0.004	0.000	0.002
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.012	0.003	0.013	0.022	0.009	0.010	0.005		0.022		
最　低	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000			0.000	
平　均	0.002	0.001	0.004	0.006	0.005	0.004	0.002				0.003
日平均値の最高値		0.006									

二酸化窒素調査結果　(No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.005	0.014	0.007	0.009	0.010	0.017	0.004	7	0.017	0.004	0.009
1 ～ 2	0.004	0.012	0.006	0.011	0.013	0.018	0.003	7	0.018	0.003	0.010
2 ～ 3	0.005	0.012	0.006	0.008	0.015	0.015	0.002	7	0.015	0.002	0.009
3 ～ 4	0.006	0.011	0.007	0.010	0.013	0.010	0.003	7	0.013	0.003	0.009
4 ～ 5	0.005	0.009	0.010	0.023	0.012	0.010	0.003	7	0.023	0.003	0.010
5 ～ 6	0.008	0.010	0.007	0.022	0.016	0.007	0.003	7	0.022	0.003	0.010
6 ～ 7	0.012	0.011	0.011	0.026	0.020	0.008	0.005	7	0.026	0.005	0.013
7 ～ 8	0.015	0.012	0.015	0.029	0.022	0.012	0.007	7	0.029	0.007	0.016
8 ～ 9	0.009	0.013	0.018	0.028	0.021	0.019	0.005	7	0.028	0.005	0.016
9 ～ 10	0.005	0.014	0.024	0.016	0.020	0.020	0.004	7	0.024	0.004	0.015
10 ～ 11	0.003	0.010	0.020	0.014	0.017	0.016	0.003	7	0.020	0.003	0.012
11 ～ 12	0.004	0.007	0.017	0.012	0.016	0.015	0.003	7	0.017	0.003	0.011
12 ～ 13	0.004	0.006	0.013	0.012	0.015	0.015	0.004	7	0.015	0.004	0.010
13 ～ 14	0.003	0.008	0.008	0.013	0.014	0.014	0.005	7	0.014	0.003	0.009
14 ～ 15	0.004	0.008	0.012	0.014	0.015	0.016	0.006	7	0.016	0.004	0.011
15 ～ 16	0.005	0.008	0.011	0.012	0.017	0.018	0.006	7	0.018	0.005	0.011
16 ～ 17	0.006	0.010	0.015	0.009	0.016	0.018	0.006	7	0.018	0.006	0.011
17 ～ 18	0.010	0.011	0.018	0.015	0.016	0.018	0.006	7	0.018	0.006	0.013
18 ～ 19	0.014	0.011	0.014	0.017	0.026	0.014	0.006	7	0.026	0.006	0.015
19 ～ 20	0.014	0.010	0.011	0.013	0.027	0.007	0.006	7	0.027	0.006	0.013
20 ～ 21	0.010	0.008	0.012	0.009	0.021	0.007	0.006	7	0.021	0.006	0.010
21 ～ 22	0.011	0.009	0.014	0.008	0.025	0.004	0.011	7	0.025	0.004	0.012
22 ～ 23	0.009	0.009	0.013	0.007	0.030	0.003	0.008	7	0.030	0.003	0.011
23 ～ 24	0.012	0.007	0.012	0.007	0.021	0.004	0.024	7	0.024	0.004	0.012
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.015	0.014	0.024	0.029	0.030	0.020	0.024		0.030		
最　低	0.003	0.006	0.006	0.007	0.010	0.003	0.002			0.002	
平　均	0.008	0.010	0.013	0.014	0.018	0.013	0.006				0.012

日平均値の最高値	0.018	
日平均値が0.06ppmを超えた日数		0
日平均値が0.04～0.06ppmを超えた日数		0

窒素酸化物調査結果　(No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

単位：ppm

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.006	0.015	0.007	0.010	0.012	0.020	0.005	7	0.020	0.005	0.011
1 ～ 2	0.004	0.013	0.007	0.014	0.018	0.019	0.004	7	0.019	0.004	0.011
2 ～ 3	0.005	0.012	0.007	0.009	0.018	0.016	0.003	7	0.018	0.003	0.010
3 ～ 4	0.006	0.012	0.009	0.014	0.017	0.011	0.004	7	0.017	0.004	0.010
4 ～ 5	0.006	0.009	0.013	0.037	0.013	0.012	0.004	7	0.037	0.004	0.013
5 ～ 6	0.008	0.010	0.008	0.031	0.019	0.009	0.004	7	0.031	0.004	0.013
6 ～ 7	0.014	0.012	0.016	0.039	0.024	0.009	0.007	7	0.039	0.007	0.017
7 ～ 8	0.027	0.014	0.019	0.051	0.029	0.016	0.010	7	0.051	0.010	0.024
8 ～ 9	0.012	0.016	0.025	0.050	0.028	0.029	0.009	7	0.050	0.009	0.024
9 ～ 10	0.006	0.017	0.037	0.027	0.029	0.029	0.007	7	0.037	0.006	0.022
10 ～ 11	0.004	0.012	0.028	0.021	0.024	0.024	0.005	7	0.028	0.004	0.017
11 ～ 12	0.005	0.009	0.023	0.018	0.025	0.021	0.004	7	0.025	0.004	0.015
12 ～ 13	0.005	0.007	0.018	0.015	0.021	0.022	0.006	7	0.022	0.005	0.013
13 ～ 14	0.004	0.009	0.010	0.017	0.019	0.020	0.009	7	0.020	0.004	0.013
14 ～ 15	0.005	0.009	0.018	0.018	0.018	0.023	0.011	7	0.023	0.005	0.015
15 ～ 16	0.007	0.009	0.016	0.015	0.021	0.025	0.009	7	0.025	0.007	0.015
16 ～ 17	0.010	0.011	0.019	0.011	0.019	0.026	0.011	7	0.026	0.010	0.015
17 ～ 18	0.013	0.012	0.024	0.019	0.018	0.023	0.011	7	0.024	0.011	0.017
18 ～ 19	0.016	0.012	0.017	0.022	0.031	0.018	0.008	7	0.031	0.008	0.018
19 ～ 20	0.016	0.011	0.013	0.015	0.031	0.008	0.008	7	0.031	0.008	0.015
20 ～ 21	0.011	0.009	0.015	0.011	0.024	0.010	0.007	7	0.024	0.007	0.012
21 ～ 22	0.012	0.010	0.018	0.009	0.027	0.005	0.012	7	0.027	0.005	0.013
22 ～ 23	0.010	0.010	0.015	0.009	0.037	0.003	0.008	7	0.037	0.003	0.013
23 ～ 24	0.013	0.008	0.014	0.009	0.025	0.004	0.028	7	0.028	0.004	0.014
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.027	0.017	0.037	0.051	0.037	0.029	0.028		0.051		
最　低	0.004	0.007	0.007	0.009	0.012	0.003	0.003			0.003	
平　均	0.009	0.011	0.017	0.020	0.023	0.017	0.008				0.015
日平均値の最高値		0.023									

浮遊粒子状物質調査結果　(No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社)　【春季】

調査時期：春季

調査期間：平成31年3月2日(土)～3月8日(金)

測定地点：No.9 県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

単位：mg/m^3

月日(曜) 時	3月2日 (土)	3月3日 (日)	3月4日 (月)	3月5日 (火)	3月6日 (水)	3月7日 (木)	3月8日 (金)	測定数	最　高	最　低	平　均
0 ～ 1	0.025	0.022	0.027	0.013	0.026	0.046	0.017	7	0.046	0.013	0.025
1 ～ 2	0.033	0.025	0.032	0.028	0.030	0.046	0.014	7	0.046	0.014	0.030
2 ～ 3	0.022	0.015	0.022	0.015	0.032	0.038	0.004	7	0.038	0.004	0.021
3 ～ 4	0.026	0.023	0.023	0.029	0.028	0.037	0.010	7	0.037	0.010	0.025
4 ～ 5	0.024	0.025	0.027	0.025	0.026	0.020	0.004	7	0.027	0.004	0.022
5 ～ 6	0.016	0.017	0.018	0.032	0.046	0.015	0.008	7	0.046	0.008	0.022
6 ～ 7	0.031	0.021	0.019	0.021	0.040	0.013	0.005	7	0.040	0.005	0.021
7 ～ 8	0.021	0.019	0.006	0.017	0.045	0.006	0.001	7	0.045	0.001	0.016
8 ～ 9	0.020	0.025	0.006	0.018	0.041	0.007	0.004	7	0.041	0.004	0.017
9 ～ 10	0.029	0.029	0.021	0.022	0.026	0.001	0.004	7	0.029	0.001	0.019
10 ～ 11	0.012	0.043	0.004	0.026	0.032	0.006	0.007	7	0.043	0.004	0.019
11 ～ 12	0.017	0.021	0.005	0.006	0.030	0.010	0.001	7	0.030	0.001	0.013
12 ～ 13	0.021	0.031	0.000	0.010	0.023	0.009	0.015	7	0.031	0.000	0.016
13 ～ 14	0.011	0.033	0.007	0.010	0.031	0.004	0.011	7	0.033	0.004	0.015
14 ～ 15	0.020	0.038	0.003	0.026	0.028	0.012	0.016	7	0.038	0.003	0.020
15 ～ 16	0.024	0.048	0.018	0.014	0.043	0.007	0.014	7	0.048	0.007	0.024
16 ～ 17	0.018	0.031	0.015	0.028	0.036	0.012	0.009	7	0.036	0.009	0.021
17 ～ 18	0.025	0.036	0.015	0.020	0.042	0.008	0.011	7	0.042	0.008	0.022
18 ～ 19	0.014	0.033	0.001	0.034	0.044	0.017	0.006	7	0.044	0.001	0.021
19 ～ 20	0.031	0.028	0.008	0.041	0.049	0.004	0.001	7	0.049	0.001	0.023
20 ～ 21	0.030	0.028	0.015	0.038	0.045	0.026	0.018	7	0.045	0.015	0.029
21 ～ 22	0.026	0.041	0.003	0.040	0.040	0.029	0.013	7	0.041	0.003	0.027
22 ～ 23	0.036	0.038	0.014	0.031	0.054	0.023	0.003	7	0.054	0.003	0.028
23 ～ 24	0.029	0.032	0.016	0.029	0.059	0.013	0.016	7	0.059	0.013	0.028
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168			
最　高	0.036	0.048	0.032	0.041	0.059	0.046	0.018		0.059		
最　低	0.011	0.015	0.000	0.006	0.023	0.001	0.001			0.000	
平　均	0.023	0.029	0.014	0.024	0.037	0.017	0.009				0.022

日平均値の最高値	0.037	
1時間値が0.20mg/m^{3}を超えた時間数		0
日平均値が0.10mg/m^{3}を超えた日数		0

資料２　騒音調査結果（資材等の運搬）

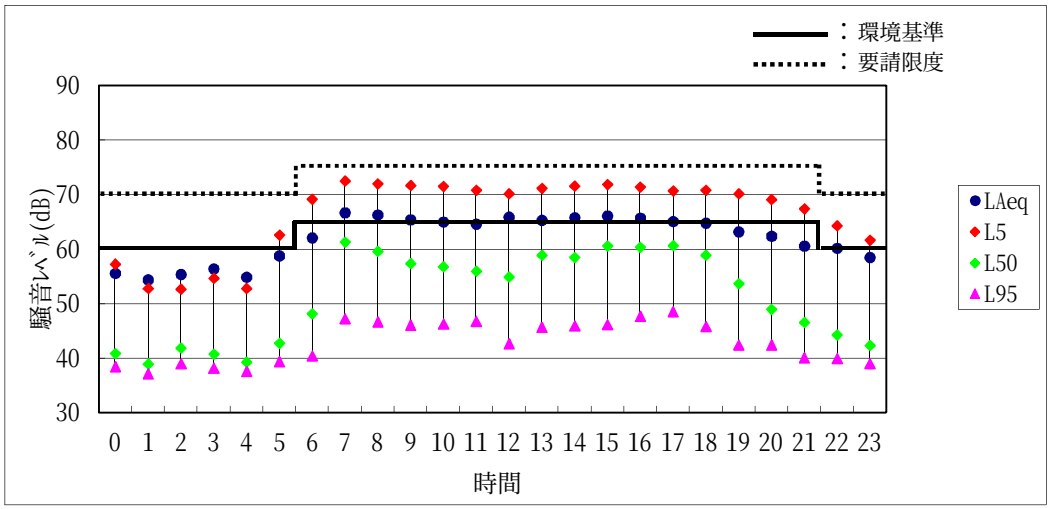
道路交通騒音及び交通量調査結果を次頁以降に示す。

調査対象：　道路交通騒音
調査期間：　平成31年3月7日(木) 12:00　～　平成31年3月8日(金) 12:00
天　　候：　晴れ
調査地点：　No.6（市道1級26号線）

単位：dB

調査日	時間区分	時　間	等価騒音レベル LAeq	時間率騒音レベル L5	L50	L95
H31.3.8	夜間	0:00 ～ 1:00	55.6	57	41	39
		1:00 ～ 2:00	54.4	53	39	37
		2:00 ～ 3:00	55.4	53	42	39
		3:00 ～ 4:00	56.4	55	41	38
		4:00 ～ 5:00	54.9	53	39	38
		5:00 ～ 6:00	58.8	63	43	39
	昼間	6:00 ～ 7:00	62.1	69	48	41
		7:00 ～ 8:00	66.7	73	61	47
		8:00 ～ 9:00	66.3	72	60	47
		9:00 ～ 10:00	65.4	72	57	46
		10:00 ～ 11:00	65.0	72	57	46
		11:00 ～ 12:00	64.6	71	56	47
H31.3.7		12:00 ～ 13:00	65.9	70	55	43
		13:00 ～ 14:00	65.3	71	59	46
		14:00 ～ 15:00	65.8	72	59	46
		15:00 ～ 16:00	66.1	72	61	46
		16:00 ～ 17:00	65.7	71	60	48
		17:00 ～ 18:00	65.1	71	61	49
		18:00 ～ 19:00	64.8	71	59	46
		19:00 ～ 20:00	63.2	70	54	43
		20:00 ～ 21:00	62.4	69	49	43
		21:00 ～ 22:00	60.6	67	47	40
	夜間	22:00 ～ 23:00	60.2	64	44	40
		23:00 ～ 24:00	58.5	62	42	39
平均値		昼間（6時～22時）	65.0	71	56	45
		夜間（22時～6時）	57.2	58	41	39
環境基準		B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域　昼間	65			
		夜間	60			
要請限度		b区域のうち二車線以上の車線を有する道路に面する区域　昼間	75			
		夜間	70			

注1）等価騒音レベルの平均値は、各時間毎の測定値をエネルギー平均した値である。
注2）時間率騒音レベルの平均値は、各時間毎の測定値を算術平均した値である。
注3）昼間は6時～22時，夜間は22時～6時を示す。



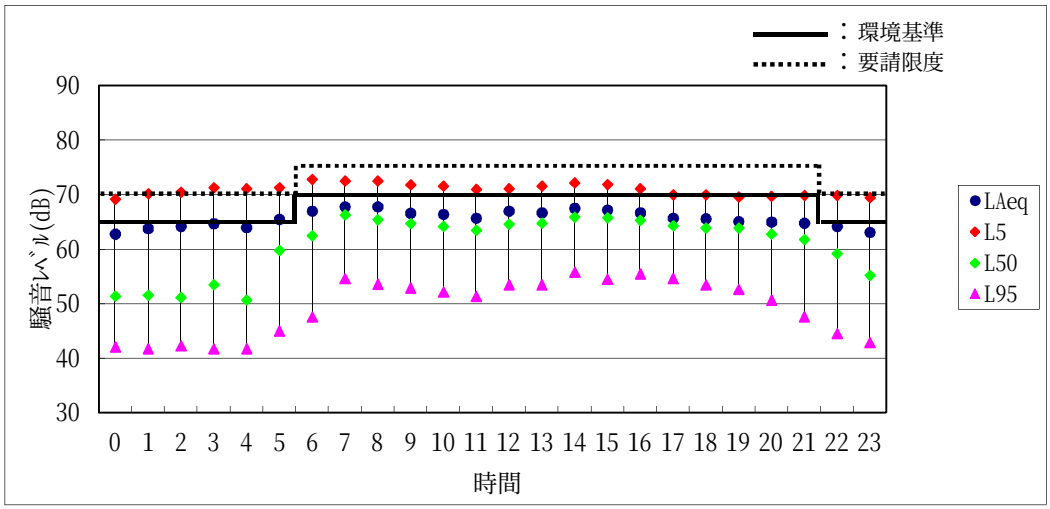
騒音レベルの時間変化

調査対象：　道路交通騒音
調査期間：　平成31年3月7日(木) 12:00　～　平成31年3月8日(金) 12:00
天　　候：　晴れ
調査地点：　No.9（県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

単位：dB

調査日	時間区分	時　間		等価騒音レベル LAeq	時間率騒音レベル L5	L50	L95
H31.3.8	夜間	0:00 ～ 1:00		62.8	69	51	42
		1:00 ～ 2:00		63.8	70	52	42
		2:00 ～ 3:00		64.2	71	51	42
		3:00 ～ 4:00		64.7	71	54	42
		4:00 ～ 5:00		64.0	71	51	42
		5:00 ～ 6:00		65.5	71	60	45
	昼間	6:00 ～ 7:00		67.0	73	63	48
		7:00 ～ 8:00		67.8	73	66	55
		8:00 ～ 9:00		67.8	73	65	54
		9:00 ～ 10:00		66.6	72	65	53
		10:00 ～ 11:00		66.4	72	64	52
		11:00 ～ 12:00		65.7	71	64	51
H31.3.7		12:00 ～ 13:00		67.0	71	65	54
		13:00 ～ 14:00		66.7	72	65	54
		14:00 ～ 15:00		67.5	72	66	56
		15:00 ～ 16:00		67.2	72	66	55
		16:00 ～ 17:00		66.7	71	65	56
		17:00 ～ 18:00		65.7	70	64	55
		18:00 ～ 19:00		65.6	70	64	54
		19:00 ～ 20:00		65.1	70	64	53
		20:00 ～ 21:00		65.0	70	63	51
		21:00 ～ 22:00		64.8	70	62	48
	夜間	22:00 ～ 23:00		64.2	70	59	45
		23:00 ～ 24:00		63.1	70	55	43
平均値		昼間（6時～22時）		66.5	71	64	53
		夜間（22時～6時）		64.1	70	54	43
環境基準		幹線交通を担う道路に近接する空間	昼間	70			
			夜間	65			
要請限度		幹線交通を担う道路に近接する区域	昼間	75			
			夜間	70			

注1）等価騒音レベルの平均値は、各時間毎の測定値をエネルギー平均した値である。
注2）時間率騒音レベルの平均値は、各時間毎の測定値を算術平均した値である。
注3）昼間は6時～22時，夜間は22時～6時を示す。



騒音レベルの時間変化

交通量調査結果（１時間）

調査地点名： No.6　市道一級26号線

調査日： 平成31年3月7日（木）12時～3月8日（金）12時　（平日）

単位：台/１時間

方向・車種 / 調査時刻	清掃センター入口交差点→計画地						計画地→清掃センター入口交差点						断面交通量							大型混入率%
	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	合計	
0:00 ～ 1:00	14	6	0	0	0	0	13	3	1	1	0	0	27	9	1	1	0	0	38	5.3
1:00 ～ 2:00	6	2	0	0	0	0	20	0	0	0	0	1	26	2	0	0	0	1	29	0.0
2:00 ～ 3:00	9	4	0	0	0	0	7	1	0	1	0	1	16	5	0	1	0	1	23	4.3
3:00 ～ 4:00	12	4	0	0	0	1	8	2	2	2	0	1	20	6	2	2	0	2	32	12.5
4:00 ～ 5:00	6	2	2	0	0	0	9	3	2	0	0	0	15	5	4	0	0	0	24	16.7
5:00 ～ 6:00	21	5	4	1	0	0	30	8	6	2	0	0	51	13	10	3	0	0	77	16.9
6:00 ～ 7:00	51	12	2	3	0	2	79	14	5	1	0	1	130	26	7	4	0	3	170	6.5
7:00 ～ 8:00	202	48	21	2	1	1	416	43	14	4	1	2	618	91	35	6	2	3	755	5.7
8:00 ～ 9:00	253	58	28	3	6	1	271	26	14	5	3	2	524	84	42	8	9	3	670	8.8
9:00 ～ 10:00	170	53	20	6	7	0	158	32	35	4	7	0	328	85	55	10	14	0	492	16.1
10:00 ～ 11:00	133	37	24	1	15	0	155	28	28	5	23	8	288	65	52	6	38	8	457	21.0
11:00 ～ 12:00	136	38	21	5	10	1	143	28	29	2	7	2	279	66	50	7	17	3	422	17.5
12:00 ～ 13:00	112	16	12	3	5	2	167	23	9	4	3	0	279	39	21	7	8	2	356	10.1
13:00 ～ 14:00	141	30	29	6	12	1	196	27	33	7	10	1	337	57	62	13	22	2	493	19.7
14:00 ～ 15:00	148	41	17	2	7	2	170	26	30	7	15	2	318	67	47	9	22	4	467	16.7
15:00 ～ 16:00	195	41	16	6	6	1	217	24	24	2	12	0	412	65	40	8	18	1	544	12.1
16:00 ～ 17:00	199	48	22	4	4	4	261	20	21	4	0	1	460	68	43	8	4	5	588	9.4
17:00 ～ 18:00	300	39	5	3	1	1	315	20	12	7	0	2	615	59	17	10	1	3	705	4.0
18:00 ～ 19:00	206	25	4	2	0	1	268	16	8	2	0	0	474	41	12	4	0	1	532	3.0
19:00 ～ 20:00	173	15	1	2	0	1	165	13	4	3	0	0	338	28	5	5	0	1	377	2.7
20:00 ～ 21:00	81	16	2	2	0	0	110	12	3	2	0	0	191	28	5	4	0	0	228	3.9
21:00 ～ 22:00	58	13	1	0	0	0	80	10	0	3	0	1	138	23	1	3	0	1	166	2.4
22:00 ～ 23:00	46	4	2	3	0	1	47	8	4	1	0	0	93	12	6	4	0	1	116	8.6
23:00 ～ 24:00	16	0	3	3	0	1	22	3	1	3	0	1	38	3	4	6	0	2	53	18.9
合計	2,688	557	236	57	74	21	3,327	390	285	72	81	26	6,015	947	521	129	155	47	7,814	10.3

交通量調査結果（１時間）

調査地点名： No.9　県道鳥山・竜舞線　稲荷神社

調査日： 平成31年3月7日（木）12時～3月8日（金）12時　（平日）

単位：台/１時間

方向・車種	北側側道						本線						本線						南側側道						南側側道						断面交通量							大型混入率%
	藤阿久交差点→清掃センター入口交差点						藤阿久交差点→清掃センター入口交差点						清掃センター入口交差点→藤阿久交差点						藤阿久交差点→清掃センター入口交差点						清掃センター入口交差点→藤阿久交差点													
調査時刻	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	乗用車	小型貨物車	中型車	大型車	収集車	二輪車	合計	
0:00 ～ 1:00	1	1	0	0	0	0	47	6	10	9	0	0	79	13	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	130	20	28	14	0	0	192	21.9
1:00 ～ 2:00	4	0	0	0	0	1	40	8	11	9	0	3	98	22	12	4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	143	30	23	13	0	6	215	16.7
2:00 ～ 3:00	4	0	0	0	0	2	29	6	6	11	0	1	93	10	8	11	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	126	17	14	22	0	5	184	19.6
3:00 ～ 4:00	2	0	0	0	0	0	40	8	19	23	0	0	89	10	13	7	0	2	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	133	20	32	30	0	4	219	28.3
4:00 ～ 5:00	3	0	0	0	0	0	58	11	18	18	0	0	41	4	18	9	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	104	15	36	27	0	3	185	34.1
5:00 ～ 6:00	1	0	0	0	0	0	254	15	28	11	1	0	91	11	24	14	0	1	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	353	27	52	25	1	1	459	17.0
6:00 ～ 7:00	1	1	0	0	0	0	232	38	48	25	1	4	165	38	24	22	0	3	0	0	0	0	0	0	6	3	0	0	0	0	404	80	72	47	1	7	611	19.6
7:00 ～ 8:00	9	0	0	0	0	1	522	46	42	17	2	4	475	52	46	15	3	8	3	0	0	0	0	0	17	6	0	0	0	0	1,026	104	88	32	5	13	1,268	9.9
8:00 ～ 9:00	27	11	2	0	0	0	441	41	53	27	1	2	436	70	63	13	6	2	5	3	0	0	0	0	27	10	0	0	1	0	936	135	118	40	8	4	1,241	13.4
9:00 ～ 10:00	8	3	0	0	0	0	363	41	67	18	4	1	320	58	70	14	2	1	0	2	0	0	0	0	21	11	1	0	0	0	712	115	138	32	6	2	1,005	17.5
10:00 ～ 11:00	13	3	0	0	0	0	398	48	50	21	10	2	362	58	55	22	6	1	0	2	0	0	0	0	16	7	2	0	0	1	789	118	107	43	16	4	1,077	15.4
11:00 ～ 12:00	19	10	2	0	1	2	391	47	55	14	2	0	383	81	52	17	4	1	0	3	1	0	0	0	14	6	2	0	0	0	807	147	112	31	7	3	1,107	13.6
12:00 ～ 13:00	17	6	1	0	0	0	336	56	41	9	1	5	349	75	35	17	2	0	2	0	0	0	0	0	14	2	1	0	0	0	718	139	78	26	3	5	969	11.0
13:00 ～ 14:00	19	1	2	0	0	1	356	53	52	14	6	1	385	63	53	15	7	3	0	0	0	0	2	2	7	3	0	0	0	0	767	120	107	29	15	7	1,045	14.4
14:00 ～ 15:00	19	5	1	0	0	1	364	56	49	13	11	1	395	79	55	7	3	5	4	3	0	0	0	0	13	10	0	0	0	0	795	153	105	20	14	7	1,094	12.7
15:00 ～ 16:00	17	1	3	0	0	0	433	59	31	15	7	3	422	78	32	10	3	4	1	1	0	0	0	0	5	5	1	0	0	0	878	144	67	25	10	7	1,131	9.0
16:00 ～ 17:00	20	6	2	0	0	3	428	53	28	11	0	1	490	70	29	12	5	4	1	0	0	0	0	0	20	5	0	0	0	5	959	134	59	23	5	13	1,193	7.3
17:00 ～ 18:00	19	3	2	0	0	0	488	51	14	11	0	4	508	49	26	8	1	3	5	0	0	0	0	0	22	3	1	0	0	0	1,042	106	43	19	1	7	1,218	5.2
18:00 ～ 19:00	23	0	0	0	0	1	446	19	23	7	0	3	537	46	11	3	0	2	0	1	0	0	0	0	13	5	1	0	0	0	1,019	71	35	10	0	6	1,141	3.9
19:00 ～ 20:00	19	3	0	0	0	0	417	27	14	4	0	4	480	38	20	5	0	2	2	0	0	0	0	0	15	3	1	0	0	0	933	71	35	9	0	6	1,054	4.2
20:00 ～ 21:00	13	1	1	0	0	0	347	15	19	5	0	1	400	22	21	4	0	2	4	0	0	0	0	0	16	4	1	0	0	0	780	42	42	9	0	3	876	5.8
21:00 ～ 22:00	9	2	0	0	0	0	230	12	14	7	0	0	309	12	13	6	0	3	2	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	554	26	27	13	0	4	624	6.4
22:00 ～ 23:00	7	0	0	0	0	0	142	8	13	6	0	0	219	11	17	6	0	2	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	375	19	30	12	0	2	438	9.6
23:00 ～ 24:00	5	2	0	0	0	1	79	13	13	5	0	1	127	10	17	8	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	214	26	30	13	0	2	285	15.1
合計	279	59	16	0	1	13	6,881	737	718	310	46	41	7,253	980	732	254	42	50	30	17	1	0	2	6	254	86	11	0	1	11	14,697	1,879	1,478	564	92	121	18,831	11.3

資料３　振動調査結果（資材等の運搬）

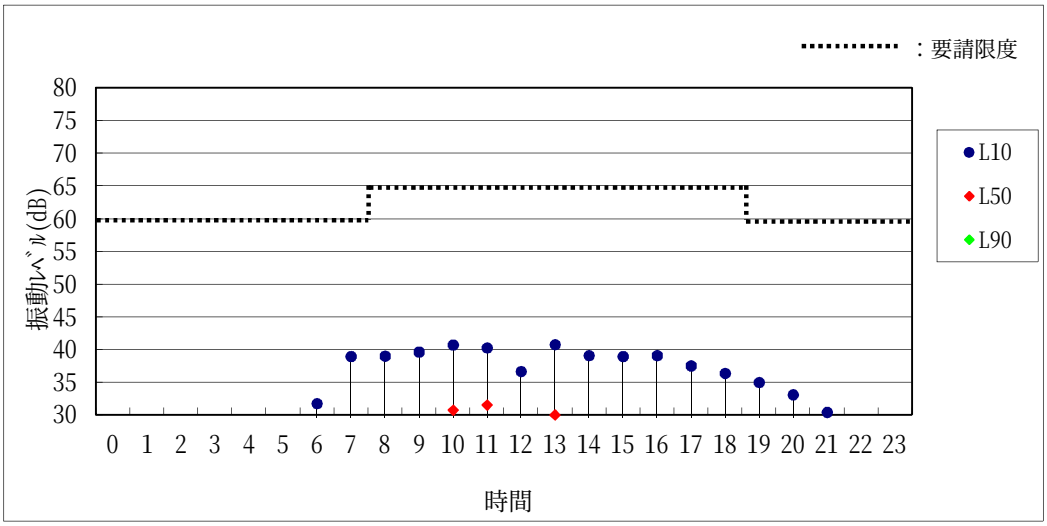
道路交通振動調査結果を次頁以降に示す。

調査対象：　道路交通振動
調査期間：　平成31年3月7日(木) 12:00　～　平成31年3月8日(金) 12:00
天　　候：　晴れ
調査地点：　No.6（市道1級26号線）

単位：dB

調査日	時間区分	時　間	時間率振動レベル		
			L10	L50	L90
H31.3.8	夜間	0:00　～　1:00	<30	<30	<30
		1:00　～　2:00	<30	<30	<30
		2:00　～　3:00	<30	<30	<30
		3:00　～　4:00	<30	<30	<30
		4:00　～　5:00	<30	<30	<30
		5:00　～　6:00	<30	<30	<30
		6:00　～　7:00	32	<30	<30
		7:00　～　8:00	39	<30	<30
	昼間	8:00　～　9:00	39	<30	<30
		9:00　～ 10:00	40	<30	<30
		10:00　～ 11:00	41	31	<30
		11:00　～ 12:00	40	32	<30
H31.3.7		12:00　～ 13:00	37	<30	<30
		13:00　～ 14:00	41	30	<30
		14:00　～ 15:00	39	<30	<30
		15:00　～ 16:00	39	<30	<30
		16:00　～ 17:00	39	<30	<30
		17:00　～ 18:00	38	<30	<30
		18:00　～ 19:00	36	<30	<30
	夜間	19:00　～ 20:00	35	<30	<30
		20:00　～ 21:00	33	<30	<30
		21:00　～ 22:00	30	<30	<30
		22:00　～ 23:00	<30	<30	<30
		23:00　～ 24:00	<30	<30	<30
平均値		昼間（8時～19時）	39		
		夜間（19時～8時）	32		
要請限度（第１種区域）		昼間（8時～19時）	65		
		夜間（19時～8時）	60		

注1）時間率振動レベルの各観測時間値及び平均値は、算術平均値である。なお、時間区分の全ての時間で「<30」の場合は「<30」とし、一部の時間帯が「<30」の場合は「<30」を30dBとして算出した。
注2）測定下限値（30dB）未満の値については「<30」と示す。
注3）振動規制法に基づく第１種区域に該当する。



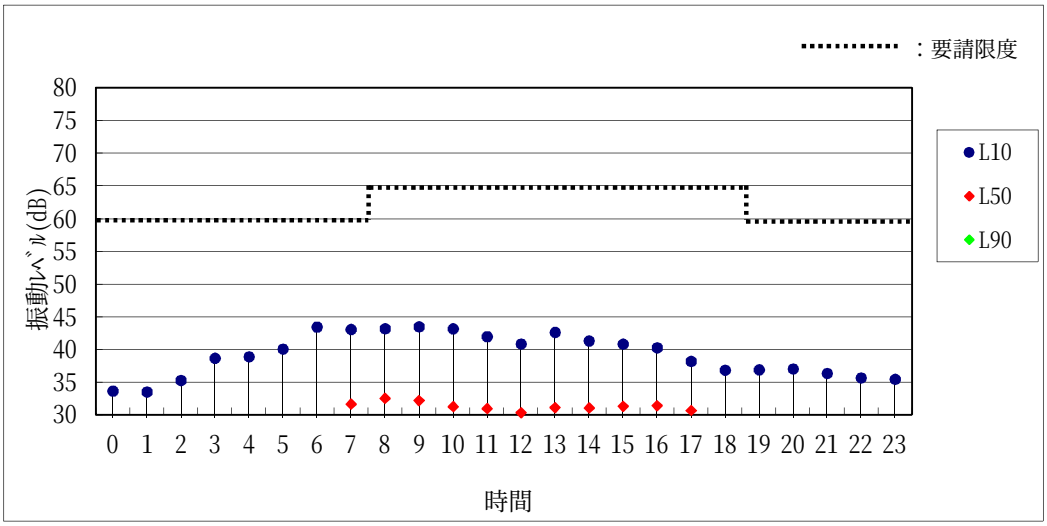
振動レベルの時間変化

調査対象：　道路交通振動
調査期間：　平成31年3月7日(木) 12:00　～　平成31年3月8日(金) 12:00
天　　候：　晴れ
調査地点：　No.9（県道鳥山・竜舞線　稲荷神社）

単位：dB

調査日	時間区分	時　間	時間率振動レベル		
			L10	L50	L90
H31.3.8	夜間	0:00 ～ 1:00	34	<30	<30
		1:00 ～ 2:00	34	<30	<30
		2:00 ～ 3:00	35	<30	<30
		3:00 ～ 4:00	39	<30	<30
		4:00 ～ 5:00	39	<30	<30
		5:00 ～ 6:00	40	<30	<30
		6:00 ～ 7:00	43	<30	<30
		7:00 ～ 8:00	43	32	<30
	昼間	8:00 ～ 9:00	43	33	<30
		9:00 ～ 10:00	44	32	<30
		10:00 ～ 11:00	43	31	<30
		11:00 ～ 12:00	42	31	<30
H31.3.7		12:00 ～ 13:00	41	30	<30
		13:00 ～ 14:00	43	31	<30
		14:00 ～ 15:00	41	31	<30
		15:00 ～ 16:00	41	31	<30
		16:00 ～ 17:00	40	31	<30
		17:00 ～ 18:00	38	31	<30
		18:00 ～ 19:00	37	<30	<30
	夜間	19:00 ～ 20:00	37	<30	<30
		20:00 ～ 21:00	37	<30	<30
		21:00 ～ 22:00	36	<30	<30
		22:00 ～ 23:00	36	<30	<30
		23:00 ～ 24:00	36	<30	<30
平均値		昼間（8時～19時）	41		
		夜間（19時～8時）	38		
要請限度（第２種区域）		昼間（8時～19時）	70		
		夜間（19時～8時）	65		

注1）時間率振動レベルの各観測時間値及び平均値は、算術平均値である。なお、時間区分の全ての時間で「<30」の場合は「<30」とし、一部の時間帯が「<30」の場合は「<30」を30dBとして算出した。
注2）測定下限値（30dB）未満の値については「<30」と示す。
注3）振動規制法に基づく第２種区域に該当する。



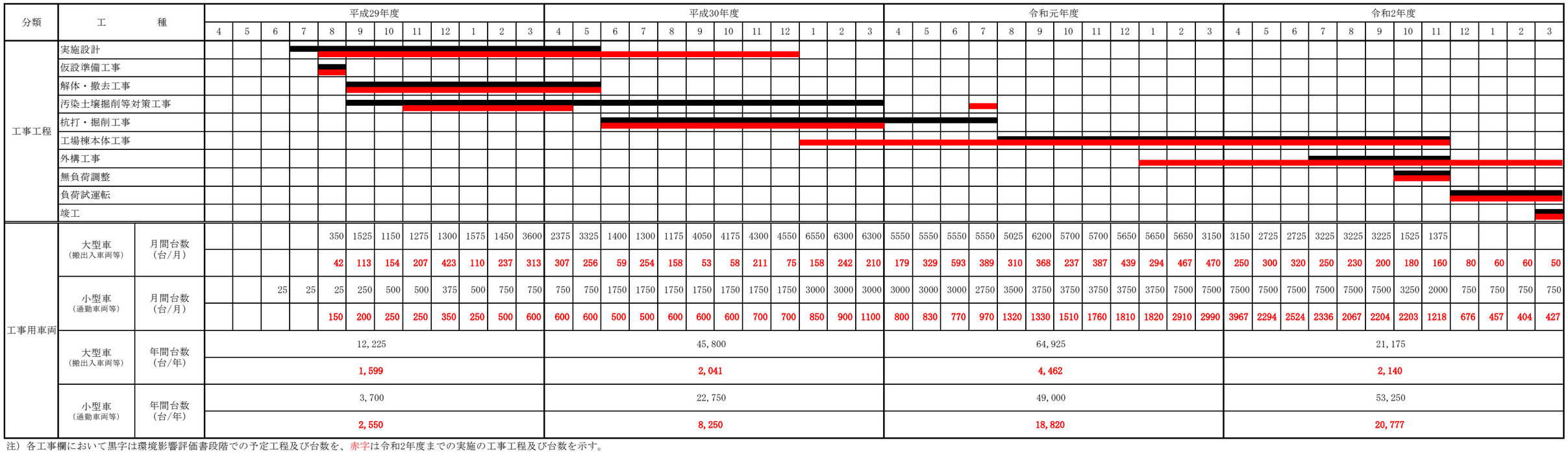
振動レベルの時間変化

資料４　温室効果ガス算出のための資料

温室効果ガスの算出のための資料として、工事用車両走行台数、建設機械の稼働に伴う燃料使用量を環境影響評価書段階の算出結果とともに次頁以降に示す。

表　工事用車両の走行台数

単位：台



分類	工種		平成29年度												平成30年度												令和元年度												令和2年度											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
工事工程	実施設計																																																	
	仮設準備工事																																																	
	解体・撤去工事																																																	
	汚染土壌掘削等対策工事																																																	
	杭打・掘削工事																																																	
	工場棟本体工事																																																	
	外構工事																																																	
	無負荷調整																																																	
	負荷試運転																																																	
	竣工																																																	
工事用車両	大型車（搬出入車両等）	月間台数（台/月）					350	1525	1150	1275	1300	1575	1450	3600	2375	3325	1400	1300	1175	4050	4175	4300	4550	6550	6300	6300	5550	5550	5550	5550	5025	6200	5700	5700	5650	5650	5650	3150	3150	2725	2725	3225	3225	3225	1525	1375				
							42	113	154	207	423	110	237	313	307	256	59	254	158	53	58	211	75	158	242	210	179	329	593	389	310	368	237	387	439	294	467	470	250	300	320	250	230	200	180	160	80	60	60	50
	小型車（通勤車両等）	月間台数（台/月）			25	25	25	250	500	500	375	500	750	750	750	750	1750	1750	1750	1750	1750	1750	1750	3000	3000	3000	3000	3000	3000	2750	3500	3750	3750	3750	3750	3750	7500	7500	7500	7500	7500	7500	7500	3250	2000	750	750	750	750
							150	200	250	250	350	250	500	600	600	600	500	500	600	600	600	700	700	850	900	1100	800	830	770	970	1320	1330	1510	1760	1810	1820	2910	2990	3967	2294	2524	2336	2067	2204	2203	1218	676	457	404	427
	大型車（搬出入車両等）	年間台数（台/年）	12,225												45,800												64,925												21,175											
			1,599												2,041												4,462												2,140											
	小型車（通勤車両等）	年間台数（台/年）	3,700												22,750												49,000												53,250											
			2,550												8,250												18,820												20,777											

注）各工事欄において黒字は環境影響評価書段階での予定工程及び台数を、赤字は令和2年度までの実施の工事工程及び台数を示す。

表　建設機械の稼働に伴う燃料使用量

単位：台／月

工事名・重機 ＼ 年度・月 経過月数		燃料消費量 L/h	稼働時間 h/日	平成29年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施設計															
仮設準備工事															
解体・撤去工事															
汚染土壌掘削等対策工事															
杭打・掘削工事															
工場棟本体工事															
外構工事															
無負荷調整															
負荷試運転															
後工															
バックホー	ミニ	0.9	6.3												
バックホー	0.02m³	1.1	6.3												
バックホー	0.025m³	1.1	6.3												
バックホー	0.06m³	2.8	6.3								6	3			
バックホー	0.066m³	2.4	6.3												
バックホー	0.08m³	3.1	6.3												
バックホー	0.09m³	3.1	6.3										3	20	
バックホー	0.1m³	3.8	6.3												13
バックホー	0.12m³	4.0	6.3												
バックホー	0.15m³	4.3	6.3					1							
バックホー	0.16m³	4.3	6.3												
バックホー	0.2m³	6.3	6.3									8			
バックホー	0.25m³	11	6.3					14	4				6		
バックホー	0.4m³	11	6.3												
バックホー	0.45m³	11	6.3												31
バックホー	0.5m³	17	6.3												
バックホー	0.7m³	20	6.3					19	22	2	58	31	9	32	89
バックホー	0.75m³	20	6.3												
バックホー	0.8m³	23	6.3												1
バックホー	0.9m³	31	6.3												
バックホー	1.2m³	41	6.3						5			7		6	17
バックホー	1.6m³	41	6.3						5				1	5	
バックホー	1.8m³	41	6.3												2
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ	1.5 t	0.96	6.3												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ	2 t	1.1	6.3												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ	2.5 t	1.4	6.3												
ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ	9 t	12	5.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	5t	11	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	10t	11	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	13t	11	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	16t	15	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	20t	15	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	25t	17	6.0						4		13	3	12	7	3
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	50t	22	6.0						1	2			3		
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	60t	25	6.0								2		1	3	
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	65t	25	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	70t	25	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	75t	25	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	80t	24	6.0												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ	85t	24	6.0												
ﾚｯｶｰ	25t	7.1	6.2												
ﾚｯｶｰ	50t	11	6.2												
ﾛｰﾗｰ	3t	3.2	4.0												
ﾛｰﾗｰ	10t	16.0	4.0												
10 t ﾏｶﾆｯｸﾀ	10t	5.5	6.2												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ	6.0m級	14	5.0					2							
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ	4.5m級	14	5.0												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ	6.5m級	18	5.0												
オーガー	-	9	5.8												
ﾗﾄｸﾚｰﾝ	4.9t	1.4	5.7												
アポロン	25 t	17	6.0												4
杭打機	ｸﾛｰﾗ式	14	6.2												
ｸﾗﾑｼｪﾙ	0.6m³	13	6.2												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	4.9 t	3.0	6.1												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	25 t	8.5	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	65 t	16	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	75 t	16	5.8												23
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	90 t	18	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	100 t	18	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	120 t	18	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	200 t	21	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	220 t	21	5.8												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ	350 t	24	5.8												
高所作業車	3.2m	4.2	5.2												
ショベル	0.2m³	6.3	6.3												13
タイヤローラー	20 t	6	5.4												
ﾀﾞﾝﾌﾟ	2 t	3.8	5.9												
ﾀﾞﾝﾌﾟ	4 t	5.8	5.9												
ﾀﾞﾝﾌﾟ	10 t	11	5.9												
軽ﾀﾞﾝﾌﾟ	0.35 t	2.7	4.7												
ポンプ車	30m³	8	6.9												
ﾀﾜｰｸﾚｰﾝ 吊上16.7t	21m	4	6.0												
月消費量（kL/月）								3.5	6.2	0.5	9.0	6.4	3.6	8.4	22.1
年消費量（kL/年）				59.8											

工事名・重機 ＼ 年度・月 経過月数	平成30年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施設計												
仮設準備工事												
解体・撤去工事												
汚染土壌掘削等対策工事												
杭打・掘削工事												
工場棟本体工事												
外構工事												
無負荷調整												
負荷試運転												
後工												
バックホー ミニ												
バックホー 0.02m³												
バックホー 0.025m³												
バックホー 0.06m³	1	4	1	8					1			
バックホー 0.066m³												
バックホー 0.08m³	1											
バックホー 0.09m³												
バックホー 0.1m³	5	6	1			1				2		
バックホー 0.12m³	1											
バックホー 0.15m³	6	11	14	21					11	50	44	55
バックホー 0.16m³									6			
バックホー 0.2m³												
バックホー 0.25m³	9	6	4	3		1						
バックホー 0.4m³		6	4	8	3				4			
バックホー 0.45m³	11	8	13	24	54	36	81	29	19			
バックホー 0.5m³		2	1									
バックホー 0.7m³	51	24	34	68	8	39	52	64	71	71	50	90
バックホー 0.75m³	2			3		1						
バックホー 0.8m³		1	2									
バックホー 0.9m³												
バックホー 1.2m³	7											
バックホー 1.6m³												
バックホー 1.8m³												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 1.5 t												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2 t												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2.5 t												
ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ 9 t		9	3	2								
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 5t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 10t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 13t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 16t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 20t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 25t					2		6	3	1	13	11	13
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 50t	2		8	1		1	1	18	1			
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 60t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 65t								3	4	18	11	24
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 70t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 75t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 80t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 85t												
ﾚｯｶｰ 25t												
ﾚｯｶｰ 50t												
ﾛｰﾗｰ 3t	6	15	9	15					2			
ﾛｰﾗｰ 10t												
10 t ﾏｶﾆｯｸﾀ 10t			4									
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.0m級												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 4.5m級												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.5m級												
オーガー -												
ﾗﾄｸﾚｰﾝ 4.9t												
アポロン 25 t	6	4						14				
杭打機 ｸﾛｰﾗ式					5	24	47	26	13			
ｸﾗﾑｼｪﾙ 0.6m³										3	4	7
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 4.9 t										1	5	6
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 25 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 65 t				1								
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 75 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 90 t				12	23	1						2
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 100 t						15	27	1				
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 120 t					17	25	27	26	35	22	25	26
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 200 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 220 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 350 t												
高所作業車 3.2m				2					2			
ショベル 0.2m³	2											
タイヤローラー 20 t												
ﾀﾞﾝﾌﾟ 2 t												
ﾀﾞﾝﾌﾟ 4 t												
ﾀﾞﾝﾌﾟ 10 t												
軽ﾀﾞﾝﾌﾟ 0.35 t												
ポンプ車 30m³												
ﾀﾜｰｸﾚｰﾝ 吊上16.7t 21m												
月消費量（kL/月）	11.2	6.4	8.0	13.9	9.6	14.3	22.0	20.0	16.9	15.7	13.5	21.1
年消費量（kL/年）	172.8											

工事名・重機 ＼ 年度・月 経過月数	令和元年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施設計												
仮設準備工事												
解体・撤去工事												
汚染土壌掘削等対策工事												
杭打・掘削工事												
工場棟本体工事												
外構工事												
無負荷調整												
負荷試運転												
後工												
バックホー ミニ								2				
バックホー 0.02m³									2			
バックホー 0.025m³												
バックホー 0.06m³												
バックホー 0.066m³												
バックホー 0.08m³												
バックホー 0.09m³												
バックホー 0.1m³	24			2				3	2			
バックホー 0.12m³												
バックホー 0.15m³		29	10	2				4				1
バックホー 0.16m³												
バックホー 0.2m³											6	12
バックホー 0.25m³				2					6	1	12	2
バックホー 0.4m³		1		1				2		1		1
バックホー 0.45m³	3	22	10	8	8		1	1	6	7	11	3
バックホー 0.5m³		1						1				
バックホー 0.7m³	50	55	1	13	9		20	9	20			
バックホー 0.75m³												
バックホー 0.8m³												
バックホー 0.9m³				1								
バックホー 1.2m³												
バックホー 1.6m³												
バックホー 1.8m³												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 1.5 t				3								
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2 t					3							
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2.5 t						3						
ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ 9 t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 5t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 10t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 13t			1	1			2				1	3
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 16t									1			1
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 20t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 25t	7	5	5	7	14	7	9	12	20	22	40	17
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 50t				1					3	3		
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 60t	1					1	1					
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 65t	2	1	27	23	33	45	19		21	16	31	41
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 70t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 75t										6		
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 80t				2	3	7	21	2				1
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 85t				5	1							1
ﾚｯｶｰ 25t												2
ﾚｯｶｰ 50t												
ﾛｰﾗｰ 3t	3	6						6				1
ﾛｰﾗｰ 10t								5				
10 t ﾏｶﾆｯｸﾀ 10t												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.0m級												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 4.5m級												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.5m級												
オーガー -												
ﾗﾄｸﾚｰﾝ 4.9t												
アポロン 25 t												
杭打機 ｸﾛｰﾗ式												
ｸﾗﾑｼｪﾙ 0.6m³												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 4.9 t	3											
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 25 t							1					
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 65 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 75 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 90 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 100 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 120 t	29	24	29	25	29	28	40	72	55	53	55	79
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 200 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 220 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 350 t					3	23	31	28	28	20	26	25
高所作業車 3.2m				3								
ショベル 0.2m³		1	1	1								
タイヤローラー 20 t		2	7	3								
ﾀﾞﾝﾌﾟ 2 t												
ﾀﾞﾝﾌﾟ 4 t												
ﾀﾞﾝﾌﾟ 10 t						1			1			
軽ﾀﾞﾝﾌﾟ 0.35 t												
ポンプ車 30m³	1	2	5	5	8		1	1				1
ﾀﾜｰｸﾚｰﾝ 吊上16.7t 21m					27	25	25	26	25	27	23	17
月消費量（kL/月）	12.7	13.3	5.6	11.6	11.7	13.6	22.8	18.5	19.4	15.5	20.6	21.7
年消費量（kL/年）	187.1											

工事名・重機 ＼ 年度・月 経過月数	令和2年度 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施設計												
仮設準備工事												
解体・撤去工事												
汚染土壌掘削等対策工事												
杭打・掘削工事												
工場棟本体工事												
外構工事												
無負荷調整												
負荷試運転												
後工												
バックホー ミニ												
バックホー 0.02m³											1	
バックホー 0.025m³											31	52 43
バックホー 0.06m³												
バックホー 0.066m³											17	50 35
バックホー 0.08m³										1		
バックホー 0.09m³												
バックホー 0.1m³				11						1		2
バックホー 0.12m³												
バックホー 0.15m³			15	24	22	24	46	34	11			
バックホー 0.16m³												
バックホー 0.2m³	4		22	24	22	24	50	33	9	1		
バックホー 0.25m³	7	16	25	24	22	24	61	38	11	3		
バックホー 0.4m³			1					1				4
バックホー 0.45m³	17	21	24	60	22	25	33	32	1			
バックホー 0.5m³												
バックホー 0.7m³	6	3	2	3	2	2	10			10		
バックホー 0.75m³												
バックホー 0.8m³												
バックホー 0.9m³												
バックホー 1.2m³												
バックホー 1.6m³												
バックホー 1.8m³												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 1.5 t												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2 t												
ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 2.5 t												
ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ 9 t												
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 5t								1				
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 10t						1						
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 13t	7	2	6	2	2	3				1		2
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 16t				5	10	18	4					
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 20t			1									
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 25t	14	28	24	5	8	9	4	2				
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 50t				3	2			1				
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 60t	1			1								
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 65t	41	26	29	21	20	29	14	1	1			
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 70t					1							
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 75t				4								
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 80t	21	29	30	18	19	12	1					
ﾗﾌﾃﾚﾝｸﾚｰﾝ 85t		7	3	3		2						
ﾚｯｶｰ 25t												
ﾚｯｶｰ 50t					1							
ﾛｰﾗｰ 3t					1		13	16	5			
ﾛｰﾗｰ 10t							12	16	5			
10 t ﾏｶﾆｯｸﾀ 10t												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.0m級												
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 4.5m級								4	3			1
ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｨﾆｯｼｬｰ 6.5m級								1	2			
オーガー -	1											
ﾗﾄｸﾚｰﾝ 4.9t			1									
アポロン 25 t												
杭打機 ｸﾛｰﾗ式												
ｸﾗﾑｼｪﾙ 0.6m³												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 4.9 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 25 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 65 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 75 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 90 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 100 t												
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 120 t	33	27										
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 200 t	22	20	25	26								
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 220 t				6								
ｸﾛｰﾗｰｸﾚｰﾝ 350 t	25											
高所作業車 3.2m												
ショベル 0.2m³												
タイヤローラー 20 t					1							
ﾀﾞﾝﾌﾟ 2 t											22	26 6
ﾀﾞﾝﾌﾟ 4 t											1	
ﾀﾞﾝﾌﾟ 10 t												
軽ﾀﾞﾝﾌﾟ 0.35 t											11	25 23
ポンプ車 30m³												
ﾀﾜｰｸﾚｰﾝ 吊上16.7t 21m	27	21	14									
月消費量（kL/月）	24.1	20.8	20.4	20.4	12.9	14.4	15.0	9.3	2.4	2.8	2.0	1.7
年消費量（kL/年）	146.2											

注）燃料消費量及び稼働時間については、「令和元年度版　建設機械等損料表」（（財）日本建設機械化協会）より引用した。
注）各工事欄において黒字は環境影響評価書段階での予定工程を、赤字は令和２年度までの実施の工事工程を示す。

表　建設機械の稼働に伴う燃料使用量（環境影響評価書段階）

単位:台／日

年度・月 経過月数 / 工事名・重機		燃料消費量	稼働時間	平成29年度												平成30年度												平成31年度												平成32年度											
		l/h	h/日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施設計																																																			
仮設準備工事																																																			
解体・撤去工事																																																			
汚染土壌掘削等対策工事																																																			
杭打・掘削工事																																																			
工場棟本体工事																																																			
外構工事																																																			
無負荷調整																																																			
負荷試運転																																																			
竣工																																																			
バックホウ	0.25m³	7.2	6.3						1	1			2	2	2	2	2	4	8	8	8	8	8	2	6	4	4	4	4	4	4		2										2	2	2	2	2				
バックホウ	0.45m³	11	6.3						1				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																										
バックホウ	0.7m³	18	6.3						2	1	1	2	6	6	5	6	4	4	8	8	8	8	8	2	6	4	4	4	4	4	4		2										2	2	2	2	2				
バックホウ	1.2m³	29	6.3							1	1		1	1	1																																					
バックホウ	1.6m³	29	6.3							1	1		1	1	1																																					
杭引抜機	ｸﾛｰﾗ式	8.9	6.2												1	1	1																																		
トラッククレーン	25t	7.1	6.2						1	3	5	1	6	6	6	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4						
トラッククレーン	50t	11	6.2													1	1															2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2						
トラッククレーン	80t	16	6.2																													2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1						
バイブロハンマー	60kW	71	5.9							1	1	1														1	1																									
クローラクレーン	50t	12	5.8							1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1																									
クローラクレーン	200t	21	5.8																													4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2						
杭打ち機	ｸﾛｰﾗ式	8.9	6.2															2	4	4	2																														
コンクリートポンプ車	30m³	8.0	6.9																														2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1				
振動ローラー	10t	12	4.3																																										1	1	1				
タイヤローラー	20t	7.1	5.4																																										1	1	1				
アスファルトフィニッシャー	7t=4.5m	5.9	5.0																																										1	1	1				
日消費量（kL/日）				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.39	1.14	1.19	0.76	1.68	1.68	1.62	1.30	1.08	1.20	1.94	1.94	1.83	1.72	1.72	0.77	1.41	1.26	1.26	0.72	0.72	0.72	0.72	0.95	1.38	1.06	1.06	1.06	1.06	1.06	1.06	1.06	1.01	1.01	1.33	1.08	1.20	0.49	0.49	0.00	0.00	0.00	0.00
月消費量（kL/月）（平均25日/月稼働）				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.6	28.6	29.7	19.0	42.0	42.0	40.5	32.6	26.9	30.0	48.6	48.6	45.9	43.1	43.1	19.3	35.2	31.4	31.4	18.1	18.1	18.1	18.1	23.9	34.5	26.6	26.6	26.6	26.6	26.6	26.6	26.6	25.3	25.3	33.2	27.1	30.1	12.3	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0
年消費量（kL/年）				211.4												436.0												290.4												192.1											

注）燃料消費量及び稼働時間については、「平成26年度版　建設機械等損料表」（（財）日本建設機械化協会）より引用した。

資料５　一般環境中の放射性物質

一般環境中の放射性物質の測定結果を次頁以降に示す。

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成29年9月11日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　森、竹下					
測定結果	0.04　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04
左側面	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
右側面	0.04	0.04	0.04	0.05	0.05	0.04
後面	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04
車両ナンバー	群馬11 す20-16	群馬11 り20-16	群馬11 ら20-16	群馬11 す20-16	群馬11 り20-16	－
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成29年11月28日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　森、丸山					
測定結果	単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.04	0.04	0.03	0.07	0.03	0.04
左側面	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.05
右側面	0.05	0.04	0.05	0.05	0.04	0.05
後面	0.04	0.03	0.05	0.04	0.04	0.04
車両ナンバー	熊谷130 あ37-77	熊谷130 う21-33	熊谷100 は83-71	熊谷130 す35-81	群馬132 て11-88	－
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成29年11月28日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　森、丸山					
測定結果	0.05　　単位：μSv/h					
測定地点	６台目	７台目	８台目	台目	台目	平　均
前面	0.05	0.04	0.05			0.04
左側面	0.05	0.03	0.06			0.05
右側面	0.06	0.05	0.04			0.05
後面	0.06	0.06	0.04			0.05
車両ナンバー	熊谷130 あ37-77	熊谷130 う21-33	熊谷100 は83-71			
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年2月7日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　森、竹下					
測定結果	0.04　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.05	0.05	0.04	0.04	0.05	0.05
左側面	0.04	0.04	0.05	0.03	0.05	0.04
右側面	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04
後面	0.05	0.04	0.05	0.04	0.04	0.04
車両ナンバー	群馬100 は80-96	群馬100 は82-30	熊谷130 す37-77	熊谷130 せ21-33	群馬100 は80-96	－
表面線量率（参考）	0.04 （μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年3月27日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　森、竹下					
測定結果	0.04　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
左側面	0.05	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04
右側面	0.04	0.04	0.03	0.05	0.04	0.04
後面	0.05	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04
車両ナンバー	群馬130 え10-30	群馬130 え10-25	群馬130 そ10-16	熊谷130 い10-21	群馬130 さ10-09	－
表面線量率（参考）	0.04 （μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年4月25日			天候	雨	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　竹下、田中					
測定結果	0.05　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05
左側面	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06	0.05
右側面	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05
後面	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05
車両ナンバー	群馬100 は83-70	群馬100 は83-71	群馬132 て・・-88	群馬100 は82-30	群馬100 は80-36	－
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年5月21日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　竹下					
測定結果	0.05　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.03	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05
左側面	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05
右側面	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
後面	0.05	0.05	0.05	0.05	0.06	0.05
車両ナンバー	群馬130 す20-21	群馬100 は65-11	群馬130 つ・・-30	栃木11 は52-16	群馬11 り36-20	－
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年6月26日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　竹下					
測定結果	0.04　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.04
左側面	0.05	0.03	0.04	0.05	0.04	0.04
右側面	0.04	0.03	0.03	0.05	0.04	0.04
後面	0.04	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03
車両ナンバー	群馬130 す51-15	群馬11 り62-30	群馬11 り80-13	群馬11 り30-29	群馬11 り35-30	－
表面線量率（参考）	0.04　（μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					

残土等搬出時における空間線量率測定記録

運搬場所の住所、施設名	住　所：群馬県太田市細谷町６０４番地１ 施設名：太田市外三町広域一般廃棄物処理施設建設工事現場					
空間線量率の測定年月日	平成30年7月20日			天候	晴	
車両の種類	ダンプトラック					
測定した機器の メーカー名、型式名	メーカー名：㈱日立製作所 型　　式　：TCS-1172					
測定者名	㈱日建技術コンサルタント　竹下					
測定結果	0.03　　単位：μSv/h					
測定地点	１台目	２台目	３台目	４台目	５台目	平　均
前面	0.04	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03
左側面	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
右側面	0.02	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03
後面	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
車両ナンバー	群馬11 り80-13	熊谷100 は49-32	群馬100 は・150	群馬100 は87-03	群馬100 は・694	－
表面線量率（参考）	0.04 （μSv/h）					
廃棄物の種類	土壌					